

明治三十七年四月一日  
法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル記名ノ國債ヲ目的トスル實權ノ設定ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
民法第三百六十四條第一項ノ規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適用セス

### ● 年齡計算ニ關スル法律

明治三十五年十二月二日  
法律第五十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齡計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
民法第四百十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス  
明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

### ● 軍人軍屬ノ遺言ノ確認ニ關スル法律

明治三十三年二月七日  
法律第十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 民法第七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

- 一 陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衛團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若其ノ軍法會議ノ設置ナク若ハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ
- 二 海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衛團隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若遺言ヲ爲シタル者カ艦船乘込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第二條 民法第八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條 民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十一條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第九條第二項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ録事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限

〔朝〕

ニ在ラス

### ● 救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律

明治三十三年三月十三日  
法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 公設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ所長後見人ノ職務ヲ行フ  
私設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ救育所所在地ノ地方長官ニ於テ後見人ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ指定ス

第二條 前條ニ依ル後見人ノ職務執行ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 救育所ニ在ル未成年者ニシテ孤兒ニ非サル者ト雖本法ノ規定ヲ準用スヘキモノハ主務大臣之ヲ定ム

#### 附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 信託法

大正十一年四月二十一日  
法律第六十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 信託法

第一條 本法ニ於テ信託ト稱スルハ財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財產ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

第二條 信託ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 登記又ハ登録スヘキ財產權ニ付テハ信託ハ其ノ登記又ハ登録ヲ爲スニ非サルハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條 受託者ハ信託行爲ノ定ムル所ニ從ヒ信託財產ノ管理又ハ處分ヲ爲旨ヲ記載スルニ非サルハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス



スコトヲ要ス

第五條 未成年者、禁治産者、準禁治産者及破産者ハ受託者ト爲ルコトヲ得ス

妻カ信託ノ引受ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス  
民法第十四條第二項及第十五條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 信託ノ引受ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第七條 信託行爲ニ依リ受益者トシテ指定セラレタル者ハ當然信託ノ利益ヲ享受ス但シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アル場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託管理人ヲ選任スルコトヲ得但シ信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

信託管理人ハ前項ノ受益者ノ爲自己ノ名ヲ以テ信託ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
裁判所ハ事情ニ依リ信託財産ヨリ相當ノ報酬ヲ信託管理人ニ與フルコトヲ得

第九條 受託者ハ共同受益者ノ一人タル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十條 法令ニ依リ或財産權ヲ享有スルコトヲ得サル者ハ受益者トシテ其ノ權利ヲ有スルト同一ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十一條 信託ハ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ニ付テハ信託財産ノ限度ニ於テノミ其ノ履行ノ責ニ任ス

第二十條 受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス

第二十一條 信託財産ニ屬スル金錢ノ管理方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託財産ヲ固有財産ト爲シ又ハ之ニ付權利ヲ取得スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケ信託財産ヲ固有財産ト爲スハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ受託者カ相續其ノ他包括名義ニ因リ信託財産ニ付權利ヲ承繼スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ニ因リ信託財産ノ管理方法カ受益者ノ利益ニ適セサルニ至リタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者又ハ受託者ハ其ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ裁判所ノ定メタル管理方法ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 受託者數人アルトキハ信託財産ハ其ノ合有トス  
前項ノ場合ニ於テ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外信託事務ノ處理ハ受託者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ他ノ受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第二十五條 受託者數人アルトキハ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ハ之ヲ連帶トシ信託事務ノ處理ニ付負擔スル債務亦同シ

第十二條 債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權者ハ受託者カ善意ナルトキト雖民法第四百二十四條第一項ニ規定スル取消權ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ受益者カ既ニ受ケタル利益ニ影響ヲ及ボサス但シ受益者ノ債券カ辨濟期ニ到ラサルトキ又ハ受益者カ其ノ利益ヲ受ケタル當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 受託者ハ信託財産ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス  
前項ノ規定ハ金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ付之ヲ準用ス

第十四條 信託財産ノ管理、處分、滅失、毀損其ノ他ノ事由ニ因リ受託者ノ得タル財産ハ信託財産ニ屬ス

第十五條 信託財産ハ受託者ノ相續財産ニ屬セス

第十六條 信託財産ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シタル權利又ハ信託事務ノ處理ニ付生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外信託財産ニ對シ強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル強制執行又ハ競賣ニ對シテハ受託者、其ノ相續人、受益者及受託者ハ異議ヲ主張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 信託財産ニ屬スル債權ト信託財産ニ屬セサル債務トハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 信託財産カ所有權以外ノ權利ナル場合ニ於テハ受託者カ其ノ得タル財産ヲ取得スルモ其ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スルコトナシ

第二十六條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ他人ヲシテ自己ニ代リテ信託事務ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ受託者ハ選任及監督ニ付テノミ其ノ責ニ任ス信託行爲ニ依リ他人ヲシテ信託事務ヲ處理セシメタルトキ亦同シ

受託者ニ代リテ信託事務ヲ處理スル者ハ受託者ト同一ノ責任ヲ負フ

第二十七條 受託者カ管理ノ失當ニ因リテ信託財産ニ損失ヲ生シメタルトキ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者及他ノ受託者ハ其ノ受託者ニ對シ損失ノ填補又ハ信託財産ノ復舊ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 信託財産ハ固有財産及他ノ信託財産ト分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス但シ信託財産タル金錢ニ付テハ各別ニ其ノ計算ヲ明ニスルヲ以テ足ル

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ受託者カ前條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ管理シタル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ信託財産ニ損失ヲ生シタルトキハ受託者ハ分別シテ管理ヲ爲シタル場合ニ於テモ損失ヲ生スヘカリシコトヲ證明スルニ非サルハ不可抗力ヲ理由トシテ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十條 信託財産ニ付附合、混和又ハ加工アリタル場合ニ於テハ各信託財産及固有財産ハ各別ノ所有者ニ屬スルモノト看做シ民法第二百四十二條乃至第二百四十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ受益者ハ相手方又ハ轉得者ニ對シ其ノ處分ヲ取消スコトヲ得但シ信託ノ登



記若ハ登録アリタルトキ又ハ登記若ハ登録スヘカラサル信託財産ニ付テハ相手方及轉得者ニ於テ其ノ處分カ信託ノ本旨ニ反スルコトヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキニ限ル

第三十二條 受益者數人アル場合ニ於テ其ノ一人カ前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ他ノ受益者ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

第三十三條 第三十一條ニ規定スル取消權ハ受益者又ハ信託管理人カ取消ノ原因アルコトヲ知リタル時ヨリ一月内ニ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス處分ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十四條 受託者タル法人カ其ノ任務ニ背キタルトキハ之ニ干與シタル理事又ハ之ニ準スヘキ者亦連帶シテ其ノ責ニ任ス

第三十五條 受託者ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外特約アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第三十六條 受託者ハ信託財産ニ關シテ負擔シタル租税、公課其ノ他ノ費用又ハ信託事務ヲ處理スル爲自己ニ過失ナクシテ受ケタル損害ノ補償ニ付テハ信託財産ヲ賣却シ他ノ權利者ニ先チテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得受託者ハ受益者ニ對シ前項ノ費用又ハ損害ニ付其ノ補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ受益者カ不特定ナルトキ及未タ存在セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 前條ノ規定ハ受益者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル受託者ノ權利ハ受託者カ第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル損失ノ填補及信託財産復舊ノ義務ヲ

第四十四條 信託行爲ニ依リ特定ノ資格ニ基キ受託者ト爲リタル者其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス

第四十五條 第四十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ任務終了シタル者ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄仍受託者ノ權利義務ヲ有ス

第四十六條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ受託者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第四十七條 受託者カ其ノ任務ニ背キタルトキ其ノ他重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ委託者、其ノ相續人又ハ受益者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ得

第四十八條 第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ受託者其ノ任務ヲ辭シ又ハ解任セラレタルトキハ裁判所ハ信託財産ノ管理人ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十九條 受託者ノ任務終了ノ場合ニ於テハ利害關係人ハ新受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ遺言ニ依リ受託者トシテ指定セラレタル者カ信託ノ引受ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第五十條 受託者ノ更迭アリタルトキハ信託財産ハ前受託者ノ任務終了ノ時ニ於テ新受託者ニ讓渡サレタルモノト看做ス

受託者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ任務終了シタルトキハ信託財産ハ當然他ノ受託者ニ歸ス

第五十一條 第二十七條又ハ第二十九條ニ規定スル權利ハ新受託者亦之ヲ

履行シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十九條 受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要ス

受託者ハ信託引受ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ各信託ニ付財産目録ヲ作ルコトヲ要ス

第四十條 利害關係人ハ何時ニテモ前條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

委託者、其ノ相續人及受益者ハ信託事務ノ處理ニ關スル書類ノ閱覽ヲ請求シ且信託事務ノ處理ニ付説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 信託事務ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託事務ノ處理ニ付檢査ヲ爲シ且檢査役ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十二條 受託者カ死亡シタルトキ又ハ破産、禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス受託者タル法人カ解散シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ受託者ノ相續人、其ノ法定代理人、破産管財人、後見人、保佐人又ハ清算人ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄信託財産ヲ保管シ且信託事務ノ引繼ニ必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ要ス法人合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存続スル法人亦同シ

第四十三條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外受益者及委託者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス

行フコトヲ得

第五十二條 受託者ノ更迭アリタルトキハ新受託者ハ前受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ第五十條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

信託事務ノ處理ニ付生シタル債權ハ信託財産ノ限度ニ於テ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

第五十三條 信託財産ニ對スル強制執行又ハ競賣手續ハ新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得

第五十四條 前受託者ハ第三十六條第一項ニ規定スル費用若ハ損害ノ補償ヲ受クル權利又ハ第三十七條ニ規定スル報酬ヲ受クル權利ニ基キ新受託者ニ對シ信託財産ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得

前受託者ハ前項ノ權利ヲ行フ爲信託財産ヲ留置スルコトヲ得

第五十五條 受託者更迭ノ場合ニ於テハ信託事務ノ計算ヲ爲シ受益者又ハ信託管理人ノ立會ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲スコトヲ要ス

受益者又ハ信託管理人カ前項ノ計算ヲ承認シタルトキハ前受託者ノ其ノ受益者ニ對スル引繼ニ關スル責任ハ之ニ因リテ解除セラレタルモノト看做ス但シ不正ノ行爲アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 信託行爲ヲ以テ定メタル事由發生シタルトキ又ハ信託ノ目的ヲ達シ若ハ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ信託ハ之ニ因リテ終了ス

第五十七條 委託者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テハ委託者又ハ其ノ相續人ハ何時ニテモ信託ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第六百五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス



第五十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外受益者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場

合ニ於テ信託財産ヲ以テスルニ非サレハ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサ

ルトキ其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ハ受益者又ハ利害

關係人ノ請求ニ因リ信託ノ解除ヲ命スルコトヲ得

第五十九條 第五十七條及前條ノ規定ニ拘ラス信託ノ解除ニ關シ信託行爲

ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第六十條 信託ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第六十一條 第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ信託カ解除セラレタ

ルトキハ信託財産ハ受益者ニ歸屬ス

第六十二條 信託終了ノ場合ニ於テ信託行爲ニ定メタル信託財産ノ歸屬權

利者ナキトキハ其ノ信託財産ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス

第六十三條 信託終了ノ場合ニ於テ信託財産カ其ノ歸屬權利者ニ移轉スル

迄ハ仍信託ハ存續スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ歸屬權利者ヲ受益

者ト看做ス

第六十四條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産

カ受益者其ノ他ノ者ニ歸屬シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 信託終了ノ場合ニ於テハ委託者ハ信託事務ノ最終ノ計算ヲ爲

シ受益者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ

規定ヲ準用ス

第六十六條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其ノ他公益ヲ目的トスル信託

ハ之ヲ公益信託トシ其ノ監督ニ付テハ後六條ノ規定ヲ適用ス

第六十七條 公益信託ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第六十八條 公益信託ノ引受ニ付テハ委託者ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルコ

トヲ要ス

第六十九條 主務官廳ハ何時ニテモ公益信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且

財產ノ供託其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

受託者ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ信託事務及財產ノ狀況ヲ公告スルコ

トヲ要ス

第七十條 公益信託ニ付信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事

情ヲ生シタルトキハ主務官廳ハ信託ノ本旨ニ反セサル限り信託ノ條項ノ

變更ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 公益信託ノ受託者ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り主

務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第七十二條 公益信託ニ付テハ第八條第一項第三項、第二十二條第一項但

書及第四十七條乃至第四十九條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ主務官廳ニ屬

ス但シ第四十七條及第四十九條ニ規定スル權限ニ付テハ職權ヲ以テ之ヲ

行フコトヲ得

第七十三條 公益信託終了ノ場合ニ於テ信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ

主務官廳ハ其ノ信託ノ本旨ニ從ヒ類似ノ目的ノ爲ニ信託ヲ繼續セシムル

コトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行)

有價證券ノ信託財産表示及信託財産ニ屬スル金錢ノ管理ニ關スル件

昭和六年九月十七日 朝鮮總督府令第百十六號

有價證券ノ信託財産表示及信託財産ニ屬スル金錢ノ管理ニ關スル件左ノ通

定ム

第一條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第三條第二項ノ規定

ニ依ル信託財産ナルコトノ表示ハ委託者又ハ受託者ノ請求ニ依リ國債、

地方債、社債又ハ株式ニ付テハ發行者、公證人又ハ公證人ノ職務ヲ行フ

官吏、其ノ他ノ有價證券ニ付テハ公證人又ハ公證人ノ職務ヲ行フ官吏之

ヲ爲ス

第二條 公證人又ハ公證人ノ職務ヲ行フ官吏前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ

信託表示簿ニ證券ノ種類及番號並ニ依託者及受託者ノ氏名ヲ記載シ證券

ニハ信託財産ナルコト及登簿番號ヲ記載シテ日附アル印章ヲ捺捺シ尙其

ノ印章ヲ以テ信託表示簿ト證券トニ割印ヲ爲スベシ

信託表示簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求願ヲ以テ前項ノ規定ニ從ヒ記

入ヲ爲スコトヲ要ス

信託表示簿ニハ地方法院長其ノ紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ

職印ヲ捺捺シ且職印ヲ以テ毎紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 發行者第一條ノ請求ヲ受ケタルトキハ證券ニ信託財産ナルコトヲ

記載シ其ノ年月日ヲ附記シ記名捺印スベシ

第四條 第一條、第二條第一項及前條ノ規定ハ受託者ガ信託財産ナルコト

ノ表示ノ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 一八七

前項ニ規定スル表示ノ抹消ハ受益者モ亦之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ其ノ事由ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第五條 信託財産ニ屬スル金錢ノ運用ハ信託行爲ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタ

ル場合ヲ除クノ外左ノ方法ニ依ルコトヲ要ス但シ受託者ガ信託會社ナル

トキハ此ノ限ニ在ラズ

一 國債、地方債及特別ノ法令ニ依リテ設立シタル會社ノ社債ノ應募、

引受又ハ買入

二 國債其ノ他前號ニ掲グル有價證券ヲ擔保トスル貸付

三 郵便貯金

四 銀行又ハ金融組合ヘノ預金

附則

本令ハ昭和六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

信託表示簿及日附アル印章調製ニ關スル件

昭和六年九月十七日 朝鮮總督府令第百十七號

信託表示簿及日附アル印章調製ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 公證人役場又ハ地方法院(支廳、出張所)ニ備フベキ信託表示簿及日

附アル印章ハ附屬雜形ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二條 公證人ニ於テ信託表示簿ヲ調製シタルトキハ之ヲ記入前管轄地方

法院長ニ差出スベシ

公證人ノ職務ヲ行フ官吏ニ於テ使用スベキ信託表示簿ハ地方法院ニ於テ







消 抹		請求人ノ氏名
印	及 割	アル
日	附	抹
消 抹		請求人ノ氏名
印	及 割	アル
日	附	抹

日附アル印章雛形



外圓徑 三センチメートル  
内圓徑 一・五センチメートル



同 同  
上 上

### ●身元保証ニ關スル法律

昭和八年四月一日  
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル身元保証ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

**第一條** 引受、保證其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ期間ヲ定メズシテ被用者ノ行為ニ因リ使用者ノ受ケタル損害ヲ賠償スルコトヲ約スル身元保証契約ハ其ノ成立ノ日ヨリ三年間其ノ效力ヲ有ス但シ商工業見習者ノ身元保証契約ニ付テハ之ヲ五年トス

**第二條** 身元保証契約ノ期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ズ若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ五年ニ短縮ス  
身元保証契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ズ

**第三條** 使用者ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク身元保証人ニ通知スベシ  
一 被用者ニ業務上不適任又ハ不誠實ナル事跡アリテ之ガ爲身元保証人ノ責任ヲ惹起スル虞アルコトヲ知リタルトキ  
二 被用者ノ任務又ハ任地ヲ變更シ之ガ爲身元保証人ノ責任ヲ加重シ又ハ其ノ監督ヲ困難ナラシムルトキ

**第四條** 身元保証人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ將來ニ向テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得身元保証人自ラ前條第一號及第二號ノ事實アリタルコトヲ知リタルトキ亦同ジ

**第五條** 裁判所ハ身元保証人ノ損害賠償ノ責任及其ノ金額ヲ定ムルニ付被用者ノ監督ニ關スル使用者ノ過失ノ有無、身元保証人ガ身元保証ヲ爲ス

ニ至リタル事由及之ヲ爲スニ當リ用キタル注意ノ程度、被用者ノ任務又ハ身上ノ變化其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌ス  
**第六條** 本法ノ規定ニ反スル特約ニシテ身元保証人ニ不利ナルモノハ總テ之ヲ無効トス

**附則**  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第二百四十九號ヲ以テ昭和十年十月一日ヨリ施行)  
本法ハ本法施行前ニ成立シタル身元保証契約ニモ之ヲ適用ス但シ存續期間ノ定ナキ契約ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算シ第一條ノ規定ニ依ル期間其ノ效力ヲ有ス存續期間ノ定アル契約ニ付テハ本法施行當時ニ於ケル殘存期間ヲ約定期間トス若シ此ノ期間ガ五年ヲ超ユルトキハ之ヲ五年ニ短縮ス

### ●外國人土地法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

昭和十一年十二月二十八日  
勅令第四百七十號

朕外國人土地法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國人土地法ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

### ●外國人土地法

大正十四年四月一日  
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國人土地法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

**第一條** 帝國臣民又ハ帝國法人ニ對シ土地ニ關スル權利ノ享有ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スル國ニ屬スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ勅令ヲ以テ帝國ニ於ケル土地ニ關スル權利ノ享有ニ付同一若ハ類似ノ



禁止ヲ爲シ又ハ同一若ハ類似ノ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

第二條 帝國法人又ハ外國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ前條ノ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リテ其ノ外國人又ハ外國法人ト同一ノ國ニ屬スルモノト看做シ前條ノ規定ヲ適用ス

第三條 外國ノ一部ニシテ土地ニ關シ特別ノ立法權ヲ有スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ國ト看做ス

第四條 國防上必要ナル地區ニ於テハ勅令ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ土地ニ關スル權利ノ取得ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

前項ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第五條 帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ前條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ第二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 土地ニ關スル權利ヲ有スル者カ本法ニ依リテ其ノ權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テハ一年內ニ之ヲ讓渡スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ權利ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テ其ノ權利ノ處分ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ土地ニ關スル權利ヲ有スル者ノ相續人其ノ他ノ包括承繼人カ本法ニ依リテ其ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サル場合ニ之ヲ準用ス但シ第一項ノ規定スル期間ハ之ヲ三年トス

第一項及前項ノ規定スル期間ハ通シテ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

第七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十五年勅令第三百三十二號ヲ以テ大正十五年十一月十日ヨリ施行)

第八條 本法ノ施行ニ伴フ不動産登記法ニ關スル特別ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 明治六年第十八號布告及明治四十三年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

第十條 明治三十二年法律第六十七號中「土地ノ抵當權者ナル外國人カ」ヲ「抵當權者カ抵當權ノ目的タル權利ヲ享有スルコトヲ得サル場合ニ於テ」ニ、「抵當不動産」ヲ「抵當權ノ目的タル權利」ニ改ム

第十一條 民法第九百九十九條中「日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合」ヲ「國籍ノ喪失ニ因リテ其有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合」ニ改メ「日本人」ヲ削ル

外國人土地法施行令

大正十五年十一月三日 勅令第三百三十四號

改正 昭和十一年二月第四七號、一五年四月第二六七號 外國人土地法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國人土地法施行令

第一條 外國人土地法第四條第二項ノ規定ニ依リ別表ニ掲グル地域ヲ國防上必要ナル地區ニ指定ス

第二條 外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ハ別表ニ掲グル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得セントスルトキハ地方長官(樺太ニ在リテハ樺太廳長官)ヲ經由シテ陸軍大臣及

〔朝〕

海軍大臣ノ許可ヲ受ケベシ

第三條 帝國臣民又ハ帝國法人ガ別表ニ掲グル地域ニ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ帝國臣民ガ外國人ト爲リ又ハ帝國法人ガ外國人土地法第五條ニ規定スル法人ト爲リタルトキハ六月內ニ前條ノ規定ニ準ジ許可ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第一項ノ期間ハ申請期間満了ノ時又ハ申請却下ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第四條 前條第一項ノ規定ハ外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ガ別表ニ掲グル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ニ付相續其ノ他ノ包括承繼ヲ爲シタルトキニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第三項ノ期間ノ計算ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五條 外國人土地法第五條第二項ノ規定ニ依ル資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ株式會社又ハ株式合資會社ノ無記名株式ノ株券ハ外國人ニ屬スルモノト看做ス

第六條 株式合資會社ニシテ無限責任社員又ハ株主ノ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人トス

第七條 外國人土地法第六條ノ規定ニ依ル土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テ其ノ權利ハ競賣法ニ依リテ之ヲ競賣ニ付ス

第八條 競賣ハ本人若ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條 競賣セラレタル土地ヲ所有シタル外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ガ其ノ土地ノ上ニ建物ヲ所有スルトキハ

競賣人ハ其ノ外國人、外國法人又ハ帝國法人ノ爲ニ建物ノ所有ヲ目的トスル賃借權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ賃借其ノ他ノ賃借借ノ條件ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

第十條 外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ガ別表ニ掲グル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ權利ヲ享有シ得ル者ナルコトヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第十一條 區裁判所競賣開始ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ登記名義人又ハ相續人其ノ他ノ包括承繼人ニ代リ土地ノ表示若ハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續其ノ他ノ包括承繼ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第十二條 朝鮮ニ於テハ第七條中競賣法トアルハ朝鮮民事令、前條第一項中區裁判所トアルハ地方法院又ハ其ノ支廳、同條第二項中不動産登記法トアルハ朝鮮不動産登記令ニ於テ依ルコトヲ定メタル不動産登記法トス

陸軍大臣及海軍大臣別表朝鮮ノ部ニ掲グル地域ニ付第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サントスルトキハ豫メ朝鮮總督ト議スベシ

附則

本令ハ大正十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

(別表) 外國人土地法第四條第二項ノ規定ニ依ル指定地區

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

一九三



東京府

東京市 京橋區、芝區、深川區、品川區、目黒區、荏原區、大森區、蒲田區、澁橋區、杉並區、豊島區、澁野川區、王子區、板橋區、城東區、葛飾區

八王子市

但シ古里村、氷川町、檜原村、小宮村ヲ除ク  
南多摩郡 日野町、小宮町、由井村、加住村、七生村、由木村、多摩村、稻城村

北多摩郡

小笠原島

伊豆七島

京都府

下京區、東山區、伏見區

舞鶴市

東舞鶴市

乙訓郡

大山崎村

宇治郡

久世郡

綴喜郡

但シ田原村、宇治田原村ヲ除ク

相樂郡

但シ加茂町、笠置町、當尾村、瓶原村、西和東村、中和東村、東和東村、大河原村、高山村、湯船村ヲ除ク

加佐郡

但シ加悦町、桑飼村、與謝村ヲ除ク

與謝郡

中郡

竹野郡

上佐濃村、下佐濃村、田村

熊野郡

大阪府

大阪市

此花區、東區(杉山町)、大正區、港區、東淀川區、西淀川區、東成區、旭區、住吉區(北島町、柴谷町)

堺市

布施市

三島郡

高槻町、三箇牧村、五領村、島本村、春日村

泉北郡

濱寺町、大津町、忠岡町

泉南郡

春木町、淡輪村、深日村、孝子村、多奈川村

中河内郡

枚岡町、孔舎衙村、大戸村、英田村、盾津村、玉川村

北河内郡

但シ守口町、三郷町、門眞町、四宮村、大和田村、庭窪村、二島村ヲ除ク

神奈川縣

横濱市

鶴見區、神奈川區(守屋町、惠比須町、寶町)、中區(本牧町、綠町、北方町、根岸町)、磯子區、港北區(下谷本町、成合町、上谷本町、鐵町)、戸塚區(戸塚町、吉田町、矢部町)

横須賀市

川崎市

平塚市

鎌倉市

三浦郡

西彼杵郡

東彼杵郡

北高來郡

北松浦郡

南松浦郡

壹岐郡

下縣郡

上縣郡

新潟縣

新潟市

北蒲原郡

中蒲原郡

西蒲原郡

刈羽郡

中頸城郡

佐渡郡

埼玉縣

浦和市

熊谷市

川口市

北足立郡

大和田町、平方町、三橋村、日進村、大谷村、大石村、川田村

鎌倉郡

高座郡

藤澤町、茅ヶ崎町、上溝町、座間町、新磯村、麻溝村、大澤村、相原村、大野村、綾瀬村、田名村

中郡

愛甲郡

中津村、高峰村、棚澤村

津久井郡

兵庫縣

神戸市

灘區(日出町)、葺合區(脇濱町、脇濱海岸通)、湊東區(東川崎町)、兵庫區、林田區(和田山通、大池町)

尼崎市

洲本市

飾磨市

武庫郡

鳴尾村、大庄村

明石郡

加古郡

印南郡

曾根町、米田町、伊保村

赤穂郡

津名郡

三原郡

長崎縣

長崎市

但シ出島町、廣馬場町、新地町、梅ヶ崎町、東山手町、常盤町、大浦町、松ヶ枝町、南山手町、館内町ヲ除ク

佐世保市



谷村、石戸村、中丸村

入間郡 但シ梅園村、東吾野村、原市場村、南高麗村、名栗村、吾野村ヲ除ク

比企郡 小見野村、八ッ保村、三保谷村、出丸村、東吉見村

大里郡 大麻生村、御正村、幡羅村、三尻村、玉井村、武川村、藤澤村、本島村

群馬縣

高崎市

桐生市

群馬郡 倉賀野町、岩鼻村、瀧川村、元惣社村、豊秋村

多野郡 藤岡町、新町、小野村、八幡村、美土里村、神流村、入野村

佐波郡 玉村町、赤堀村、東村

新田郡 太田町、簗塚本町、強戸村、生品村、綿打村、笠懸村

邑樂郡 館林町、小泉町、六郷村、三野谷村、長柄村、中野村、多々良村、渡瀬村

千葉縣

千葉市

銚子市

市川市

船橋市

館山市

千葉郡

東葛飾郡

長生郡 一宮町、東浪見村、一松村

山武郡 松尾町、横芝町、上堺村、大平村、大總村

香取郡 吉田村、豊和村、古城村、中和村

海上郡 八日市場町、共和村、平和村、椿海村、南條村、東陽村、白濱村、野田村

君津郡 濱村、野田村

安房郡

茨城縣

東茨城郡

但シ右塚町、西郷村、岩船村、澤山村、伊勢畑村ヲ除ク

西茨城郡 宍戸町、北川根村

那珂郡 但シ檜澤村、鹽田村、小瀬村、八里村、隣郷村ヲ除ク

鹿島郡 波崎町、若松村、矢田部村

行方郡

稻敷郡

新治郡

筑波郡

眞壁郡

栃木縣

宇都宮市

那須郡 大田原町、川西町、黒羽町、親園村、湯津上村、兩郷村、鍋掛村、金田村、東那須野村、狩野村

足利郡 吾妻村、久野村、筑波村

奈良縣

生駒郡 生駒町、南生駒村

三重縣

四日市市

宇治山田市

三重郡 楠町、河原田村、日永村、内部村、四郷村、常磐村

河藝郡 白子町、神戸町、稻生村、天名村、榮村、上野村、黒田村、豊津村、白塚村、飯野村、河曲村、一ノ宮村、箕田村、玉垣村、若松村

多氣郡 大淀町、上御絲村、明星村

度會郡 神社町、大湊町、二見町、小俣町、四郷村、濱郷村、御園村、豊濱村、北濱村、有田村

志摩郡

愛知縣

名古屋市 千種區、東區、西區、昭和區、熱田區、港區、南區

豊橋市

半田市

愛知郡 猪高村、長久手村、幡山村

東春日井郡 但シ小牧町、品野町、坂下町、味岡村、篠岡村ヲ除ク

丹羽郡 大山町

知多郡 常滑町、武豊町、内海町、師崎町、豊濱町、河和町、西浦町、小鈴谷村、東浦村、阿久比村、富貴村、篠島村、日間賀島村、野間村

碧海郡 刈谷町、大濱町、高濱町、新川町、棚尾町、依佐美村、旭村、明治村

幡豆郡 幸田村

額田郡 幸田村

西加茂郡 舉母町、高橋村

寶飯郡

渥美郡

靜岡縣

濱松市

田方郡 伊豆長岡町、江間村、内浦村、西浦村、田中村

駿東郡 御殿場町、玉穂村、靜浦村、大平村、須山村、印野村、須走村

富士郡 大淵村、吉永村、富士根村、北山村、上井出村

小笠郡 大淵村、大坂村、三濱村、三俣村、千濱村、池新田村、朝比奈村、南山村、新野村、佐倉村

濱名郡 但シ笠井町、中瀬村、龍池村、豊西村、中ノ町村、赤佐村、和田村、飯田村、芳川村、河輪村、五嶋村ヲ除ク

引佐郡 但シ伊平村、鎮玉村ヲ除ク

山梨縣

甲府市

西山梨郡 千塚村、大宮村

中巨摩郡 玉幡村、敷島村、池田村、田ノ岡村、西條村、常永村、今諏訪村



北五摩郡 鹽崎村

浦生郡 老蘇村、市邊村、櫻川村、玉緒村  
神崎郡 八日市町、御園村、建部村  
愛知郡 西小椋村、豐椋村

高島郡 今津町、廣瀨村、新儀村、鑿庭村

岐阜縣

岐阜市 南長森村、北長森村、鶴沼村、那加村、更木村、前宮村、各務村、蕪原村、岩村

羽島郡 中屋村、上羽栗村

不破郡 關原町、玉村、岩手村、今須村

長野縣

上田市 鹽尻村、神川村、豐里村、殿城村、神科村、依田村、川邊村、小縣郡

宮城縣

仙臺市 柴田郡 但シ村田町、富岡村、川崎村ヲ除ク  
石巻市 伊具郡 角田町、櫻村、北郷村  
名取郡 但シ生田村、秋保村ヲ除ク  
黒川郡

秋田縣 山本郡 能代港町、榑村、淺内村、扇淵村、鶴形村、常盤村、東雲村、塙川村、澤目村  
福井縣 敦賀市 南條郡 河野村、坂口村  
敦賀郡 但シ愛發村ヲ除ク  
三方郡 但シ十村ヲ除ク  
遠敷郡 但シ瓜生村、熊川村、三宅村、松永村、知三村ヲ除ク  
大飯郡

石川縣

七尾市 小松町、牧村、白江村、板津村

能美郡

鹿島郡

鳳至郡

珠洲郡

富山縣

富山市 豐田村

上新川郡

射水郡 伏木町、新湊町、牧野村、堀岡村、能町村

鳥取縣

米子市 東伯郡 下北條村、中北條村、上北條村

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 一九九

加美郡 但シ小野田村、宮崎村ヲ除ク

福島縣

岩瀨郡

鏡石村、廣戸村

耶摩郡

猪苗代町、磐保村、千里村、翁島村

西白河郡

但シ白河町、西郷村、白坂村、古關村、小田川村ヲ除ク

相馬郡

但シ山上村、玉野村、大須村、新館村、飯會村、石橋村ヲ除ク

岩手縣

和賀郡

黒澤尻町、岩崎村、横川目村、藤根村、江釣子村、笹間村、飯豊村

青森縣

青森市

東津輕郡

中村、舞戸村、鳴澤村、森田村、越水村、水元村

西津輕郡

裾野村

北津輕郡

脇元村、小泊村

上北郡

百石町、横濱村、六戸村、下田村、三澤村、六ヶ所村

下北郡

三戸郡 市川村

山形縣

最上郡

金山町、豐里村、眞室川村、安樂城村、萩野村、豐田村

西伯郡

境町、彦名村、崎津村、渡村、外江村、上道村、餘子村、中濱村、大篠津村、夜見村、富益村、和田村

島根縣

松江市

八束郡

安來町、荒島村、赤江村、島田村

能義郡

周吉郡

磯地郡

知夫郡

海士郡

岡山縣

岡山市

牧石村、平津村、横井村

御津郡

兒島郡

廣島縣

廣島市

吳市

安藝郡

但シ瀨野村ヲ除ク

佐伯郡

但シ津田町、玖嶋村、淺原村、吉和村、栗谷村、砂谷村、水内村、上水内村、友和村、四和村ヲ除ク

安佐郡

賀茂郡

祇園町、原村、山本村、長束村  
内海町、竹原町、三津町、仁方町、三津口町、川尻町、安登村、郷原村、廣村、早田原村、中切村、下野村



豐田郡 忠海町、幸崎村、小泉村、大乗村、吉名村、木谷村

山口縣

下關市

宇部市

德山市

防府市

下松市

岩國市

大島郡

玖珂郡

熊毛郡

都濃郡

厚狹郡

豐浦郡

大津郡

阿武郡

和歌山縣

海草郡

和歌山縣

和歌山縣

日高郡 御坊町、衣奈村、西内原村、湯川村、鹽屋村、野口村、松原村、矢田村、白崎村、由良村、志賀村、比井崎村、三尾村、和田村、名田村、東内原村、藤田村

西牟婁郡

東牟婁郡

大嶋村

德島縣

名東郡

勝浦郡

那賀郡

板野郡

香川縣

丸龜市

綾歌郡

仲多度郡

三豊郡

愛媛縣

但シ佐那河内村ヲ除ク

但シ横瀬町、高鉾村、福原村ヲ除ク

但シ鷺敷町、加茂谷村、相生村、延野村、日野谷村、宮濱村、坂州木頭村、澤谷村ヲ除ク

但シ板西町、一條町、藍園村、榮村、松坂村、大山村、松島村、御所村ヲ除ク

下笠居村

但シ端岡村、山内村、陶村、昭和村、瀧宮村、羽床上村、羽床村、山田村、西分村、粉所村、造田村、美合村、長炭村ヲ除ク

但シ吉野村、四條村、十郷村、七箇村ヲ除ク

觀音寺町(伊吹島)、仁尾町、莊内村、粟島村、詫間村、大見村、吉津村、下高瀬村、上高瀬村、比地二村

松山市

今治市

宇和島市

八幡濱市

温泉郡

越智郡

周桑郡

伊豫郡

新居郡

西宇和郡

東宇和郡

北宇和郡

南宇和郡

高知縣

幡多郡

高岡郡

香美郡

須崎町、久禮町、上ノ加江町、多ノ郷村、新莊村、吾桑村

赤岡町、野市町、吉川村、三島村、前濱村、田村、立田村

宿毛町、清水町、和田村、小筑紫村、上灘村、奥内村、沖ノ島村

但シ三間村、二名村、好藤村、愛治村、三島村、日吉村、泉村、吉野生村、明治村、旭村ヲ除ク

宇和町、多田村、中川村、石城村、俵津村、狩江村、高山村、玉津村

但シ北條町、川上村、北吉井村、小野村、荏原村、坂本村、難波村、淺海村、立岩村、正岡村、河野村、五明村、三内村、南吉井村、拜志村、湯山村ヲ除ク

但シ菊間町、鈍川村、龍岡村、大井村、小西村、龜岡村ヲ除ク

小松町、壬生川町、周布村、吉井村、多賀村

郡中町、松前町、北山崎村、北伊豫村、岡田村

西條町、水見町

宇和町、多田村、中川村、石城村、俵津村、狩江村、高山村、玉津村

但シ三間村、二名村、好藤村、愛治村、三島村、日吉村、泉村、吉野生村、明治村、旭村ヲ除ク

宇和町、多田村、中川村、石城村、俵津村、狩江村、高山村、玉津村

但シ北條町、川上村、北吉井村、小野村、荏原村、坂本村、難波村、淺海村、立岩村、正岡村、河野村、五明村、三内村、南吉井村、拜志村、湯山村ヲ除ク

但シ菊間町、鈍川村、龍岡村、大井村、小西村、龜岡村ヲ除ク

小松町、壬生川町、周布村、吉井村、多賀村

郡中町、松前町、北山崎村、北伊豫村、岡田村

西條町、水見町

宇和町、多田村、中川村、石城村、俵津村、狩江村、高山村、玉津村

但シ三間村、二名村、好藤村、愛治村、三島村、日吉村、泉村、吉野生村、明治村、旭村ヲ除ク

宇和町、多田村、中川村、石城村、俵津村、狩江村、高山村、玉津村

但シ北條町、川上村、北吉井村、小野村、荏原村、坂本村、難波村、淺海村、立岩村、正岡村、河野村、五明村、三内村、南吉井村、拜志村、湯山村ヲ除ク

但シ菊間町、鈍川村、龍岡村、大井村、小西村、龜岡村ヲ除ク

小松町、壬生川町、周布村、吉井村、多賀村

郡中町、松前町、北山崎村、北伊豫村、岡田村

福岡縣

久留米市

小倉市

門司市

大牟田市

八幡市

若松市

戸畑市

直方市

糟屋郡

宗像郡

遠賀郡

鞍手郡

朝倉郡

筑紫郡

糸島郡

早良郡

三井郡

長岡郡 後免町、稻生村、三和村、三里村、十市村

安藝郡 室戸町、室戸岬町

福岡縣

久留米市

小倉市

門司市

大牟田市

八幡市

若松市

戸畑市

直方市

糟屋郡

宗像郡

遠賀郡

鞍手郡

朝倉郡

筑紫郡

糸島郡

早良郡

三井郡

御井町、上津荒木村、御原村、立石村、大刀洗村、本郷村、



高良内村

三瀨郡 大川町、西牟田村、荒木村、三瀨村  
八女郡 長峯村、上廣川村、中廣川村、下廣川村、岡山村  
三池郡 但シ飯江村ヲ除ク  
企救郡  
京都郡 行橋町、苅田町、小波瀬村、白川村、今川村、泉村、今元村、仲津村、祓郷村、豐津村、節丸村、葦島村  
筑上郡 但シ上城井村、岩屋村ヲ除ク

大分縣

大分市  
別府市  
中津市  
西國東郡 高田町、香々地町、草地村、吳崎村、西眞玉村、中眞玉村、白野村、三浦村、三重村  
東國東郡 奈狩江村、姫島村、南安岐村  
速見郡 杵築町、大神村  
大分郡 鶴崎町、日岡村、桃園村、三佐村、明治村  
北海部郡 但シ中野村、因尾村、川原木村、直見村ヲ除ク  
南海部郡 鶴居村、三保村、和田村、深秣村、新昭村、大幡村、如水村  
下毛郡 四日市町、長洲町、宇佐町、封戸村、北馬城村、驕館村、豐字佐郡 川村、天津村、長峯村、八幡村、横山村、糸口村、柳ヶ浦村、和間村、高家村

佐賀縣

唐津市 但シ七山村、殿木村ヲ除ク  
東松浦郡 但シ大川村、松浦村ヲ除ク  
西松浦郡  
藤津郡 多良村

熊本縣

玉名郡 長洲町、荒尾町、賢木村、平井村、八幡村、清里村、有明村  
菊池郡 隈府町、戸崎村、花房村、菊池村、北合志村、泗水村、清泉村

葦北郡

水俣町  
但シ上島ヲ除ク

天草郡

宮崎縣

宮崎市

延岡市

宮崎郡

南那珂郡

兒湯郡

東臼杵郡

鹿兒島縣

鹿兒島市

鹿兒島郡

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

掛宿郡

掛宿市

川邊郡 西南方村、笠砂村  
薩摩郡 上飯村、下飯村、里村  
出水郡 但シ阿久根町ヲ除ク  
嚙吠郡 志布志町、大崎町、西志布志村  
肝屬郡 但シ大根占町、高隈村、牛根村、小根占村、田代村、百引村ヲ除ク

沖繩縣

大島郡諸島

全部

北海道  
小樽市  
函館市  
室蘭市  
石狩郡  
厚田郡  
千歲郡  
龜田郡  
上磯郡  
茅部郡  
松前郡  
檜山郡  
爾志郡

久遠郡  
太櫛郡  
瀨棚郡  
小樽郡  
忍路郡  
留萌郡  
天鹽郡  
宗谷郡  
網走郡  
斜里郡  
幌別郡  
有珠郡  
白老郡  
浦河郡  
幌泉郡  
釧路郡  
厚岸郡  
河西郡  
中川郡  
廣尾郡  
根室郡  
花咲郡  
日梨郡



樺太

朝鮮

京城府、仁川府、開城府、高陽郡、廣州郡、平澤郡、水原郡、

始興郡、富川郡、金浦郡、江華郡、開豐郡

忠清南道 大田府、大德郡、舒川郡、保寧郡、洪城郡、禮山郡、瑞山郡、

唐津郡、牙山郡

全羅北道 群山府、井邑郡、高敞郡、扶安郡、金堤郡、沃溝郡、益山郡

全羅南道 但シ谷城郡、求禮郡、和順郡(二西面、北面、同福面、南面、

東面)ヲ除ク

慶尙北道 大邱府、達城郡、永川郡、慶州郡、迎日郡、盈德郡、鬱陵島

慶尙南道 但シ山清郡、咸陽郡、居昌郡、陝川郡ヲ除ク

黃海道 但シ金川郡、新溪郡(但シ古面、沙芝面、村面ヲ除ク)、黃州

郡(但シ仁橋面、龜洛面、都峙面ヲ除ク)、瑞興郡、遂安郡(但

シ泉谷面ヲ除ク)、谷山郡(但シ谷山面、雲中面、桃花面、西

村面ヲ除ク)、平山郡(寶山面)ヲ除ク

平安南道 平壤府、鎮南浦府、大同郡、順川郡、江東郡、中和郡、龍岡

郡、江西郡、平原郡、安州郡、价川郡

平安北道 但シ熙川郡(長洞面、東倉面、新豐面)、江界郡(干北面、立

館面、龍林面)ヲ除ク

江原道 通川郡、高城郡、襄陽郡、江陵郡、三陟郡、蔚珍郡、平康郡

(但シ楡津面、高楡面ヲ除ク)

咸鏡南道 但シ豐山郡(熊耳面)、長津郡(北面、東下面)ヲ除ク

咸鏡北道

前各項ニ掲グル地域ノ外鐵道(京春線、忠北線、慶北線及京畿線以外ノ

私設鐵道ヲ除ク)ノ線路兩側各四軒以内ノ地域

内地及朝鮮ニ於ケル前各項ニ掲グル地域ノ外島嶼全部

備考

一 本表ノ地域ハ行政區劃ノ變更ニ因リ本表ニ掲グル地區ヲ包含スル

ニ至レル市町村又ハ之ニ準ズルモノニ及ブモノトス大字、字等ノ變

更アリタルトキ亦同ジ

二 本表中町村等ノ名ノ下ニ括弧ヲ以テ記載セルハ大字、字等ヲ示ス

大正一二年四月第七一號  
昭和七年七月第二〇號、八年七月第五七號、一二年八月第七九號、一三年四月第七二號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
商法別冊ノ通之ヲ定ム  
此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
(別冊)

〔朝〕

● 商法

明治三十二年三月九日  
法律第四十八號

改正 明治四四年五月第七三號

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

二〇五

商法

第一編 總則

第一章 法例

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第五章 商業帳簿

第六章 商業使用人

第七章 代理商

第二編 會社

第一章 總則

第二章 合名會社

第一節 設立



- 第二節 會社ノ内部ノ關係
- 第三節 會社ノ外部ノ關係
- 第四節 社員ノ退社
- 第五節 解散
- 第六節 清算
- 第三章 合資會社
- 第四章 株式會社
- 第一節 設立
- 第二節 株式
- 第三節 會社ノ機關
- 第一款 株主總會
- 第二款 取締役
- 第三款 監査役
- 第四節 會社ノ計算
- 第五節 社債
- 第一款 總則
- 第二款 社債權者集會
- 第六節 定款ノ變更
- 第七節 會社ノ整理
- 第八節 解散
- 第九節 清算
- 第一款 總則
- 第二款 特別清算

- 第五章 株式合資會社
- 第六章 外國會社
- 第七章 罰則
- 第三編 商行爲
- 第一章 總則
- 第二章 賣買
- 第三章 交互計算
- 第四章 匿名組合
- 第五章 仲立營業
- 第六章 問屋營業
- 第七章 運送取扱營業
- 第八章 運送營業
- 第一節 物品運送
- 第二節 旅客運送
- 第九章 寄託
- 第一節 總則
- 第二節 倉庫營業
- 第十章 保險
- 第一節 損害保險
- 第一款 總則
- 第二款 火災保險
- 第三款 運送保險
- 第二節 生命保險

第四編 海商

- 第一章 船舶及ヒ船舶所有者
- 第二章 船員
- 第一節 船長
- 第二節 削除
- 第三章 運送
- 第一節 物品運送
- 第一款 總則
- 第二款 船荷證券
- 第二節 旅客運送
- 第四章 海損
- 第五章 海難救助
- 第六章 保險
- 第七章 船舶債權者

商法

- 第一編 總則
- 第一章 法例
- 第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス
- 第二條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限り本法ヲ適用ス
- 第三條 當事者ノ一方ノ爲ニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ヲ雙方ニ適用ス
- 第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二〇七

當事者ノ一方ガ數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ爲ニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ヲ其ノ全員ニ適用ス

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

店舖其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲スヲ業トスル者又ハ鑛業若ハ砂鑛業ヲ營ム者ハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモ之ヲ商人ト看做ス第五十二條第二項ノ會社亦同ジ

第五條 未成年者又ハ妻ガ前條ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス第六條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ社員タル資格ニ基ク行爲ニ關シテハ之ヲ能力者ト看做ス

第七條 法定代理人ガ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲ニ第四條ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第八條 法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三章 商業登記

第九條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ當事者ノ請求ニ依リ其ノ營業所ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スベキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス



公告ガ登記ト相違スルトキハ公告ナカリシモノト看做ス  
第十二條 登記スベキ事項ハ登記及公告ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第  
三者ニ對抗スルコトヲ得ズ登記及公告ノ後ト雖モ第三者ガ正當ノ事由ニ  
因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ

第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スベキ事項ヲ登記セザリシトキハ前條  
ノ規定ハ其ノ支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十四條 故意又ハ過失ニ因リ不實ノ事項ヲ登記シタル者ハ其ノ事項ノ不  
實ナルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生ジ又ハ其ノ事項ガ消滅シタルトキハ  
當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 商號

第十六條 商人ハ其ノ氏、氏名其ノ他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十七條 會社ノ商號中ニハ其ノ種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會  
社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非ズシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フル  
コトヲ得ズ會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同ジ

第十九條 他人ガ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニ之  
ヲ登記スルコトヲ得ズ

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類  
似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコト  
ヲ得但シ損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第二十六條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ續用スル場合ニ於テハ讓渡人  
ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ讓受人モ亦其ノ辨濟ノ責ニ任ズ  
前項ノ規定ハ營業ノ讓渡後遲滞ナク讓受人ガ讓渡人ノ債務ニ付責ニ任  
ザル旨ヲ登記シタル場合ニハ之ヲ適用セズ營業ノ讓渡後遲滞ナク讓渡人  
及讓受人ヨリ第三者ニ對シ其ノ旨ヲ通知ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ通知  
ヲ受ケタル第三者ニ付亦同ジ

第二十七條 前條第一項ノ場合ニ於テ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債權  
ニ付讓受人ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ガ善意ニシテ且重大ナル過失ナカリ  
シトキニ限り其ノ效力ヲ有ス

第二十八條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ續用セザル場合ニ於テモ讓渡  
人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ヲ引受クル旨ヲ廣告シタルトキハ債權者  
ハ其ノ讓受人ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 營業ノ讓受人ガ第二十六條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ讓渡  
人ノ債務ニ付責ニ任ズル場合ニ於テハ讓渡人ノ責任ハ營業ノ讓渡又ハ前  
條ノ廣告ノ後二年内ニ請求又ハ讓渡人ノ豫告ヲ爲サザル債權者ニ對シテハ  
二年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第三十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ正當ノ事由ナクシテ二年間其ノ商號  
ヲ使用セザルトキハ商號ヲ廢止シタルモノト看做ス

第三十一條 商號ノ廢止又ハ變更アリタル場合ニ於テ其ノ商號ノ登記ヲ爲  
シタル者ガ廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲サザルトキハ利害關係人ハ其ノ登記  
ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第五節 商業帳簿

第三十二條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取引其ノ他財產ニ影響ヲ及ボス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二〇八

同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者  
ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第二十一條 何人ト雖モ不正ノ目的ヲ以テ他人ノ營業ナリト誤認セシムベ  
キ商號ヲ使用スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シテ商號ヲ使用スル者アルトキハ之ニ因リテ利益ヲ害  
セラルル虞アル者ハ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得但シ損  
害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第二十二條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ第二十條第一項ノ商號ヲ使用シタル  
者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス前條第一項ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ

第二十三條 自己ノ氏、氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコトヲ他人ニ  
詐諾シタル者ハ自己ヲ營業主ナリト誤認シテ取引ヲ爲シタル者ニ對シ其  
ノ取引ニ因リテ生ジタル債務ニ付其ノ他人ト連帶シテ辨濟ノ責ニ任ズ

第二十四條 商號ハ營業ト共ニスル場合又ハ營業ヲ廢止スル場合ニ限り之  
ヲ讓渡スルコトヲ得

第二十五條 營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者ガ別段ノ意思ヲ表示セザ  
リシトキハ讓渡人ハ同市町村及隣接市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業  
ヲ爲スコトヲ得ズ

讓渡人ガ同一ノ營業ヲ爲サザル特約ヲ爲シタルトキハ其ノ特約ハ同府縣  
及隣接府縣内且三十年ヲ超エザル範圍内ニ於テノミ其ノ效力ヲ有ス  
讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲  
スコトヲ得ズ

ベキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但シ家事費用ハ一月  
毎ニ其ノ總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ分チ日ノ賣上總額ノミヲ記載スルコト  
ヲ得

第三十三條 商人ハ開業ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ動產、不動產、  
債權、債務其ノ他ノ財產ノ總目錄及貸方借方ノ對照表ヲ作ルコトヲ要  
ス

會社ニ在リテハ成立ノ時及毎決算期ニ前項ノ書類ヲ作ルコトヲ要ス

財產目錄及貸借對照表ハ之ヲ編綴シ又ハ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載ス  
ルコトヲ要ス

第三十四條 財產目錄ニハ動產、不動產、債權其ノ他ノ財產ニ價額ヲ附シ  
テ之ヲ記載スルコトヲ要ス其ノ價額ハ財產目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ  
超ユルコトヲ得ズ

營業用ノ固定財產ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ取得價額又ハ製作價  
額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得

第三十五條 裁判所ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ當事者ニ商業帳簿  
又ハ其ノ一部分ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第三十六條 商人ハ十年間其ノ商業帳簿及其ノ營業ニ關スル重要書類ヲ保  
存スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其ノ帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六節 商業使用人

第三十七條 商人ハ支配人ヲ選任シ本店又ハ支店ニ於テ其ノ營業ヲ爲サシ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二〇九



ムルコトヲ得

第三十八條 支配人ハ營業主ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

支配人ハ番頭、手代其ノ他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十九條 商人ハ數人ノ支配人ガ共同シテ代理權ヲ行使スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ營業主ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ

第四十條 支配人ノ選任及其ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ營業主之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定ムル事項及其ノ變更亦同ジ

第四十一條 支配人ハ營業主ノ許諾アルニ非ザレバ營業ヲ爲シ、自己若ハ第三者ノ爲ニ營業主ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員、取締役若ハ他ノ商人ノ使用人ト爲ルコトヲ得ズ

支配人ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ營業主ハ之ヲ以テ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ營業主ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

第四十二條 本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベキ名稱ヲ附シタル使用人ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支配人ト同一ノ權限ヲ有スルモノト看做ス但シ裁判上ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ相手方ガ惡意ナリシ場合ニハ之ヲ適用セズ

第四十三條 番頭、手代其ノ他營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人ハ其ノ事項ニ關シ一切ノ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗ノ使用人ハ其ノ店舗ニ在ル物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス

第四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 本章ノ規定ハ營業主ト商業使用人トノ間ノ雇傭關係ニ付民法ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

第七節 代理商

第四十六條 代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲ニ平常其ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第四十七條 代理商ガ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク本人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

第四十一條第二項及第三項ノ規定ハ代理商ガ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 物品ノ販賣又ハ其ノ媒介ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足其ノ他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受ケル權限ヲ有ス

第五十條 當事者ガ契約ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ二月前ニ豫告ヲ爲シテ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者ガ契約ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハズ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 代理商ハ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生ジタル債權ガ辨濟期ニ在ルトキハ其ノ辨濟ヲ受クル迄本人ノ爲ニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但シ別段ノ意思表示アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二編 會社

第一章 總則

第五十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ

營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモノ之ヲ會社ト看做ス

第五十三條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及株式合資會社ノ四種トス

第五十四條 會社ハ之ヲ法人トス

第五十五條 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ

第五十六條 會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得

合併ヲ爲ス會社ノ一方又ハ雙方ガ株式會社又ハ株式合資會社ナルトキハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ株式會社又ハ株式合資會社ナルコトヲ要ス

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二一一

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條第一項、第三百四十三條及第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第五十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十八條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年內ニ開業ヲ爲サズ又ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役ガ法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ會社ノ存立ヲ許スベカラザル事由アルトキ亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ解散ノ命令前ト雖モ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ管理人ノ選任其ノ他會社財産ノ保全ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 利害關係人ガ前條第一項又ハ第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第六十條 利害關係人ノ爲シタル第五十八條第一項又ハ第二項ノ請求ガ却下セラレタル場合ニ於テ其ノ者ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第六十一條 本編ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二章 合名會社



第一節 設立

第六十二條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第六十三條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 社員ノ氏名及住所

四 本店及支店ノ所在地

第六十四條 合名會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 前條第一號乃至第三號ニ掲グル事項

二 本店及支店

三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

四 社員ノ出資ノ目的、財産ヲ目的トスル出資ニ付テハ其ノ價格及履行ヲ爲シタル部分

五 社員ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

六 數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

第六十五條 會社ノ成立後支店ヲ設ケタルトキハ本店ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十六條 會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

週間内ニ支店ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス  
本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル  
第六十六條 會社ガ其ノ本店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間内ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ其ノ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スニ以テ足ル  
第六十七條 第六十四條第一項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第二節 會社ノ内部ノ關係  
第六十八條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス  
第六十九條 社員ガ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者ガ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ此ノ場合ニ於テハ其ノ利息ヲ支拂フ外尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス  
第七十條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權ヲ有シ義務ヲ負フ

第七十一條 支配人ノ選任及解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第七十二條 定款ノ變更其ノ他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第七十三條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ズ

第七十四條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

社員ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半数ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ他ノ社員ノ一人ガ其ノ取引ヲ知りタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第七十五條 社員ハ他ノ社員ノ過半数ノ決議アリタルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第七十六條 業務ヲ執行スル社員ハ各自會社ヲ代表ス但シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ業務執行社員中特ニ會社ヲ代表スベキ者ヲ定ムルコトヲ妨ゲズ

第七十七條 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員ガ共同シ又ハ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二二三

週間内ニ支店ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第六十六條 會社ガ其ノ本店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間内ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ其ノ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スニ以テ足ル

第六十七條 第六十四條第一項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 會社ノ内部ノ關係  
第六十八條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス

第六十九條 社員ガ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者ガ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ此ノ場合ニ於テハ其ノ利息ヲ支拂フ外尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權ヲ有シ義務ヲ負フ

社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第三十九條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 會社ヲ代表スベキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第七十九條 會社ガ社員ニ對シ又ハ社員ガ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テ其ノ訴ニ付會社ヲ代表スベキ社員ナキトキハ他ノ社員ノ過半数ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第八十條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルトキハ各社員連帶シテ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ

會社財産ニ對スル強制執行ガ其ノ效力ヲ奏セザルトキ亦前項ニ同ジ

前項ノ規定ハ社員ガ會社ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ之ヲ適用セズ

第八十一條 社員ハ會社ニ屬スル抗辯ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得

會社ガ其ノ債權者ニ對シ相殺權、取消權又ハ解除權ヲ有スル場合ニ於テハ社員ハ其ノ者ニ對シ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得

第八十二條 會社ノ成立後加入シタル社員ハ其ノ加入前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第八十三條 社員ニ非ザル者ニ自己ヲ社員ナリト誤認セシムベキ行爲又ハタルトキハ其ノ者ハ誤認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第四節 社員ノ退社



第八十四條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終

身間會社ノ存續スベキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但シ六月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス  
會社ノ存立時期ヲ定メタルトキハ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 前條及第九十一條第一項ニ定ムル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ

因リテ退社ス  
一 定款ニ定メタル事由ノ發生  
二 總社員ノ同意

三 死亡

四 破産

五 禁治産

六 除名

第八十六條 社員ニ付左ノ事由アルトキハ會社ハ他ノ社員ノ過半数ノ決議

ヲ以テ其ノ社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得  
一 出資ノ義務ヲ履行セザルコト  
二 第七十四條第一項ノ規定ニ違反シタルコト  
三 業務ヲ執行スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ權利ナクシテ業務ノ執行ニ干與シタルコト  
四 會社ヲ代表スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ權利ナクシテ會社ヲ代表シタルコト  
五 其ノ他重要ナル義務ヲ盡サザルコト

第九十條 社員ノ持分ノ差押ハ社員ガ將來利益ノ配當及持分ノ拂戻ヲ請求

スル權利ニ對シテモ亦其ノ效力ヲ有ス  
第九十一條 社員ノ持分ヲ差押ヘタル債權者ハ營業年度ノ終ニ於テ其ノ社員ヲ退社セシムルコトヲ得但シ會社及其ノ社員ニ對シ六月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス  
前項但書ノ豫告ハ社員ガ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ  
第九十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用ヒタルトキハ退社員ハ其ノ氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得  
第九十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付責任ヲ負フ

第九十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生  
二 總社員ノ同意  
三 會社ノ合併  
四 社員ガ一人ト爲リタルコト  
五 會社ノ破産  
六 解散ヲ命ズル裁判

第九十五條 前條第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ

同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但シ同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社シタルモノト看做ス  
前條第四號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第九十六條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外本店ノ

所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第九十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ第九十五條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

解散後ノ會社ハ存立中ノ會社ヲ存續スル會社トスル場合ニ限り合併ヲ爲スコトヲ得  
第九十九條 會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ三週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス  
第一百條 會社ハ前條ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ合併ニ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ  
債權者ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス  
債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ會社ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社ニ相當ノ財産ヲ信託スルコトヲ要ス

第一百一條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支

店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第六十四條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第一百二條 會社ノ合併ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ其ノ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
第一百三條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス  
第一百四條 會社ノ合併ノ無効ハ訴ヲ以テノミ之ヲ主張スルコトヲ得

第一百四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二一五

第九十八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス  
解散後ノ會社ハ存立中ノ會社ヲ存續スル會社トスル場合ニ限り合併ヲ爲スコトヲ得  
第九十九條 會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ三週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス  
第一百條 會社ハ前條ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ合併ニ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ  
債權者ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス  
債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ會社ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社ニ相當ノ財産ヲ信託スルコトヲ要ス  
第一百一條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第六十四條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第一百二條 會社ノ合併ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ其ノ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
第一百三條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス  
第一百四條 會社ノ合併ノ無効ハ訴ヲ以テノミ之ヲ主張スルコトヲ得



前項ノ訴ハ各會社ノ社員、清算人、破産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二百五條 前條第一項ノ訴ハ合併ノ日ヨリ六月内ニ之ヲ提起スルコトヲ得

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ開始スルコトヲ得  
數個ノ訴ガ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六六條 債權者ガ第四百四條第一項ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第七七條 第四百四條第一項ノ訴ヲ提起アリタル場合ニ於テ合併ノ無効ノ原因タル瑕疵ガ補完セラレタルトキ又ハ會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ合併ヲ無効トスルコトヲ不適當ト認ムルトキハ裁判所ハ請求ヲ棄却スルコトヲ得

第八八條 合併ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ回復ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九九條 合併ヲ無効トスル判決ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス  
原告ガ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百十條 合併ヲ無効トスル判決ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社、其ノ社員及第三者ノ間ニ生ジタル權利義務ニ影響ヲ及ボサズ

第一百一條 合併ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ合併ヲ爲シタル會社ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併後負擔シタル債務ニ付連帶シテ辨濟ノ責ニ任ズ

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併後取得シタル財産ハ合併ヲ爲シタル會社ノ共有ニ屬ス  
前二項ノ場合ニ於テハ各會社ノ負擔部分又ハ持分ハ其ノ協議ヲ以テ之ヲ定ム協議調ハザルトキハ裁判所ハ請求ニ依リ合併ノ時ニ於ケル各會社ノ財産ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第十二條 已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八十八條及第九九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ或社員ヲ有限責任社員ト爲シ又ハ新ニ有限責任社員ヲ加入セシメテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第九十五條第二項ノ規定ニ依リ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス  
第十四條 合名會社ガ前條ノ規定ニ依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合名會社ニ付テハ解散ノ登記、合資會社ニ付テハ第四百四十九條第一項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 第九十三條第一項ノ場合ニ於テ從前ノ社員ニシテ有限責任社員ニシトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外第二百一十一條乃至第三百五十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一十一條 清算ハ業務執行社員之ヲ爲ス但シ社員ノ過半数ヲ以テ別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第二百一十二條 會社ガ第九十四條第四號又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス  
第二百一十三條 業務執行社員ガ清算人ト爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ四週間内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 清算人ノ氏名及住所  
二 清算人ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名  
三 數人ノ清算人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキ定アルトキハ其ノ規定

清算人ノ選任アリタルトキハ其ノ清算人ハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十七條ノ規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
第二百一十四條 清算人ノ職務左ノ如シ

一 現務ノ終了  
二 債權ノ取立及債務ノ辨濟  
三 殘餘財産ノ分配

會社ヲ代表スベキ清算人ハ前項ノ職務ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二一七

員ト爲リタルモノハ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ無限責任社員ノ責任ヲ免ルルコトナシ

第九十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節 清算

第十六條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第十七條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ會社ガ第九十四條第四號又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一百條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第一項ノ場合ニ於テ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條 會社ガ前條第三項ノ規定ニ違反シテ其ノ財産ヲ處分シタルトキハ會社ノ債權者ハ其ノ處分ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但シ其ノ處分ガ會社ノ債權者ヲ害セザルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

民法第四百二十四條第一項但書、第四百二十五條及第四百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 會社ガ第十七條第四項ノ規定ニ違反シテ其ノ財産ヲ處分シタルトキハ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者ハ會社ニ對シ其ノ持分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 第十七條第一項ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定ム

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二一七



ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 會社ハ辨濟期ニ至ラザル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ無利息債權ニ付テハ辨濟期ニ至ル迄ノ法定利息ヲ加算シテ其ノ債權額ニ達スベキ金額ヲ辨濟スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ利息附債權ニシテ其ノ利率ガ法定利率ニ違セザルモノニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テハ條件附債權、存續期間ノ不確定ナル債權其ノ他債權ノ不確定ナル債權ニ付テハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第二百二十六條 會社ニ現存スル財産ガ其ノ債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條 清算人ガ會社ノ營業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スニハ社員ノ過半数ノ決議アルコトヲ要ス

第二百二十八條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十九條 第七十六條及第七十七條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

業務執行社員ガ清算人ト爲リタル場合ニ於テハ從前ノ定ニ從ヒテ會社ヲ代表ス

裁判所ガ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スベキ者ヲ定メ又ハ數人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第二百三十條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄

及貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス  
清算人ハ社員ノ請求ニ依リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第三百三十一條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非ザレバ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ズ但シ爭アル債權ニ付其ノ辨濟ニ必要ト認ムル

財產ヲ留保シテ殘餘ノ財産ヲ分配スルコトヲ妨グズ

第三百三十二條 社員ガ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此ノ解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三百三十三條 清算人ノ任務ガ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員ガ一月内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十四條 清算ガ終了シタルトキハ清算人ハ前條ノ承認アリタル後本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ清算終了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十五條 第七十五條、第七十八條第二項、第二百五十四條第二項及第二百六十六條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年内ニ訴ヲ以テノミ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ社員ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條、第二百五條第三項第四項、第七十七條、第九十九條及第一百條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三百三十七條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十八條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準ジテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ選任ス

第三百三十九條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタル場合ニ於テ其ノ無効ノ原因ガ或社員ノミニ付存スルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ他ノ社員ノ一致ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ無効ノ原因ノ存スル社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第九十五條第二項及第九十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十條 會社ノ設立ノ取消ハ訴ヲ以テノミ之ヲ請求スルコトヲ得

第四百十一條 社員ガ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ會社ヲ設立シタルトキハ債權者ハ其ノ社員及會社ニ對スル訴ヲ以テ會社ノ設立ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第四百十二條 第八十八條、第二百五條第三項第四項、第九十九條、第一百條、第三百三十六條第一項及第三百三十七條乃至第三百三十九條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十三條 會社ノ帳簿並ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ第四百十七條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後、其ノ他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十四條 社員ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第四百十五條 第八十條ニ定ムル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後五年ヲ經過シタルトキ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セザル殘餘財産仍存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章 合資會社

第四百十六條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第四百十七條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十八條 合資會社ノ定款ニハ第六十三條ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第四百十九條 合資會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ第六十四條第一項ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

有限責任社員ニ付テハ登記シタル事項ノ公告ニハ其ノ員數及出資ノ總額ヲ掲グルヲ以テ足ル變更ノ登記アリタルトキ亦同ジ

第五百十條 有限責任社員ハ金錢其ノ他ノ財産ノミヲ以テ其ノ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第五百十一條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス



第五百二十二條 支配人ノ選任及解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五百二十三條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限り會社ノ財産目録及貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ且會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ有限責任社員ハ何時ニテモ裁判所ノ許可ヲ得テ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第五百二十四條 有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得持分ノ讓渡ニ伴ヒ定款ノ變更ヲ生ズルトキト雖モ亦同ジ

第五百二十五條 有限責任社員ガ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルニハ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ要セズ

第五百二十六條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ズ

第五百二十七條 有限責任社員ハ其ノ出資ノ價額ヲ限度トシテ會社ノ債務ヲ辨済スル責任ニ任ズ但シ既ニ會社ニ對シ履行ヲ爲シタル出資ノ價額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ノ適用ニ付テハ會社ニ利益ナキニ拘ラズ配當ヲ受ケタル金額ハ之ヲ控除シテ其ノ出資ノ價額ヲ定ム

第五百二十八條 有限責任社員ハ出資ノ減少後ト雖モ本店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ從前ノ責任ヲ免ルルコトナシ

名會社ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス  
第六十四條 清算ハ業務執行社員之ヲ爲ス但シ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 株式會社

第一節 設立

第六十五條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第六十六條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
  - 二 商號
  - 三 資本ノ總額
  - 四 一株ノ金額
  - 五 本店及支店ノ所在地
  - 六 會社ガ公告ヲ爲ス方法
  - 七 發起人ノ氏名及住所
- 會社ノ公告ハ官報又ハ時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ニ掲ゲテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第六十七條 定款ハ公證人ノ認證ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
- 第六十八條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
- 一 存立時期又ハ解散ノ事由
  - 二 數種ノ株式ノ發行並ニ其ノ各種ノ株式ノ内容及數
  - 三 株式ノ額面以上ノ發行
  - 四 發起人ガ受クベキ特別ノ利益及之ヲ受クベキ者ノ氏名

第九十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十九條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社員ナリト認認セシムベキ行爲アリタルトキハ其ノ社員ハ認認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ有限責任社員ニ其ノ責任ノ限度ヲ認認セシムベキ行爲アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第一百零條 第八十二條ノ規定ハ有限責任社員ガ無限責任社員ト爲リタル場合、第九十三條ノ規定ハ無限責任社員ガ有限責任社員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第一百零一條 有限責任社員ガ死亡シタルトキハ其ノ相續人之ニ代リテ社員ト爲ル

第二百三條ノ規定ハ死亡シタル有限責任社員ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ因リテ退社セズ

第一百六十二條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ガ退社シタルトキハ解散ス但シ殘存スル社員ノ一致ヲ以テ新ニ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ガ退社シタル場合ニ於テハ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合資會社ニ付テハ解散ノ登記、合名會社ニ付テハ第六十四條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百六十三條 合資會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ合

五 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格並ニ之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數

六 會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名

七 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及發起人ガ受クベキ報酬ノ額

現物出資ハ發起人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 各發起人ハ書面ニ依リテ株式ノ引受ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

前項ノ選任ハ發起人ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス此ノ場合ニ於テハ第二百四十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ズ

第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十二條 現物出資者ハ第一回ノ拂込ノ期日ニ出資ノ目的タル財産ノ全部ヲ給付スルコトヲ要ス但シ登記、登錄其ノ他權利ノ設定又ハ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スル爲ニ必要ナル行爲ハ會社成立後ニ之ヲ爲スコトヲ妨

ゲズ

第七十三條 取締役ハ其ノ選任後遲滞ナク第六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項並ニ前三條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲ニ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス



裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ第六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲

グル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ニ變更ヲ加ヘテ各發起人ニ通告スル

コトヲ得

前項ノ變更ニ服セザル發起人ハ其ノ株式ノ引受ヲ取消スコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ定款ヲ變更シテ設立ニ關スル手續ヲ續行スルコトヲ妨グズ

通告後二週間内ニ株式ノ引受ヲ取消シタル者ナキトキハ定款ハ通告ニ從

ヒ變更セラレタルモノト看做ス

第七十四條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザルトキハ株主ヲ募集スルコ

トヲ要ス

第七十五條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通ニ其ノ引受

クベキ株式ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

株式申込證ハ發起人ノ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ爲シタル公證人ノ氏名

二 第六十六條第一項及第六十八條第一項ニ掲グル事項

三 各發起人ガ引受ケタル株式ノ數

四 第一回拂込ノ金額

五 株式ノ讓渡ノ制限、株券ノ裏書ノ禁止又ハ株主ノ議決權ノ制限ヲ定

メタルトキハ其ノ規定

六 株金ノ拂込ヲ取扱フベキ銀行又ハ信託會社及其ノ取扱ノ場所

七 一定ノ時期迄ニ創立總會ガ終結セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコ

トヲ得ベキコト

數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其ノ引受

クベキ株式ノ種類ヲ記載シ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ

於テハ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第二百三十二條 第一項第二項、第二百三十三條、第二百三十九條第三項

第四項、第二百四十條、第二百四十一條第一項、第二百四十三條、第二

百四十四條、第二百四十七條乃至第二百五十三條及第三百四十五條ノ規

定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第八十一條 定款ヲ以テ第六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル

事項ヲ定メタルトキハ發起人ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル爲検査役ノ

選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

前項ノ検査役ノ報告書ハ之ヲ創立總會ニ提出スルコトヲ要ス

第八十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコ

トヲ要ス

第八十三條 創立總會ニ於テハ取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第八十四條 取締役及監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告ス

ルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤ

取締役及監査役ハ第八十一條第二項ノ報告書ヲ調査シ創立總會ニ其ノ

意見ヲ報告スルコトヲ要ス

取締役及監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特

ニ検査役ヲ選任シ前二項ノ調査及報告ヲ爲サシムルコトヲ得

於テハ其ノ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス

民法第九十三條但書ノ規定ハ株式ノ申込ニハ之ヲ適用セズ

第七十六條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ發起人ノ割當テタル株式ノ數ニ

應ジテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七十七條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株ニ付

第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

前項ノ拂込ハ株式申込證ニ記載シタル株金拂込ノ取扱場所ニ於テ之ヲ爲

スコトヲ要ス

第七十一條及第七十二條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 株金ノ拂込ヲ取扱フ銀行若ハ信託會社ヲ變更シ又ハ拂込金

ノ保管管ヲ爲スニハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第七十九條 株式引受人ガ第七十七條ノ規定ニ依ル拂込ヲ爲サザルト

キハ發起人ハ期日ヲ定メ其ノ期日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ

失フベキ旨ヲ其ノ株式引受人ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ

二週間前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

發起人ガ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人ガ拂込ヲ爲サザルトキハ其

ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ發起人ハ其ノ者ガ引受ケタル株式ニ付更ニ

株主ヲ募集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第八十條 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルト

キハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル

者出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第八十七條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲモ爲

スコトヲ得

前項ノ決議ハ召集ノ通知ニ其ノ旨ノ記載ナカシトキト雖モ之ヲ爲スコ

トヲ妨グズ

第八十八條 株式會社ノ設立ノ登記ハ發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタル

トキハ第七十三條ノ手續終了ノ日、發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザリ

シトキハ創立總會終結ノ日又ハ第八十五條ノ手續終了ノ日ヨリ二週間

内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第六十六條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲グル事項

二 本店及支店

三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

四 數種ノ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ各種ノ株式ノ内容及數

五 各株ニ付拂込ミタル株金額

六 株式ノ讓渡ノ制限又ハ株券ノ裏書ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定

七 開業前ニ利息ヲ配當スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

八 株主ニ配當スベキ利益ヲ以テ株式ヲ消却スベキコトヲ定メタルトキ

ハ其ノ規定

九 取締役及監査役ノ氏名及住所

十 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ



スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

第六十四條第二項及第六十五條乃至第六十七條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第八十九條 株金ノ拂込ヲ取扱ヒタル銀行又ハ信託會社ハ發起人又ハ取

締役ノ請求ニ依リ拂込金ノ保管ニ關シ證明ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ銀行又ハ信託會社ハ其ノ證明シタル拂込金額ニ付拂込ナカリシコ

ト又ハ其ノ返還ニ關スル制限ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第九十條 株式ノ引受ニ因ル權利ノ讓渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼ

ズ

發起人ハ前項ノ權利ヲ讓渡スコトヲ得ズ

第九十一條 株式ヲ引受ケタル者ハ會社ノ成立後ハ錯誤若ハ株式申込證

ノ要件ノ欠缺ヲ理由トシテ其ノ引受ノ無効ヲ主張シ又ハ詐欺若ハ強迫ヲ

理由トシテ其ノ引受ヲ取消スコトヲ得ズ創立總會ニ出席シテ其ノ權利ヲ

行使シタルトキ亦同ジ

第九十二條 引受ナキ株式又ハ第七十條、第七十一條若ハ第七十七

七條ノ規定ニ依ル拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其ノ

株式ノ引受又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込ガ取消サレタルトキ亦

同ジ

第八十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十三條 發起人ガ會社ノ設立ニ關シ其ノ任務ヲ怠リタルトキハ其ノ

發起人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其ノ發起人ハ第三者ニ對

シテモ亦連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

テ爲シタル行為ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ズ

前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔ト

ス

第九十五條 取締役又ハ監査役ガ第八十四條第一項及第二項ニ定ムル

任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ズベキ

場合ニ於テ發起人モ亦其ノ責ニ任ズベキトキハ其ノ取締役、監査役及發

起人ハ之ヲ連帶債務者トス

第九十六條 發起人、取締役又ハ監査役ガ會社ノ設立ニ關シ會社ニ對シ

テ損害賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ於テハ其ノ責任ハ會社成立ノ日ヨリ三

年ヲ經過シタル後ニ於テ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルニ非ザレバ

之ヲ免除スルコトヲ得ズ

第九十七條 株主總會ニ於テ發起人ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シ

タルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ

十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ヲ提起ヲ取締役ニ請求シタル

トキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百六十七條第二項、第二百六十八條第二項乃至第五項及第二百七十

七條第一項但書第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十八條 發起人ニ非ズシテ株式申込證、目論見書、株式募集ノ廣告

其ノ他株式募集ニ關スル文書ニ自己ノ氏名及會社ノ設立ヲ贊助スル旨ノ

記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル者ハ自己ヲ發起人ナリト誤認シテ株式ノ申

込ヲ爲シタル者ニ對シ發起人ト同一ノ責任ヲ負フ

第二節 株式

第九十九條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第一百條 株主ノ責任ハ其ノ引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額、額面以上

ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受價額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第一百一條 假設人ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者ハ株式引

受人又ハ株主タル責任ヲ負フ他人ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ名義ヲ以テ株式

ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者亦同ジ

他人ト通ジテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者ハ其ノ他人

ト連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一百二條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ズ但シ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムベ

キ場合ニ限り之ヲ二十圓迄ニ下スコトヲ得

第一百三條 株式ガ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使

スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

株主ノ權利ヲ行使スベキ者ナキトキハ共有者ニ對スル會社ノ通知又ハ催

告ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一百四條 株式ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ

制限ヲ定ムルコトヲ妨ゲズ

株券ノ發行前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一百五條 記名株式ノ讓渡ハ株券ノ裏書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但シ

定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第一百條 株主ノ責任ハ其ノ引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額、額面以上

ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受價額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第一百一條 假設人ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者ハ株式引

受人又ハ株主タル責任ヲ負フ他人ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ名義ヲ以テ株式

ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者亦同ジ

他人ト通ジテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者ハ其ノ他人

ト連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一百二條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ズ但シ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムベ

キ場合ニ限り之ヲ二十圓迄ニ下スコトヲ得

第一百三條 株式ガ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使

スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

株主ノ權利ヲ行使スベキ者ナキトキハ共有者ニ對スル會社ノ通知又ハ催

告ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一百四條 株式ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ



第一項ノ質權者ハ會社ニ對シ前條第一項ノ株主ノ受クベキ株券ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二百十條 會社ハ左ノ場合ヲ除クノ外自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ズ

一 株式ノ消却ノ爲ニスルトキ

二 合併又ハ他ノ會社ノ營業全部ノ讓受ニ因ルトキ

三 會社ノ權利ノ實行ニ當リ其ノ目的ヲ達スル爲ニ必要ナルトキ

第二百十一條 前條第一號ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク株式失効ノ手續ヲ爲シ第二號及第三號ノ場合ニ於テハ相當ノ時期ニ株式又ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十二條 株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非ザレバ之ヲ消却スルコトヲ得ズ但シ定款ノ規定ニ基キ株主ニ配當スベキ利益ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百七十七條ノ規定ハ株式ヲ消却スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百十三條 株券ノ拂込ハ其ノ期日ノ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主ガ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ更ニ期日ヲ定メ其ノ期日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ニ於テ株式ヲ處分スベキ旨ヲ其ノ株主及株主名簿ニ記載アル質權者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ二週間前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ其ノ株主ノ氏名及住所、株券ノ番號並ニ通知事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百十四條 會社ガ前條第一項及第二項ニ定ムル手續ヲ踐ミタルモ株主

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク失効シタル株券ノ番號並ニ其ノ株主ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百十九條 第二百十四條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年内ニ會社ガ第二百十三條第一項ノ規定ニ依リ拂込ノ催告ヲ發シタル株券ニ關スルモノニ限ル

發起人ガ會社ノ設立ニ際シテ引受ケタル株式ニ付會社ノ成立後五年内ニ拂込ノ催告ヲ發シタル株券ニ關シテハ發起人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第二百十四條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ヲ負フ

第二百二十條 株式ノ讓渡人ガ第二百十四條第三項ノ不足額ヲ辨濟シタルトキハ株券又ハ株主名簿ニ記載アル後者全員ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

發起人ガ前條第二項ノ規定ニ依リテ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者及其ノ後者全員ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

償還ヲ爲シタル讓渡人ハ更ニ自己ノ後者全員ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百二十一條 株券ノ拂込期日後ニ株式ヲ讓渡シタル者ハ會社ニ對シ株主ト連帶シテ其ノ株券ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百二十二條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ利益若ハ利息ノ配當又ハ殘餘財産ノ分配ニ付株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ定款ニ定ナキト雖モ資本ノ増加若ハ減少又ハ會社ノ合併ノ決議ニ於テ新株ノ引受、株式ノ併合若ハ消却又ハ合併ニ因ル

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二二七

ガ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス但シ裁判所ノ許可ヲ得テ他ノ方法ニ依リテ之ヲ賣却スルコトヲ妨ゲズ

會社ハ株式ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ株主ニ拂戻スコトヲ要ス

株式ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ會社ハ從前ノ株主ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求シ若シ從前ノ株主ガ二週間内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ讓渡人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第二百十五條 會社ハ前條第一項ノ處分ニ著手スル日ノ二週間前ニ株式ノ讓渡人ニシテ第二百十九條ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シ其ノ處分ヲ爲スベキ旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

讓渡人ガ株式ノ處分ニ先チ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額以上ノ金額ヲ提供シテ株式ノ買受ヲ申出デタルトキハ會社ハ其ノ讓渡人ニ對シ申出價額ヲ以テ株式ヲ讓渡スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十六條 第二百十四條第一項ノ規定ニ依リ株式ノ競賣ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百十四條第三項ノ規定ヲ準用ス

第二百十七條 前三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第二百十八條 株主ガ第二百十三條第二項ノ期日迄ニ株券ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ其ノ株主及株主名簿ニ記載アル質權者ニ對シ二週間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ株券ハ其ノ效力ヲ失フ

株式ノ割當ニ關シ株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株主ノ氏名及住所

二 各株主ノ有スル株式ノ種類及數並ニ株券ノ番號

三 各株ニ付拂込ミタル株金額及拂込ノ年月日

四 各株式ノ取得ノ年月日

五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ數、番號及發行ノ年月日

第二百二十四條 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其ノ者ガ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ株式申込人、株式引受人、從前ノ株主、株式ノ讓渡人又ハ質權者ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 株券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 會社成立ノ年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 數種ノ株式アルトキハ其ノ株式ノ内容

六 株式ノ讓渡ノ制限又ハ株券ノ裏書ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定

一時ニ株券ノ金額ヲ拂込マシメザル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其ノ金額



ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百二十六條 株券ハ會社ノ成立後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ違反シテ發行シタル株券ハ無効トス但シ株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第二百二十七條 無記名式ノ株券ハ定款ニ定アル場合ニ限り株金全額ノ拂込アリタル株式ニ付之ヲ發行スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其ノ無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第二百二十八條 無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ株券ヲ會社ニ供託スルニ非ザレバ株主ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第二百二十九條 小切手法第二十一條ノ規定ハ株券ニ之ヲ準用ス

株主名簿ニ記載アル株主ノ爲シタル裏書ガ眞正ナラザル場合ニ於テ會社ニ就キ調査ヲ爲サバ其ノ眞偽ヲ判別スルコトヲ得ベカリシモノナルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第二百三十條 株券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得株券ヲ喪失シタル者ハ除權判決ヲ得ルニ非ザレバ其ノ再發行ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第二百三十一條 總會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外取締役之ヲ召集ス

第二百三十二條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ

其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
會社ガ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クベキ旨及會議ノ目的タル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ議決權ナキ株主ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百三十三條 總會ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本店ノ所在地又ハ之ニ隣接スル地ニ之ヲ召集スルコトヲ要ス

第二百三十四條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ之ヲ召集スルコトヲ要ス  
年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎決算期ニ總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二百三十五條 臨時總會ハ必要アル場合ニ隨時之ヲ召集ス

臨時總會ハ監査役モ亦之ヲ召集スルコトヲ得此ノ總會ニ於テハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百三十六條 取締役又ハ監査役ガ總會ヲ召集スルニハ各其ノ過半数ノ議決アルコトヲ要ス

第二百三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後二週間内ニ取締役ガ總會召集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依リテ召集シタル總會ニ於テハ召集ノ費用ハ請求ヲ爲シ

タル株主ノ負擔トスル旨ヲ定ムルコトヲ得

第二百三十八條 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百三十九條 總會ノ議決權ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス

株主ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得但シ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出ダスコトヲ要ス

總會ノ議決權ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

第二百四十條 前條第四項ノ規定ニ依リテ行使スルコトヲ得ザル議決權ノ數ハ同條第一項ノ議決權ノ數ニ之ヲ算入セズ

第二百四十一條 各株主ハ一株ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ヲ制限シ又ハ株式ノ讓受ヲ株主名簿ニ記載シタル後六月ヲ超エザル株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得

會社ハ其ノ有スル自己ノ株式ニ付テハ議決權ヲ有セズ

第二百四十二條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ或種類ノ株式ニ付株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ種類ノ株式ヲ有スル株主ニ第百九十七條第一項、第

二百三十七條第一項第二項、第二百四十五條第二項、第二百六十八條第一項、第二百七十九條第一項、第二百九十四條第一項、第四百二十六條第二項及第四百三十條第二項ノ權利ナキモノトスルコトヲ妨グズ

前項ノ株式ノ株金總額ハ資本ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百四十三條 總會ニ於テハ延期又ハ續行ノ議決ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百三十二條ノ規定ヲ適用セズ

第二百四十四條 總會ノ議事ニ付テハ議事録ヲ作ルコトヲ要ス  
議事録ニハ議事ノ經過ノ要領及其ノ結果ヲ記載シ議長並ニ出席シタル取締役及監査役之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百四十五條 會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡  
二 營業全部ノ賃貸、其ノ經營ノ委任、他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結、變更又ハ解約

三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受

四 第二百六十六條又ハ第二百八十條ノ規定ニ依ル取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除

第二百四十六條 前條第一項ノ規定ハ會社ガ成立後二年内ニ其ノ成立場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條 總會召集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ著シク不正ナルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テ決議ノ取消ヲ請求スルコトヲ得決議ガ第三百四十三條ノ規定ニ違反シテ爲



サレタルトキ亦同ジ

第八十八條、第五百五條第三項第四項及第九百九條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條 決議取消ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ開始スルコトヲ得ズ

第二百四十九條 株主ガ決議取消ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但シ其ノ株主ガ取締役又ハ監査役ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百五十條 決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ決議取消ノ判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十一條 決議取消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ決議ノ内容、會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ取消ヲ不適當ト認ムルトキハ裁判所ハ請求ヲ棄却スルコトヲ得

第二百五十二條 第八十八條、第五百五條第三項第四項、第九百九條、第二百四十九條及第二百五十條ノ規定ハ總會ノ決議ノ内容ガ法令又ハ定款ニ違反スルコトヲ理由トシテ決議ノ無効ヲ確認ヲ請求スル訴ニ之ヲ準用ス

第二百五十三條 株主ガ第二百三十九條第四項ノ規定ニ依リ決議權ヲ行使スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テ決議ガ若シク不當ニシテ其ノ株主ガ決議權ヲ行使シタルトキハ之ヲ阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

數ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及解任亦同ジ

第二百六十一條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス

前項ノ規定ハ定款若ハ株主總會ノ決議ヲ以テ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定メ、數人ノ取締役ガ共同シ若ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メ又ハ定款ノ規定ニ基キ取締役ノ互選ヲ以テ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定ムルコトヲ妨グズ

第三十九條第二項及第七十八條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第二百六十二條 社長、副社長、專務取締役、常務取締役其ノ他會社ヲ代表スル權限ヲ有スルモノト認ムベキ名稱ヲ附シタル取締役ノ爲シタル行為ニ付テハ會社ハ其ノ者ガ代表權ヲ有セザル場合ト雖モ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任ズ

第二百六十三條 取締役ハ定款及總會ノ議事録ヲ本店及支店ニ、株主名簿及社債原簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二百六十四條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノトシテ做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ監査役ノ一人ガ其ノ取引ヲ知りタル時ヨリ二日間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

第二百六十五條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三

第八十八條、第五百五條第三項第四項、第九百九條及第二百四十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二款 取締役

第二百五十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第二百五十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス

第二百五十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ妨グズ

第二百五十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ任期ノ滿了前ニ之ヲ解任シタルトキハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十八條 法律又ハ定款ニ定メタル取締役ノ員數クニ至リタル場合ニ於テハ任期ノ滿了又ハ辭任ニ因リテ退任シタル取締役ハ新ニ選任セラレタル取締役ノ就職スル迄仍舊取締役ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役其ノ他利害關係人ノ請求ニ依リ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十九條 定款ヲ以テ取締役ノ有スベキ株式ノ數ヲ定メタル場合ニ於テ別段ノ定ナキトキハ取締役ハ其ノ員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第二百六十條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過半

者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第八條ノ規定ヲ適用セズ

第二百六十六條 取締役ガ其ノ任務ヲ怠リタルトキハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

取締役ガ法令又ハ定款ニ違反スル行為ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其ノ取締役ハ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百六十七條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ訴ニ付テハ株主總會ノ決議ニ依リニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第二百六十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ノ提起ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタル株主ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百六十九條 取締役ガ受クベキ報酬ハ定款ニ其ノ額ヲ定メザリシトキ



ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第二百七十條 取締役ノ選任決議ノ無効又ハ取消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ本案ノ管轄裁判所ハ當事者ノ申立ニ依リ假處分ヲ以テ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止シ又ハ之ヲ代行スル者ヲ選任スルコトヲ得本案ノ繫屬前ト雖モ急迫ナル事情アルトキ亦同ジ

裁判所ハ當事者ノ申立ニ依リ前項ノ假處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ處分アリタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十一條 前條ノ職務代行者ハ假處分命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得但シ特ニ本案ノ管轄裁判所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

職務代行者前項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル取締役又ハ監査役亦同ジ

第二百七十三條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三款 監査役

第二百七十四條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求め又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第二百七十六條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得但シ取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ定ヲ爲シタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第二百八十三條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ル迄ハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ズ

第二百七十七條 會社ガ取締役ニ對シ又ハ取締役ガ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其ノ訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但シ株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

第二百七十八條 監査役ガ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ於テ取締役モ亦其ノ責ニ任ズベキトキハ其ノ監査役及取締役ハ之ヲ連帶債務者トス

第二百七十九條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三日前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百八十條 七條第一項但書第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百八十一條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

- 一 財産目録
- 二 貸借對照表
- 三 營業報告書
- 四 損益計算書
- 五 準備金及利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第二百八十二條 取締役ハ定時總會ノ會日ノ一週間前ヨリ前條ニ掲グル書類及監査役ノ報告書ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求め又ハ會社ノ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ求めルコトヲ得

第二百八十三條 取締役ハ第二百八十一條ニ掲グル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後遲滞ナク貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百八十四條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタル後二年内ニ別段ノ決議ナキトキハ會社ハ取締役又ハ監査役ニ對シテ其ノ責任ヲ解除

シタルモノト看做ス但シ取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百八十五條 財産目録ニ記載スル營業用ノ固定財産ニ付テハ其ノ取得價額又ハ製作價額ヲ超ユル價額、取引所ノ相場アル有價證券ニ付テハ其ノ決算期前一月ノ平均價格ヲ超ユル價額ヲ附スルコトヲ得ズ

第二百八十六條 第六十八條第一項第七號ノ規定ニ依リ支出シタル金額及設立登記ノ爲ニ支出シタル税額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ會社成立ノ後、若シ開業前ニ利息ヲ配當スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ配當ヲ止メタル後五年内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十七條 社債權者ニ償還スベキ金額ノ總額ガ社債ノ募集ニ依リテ得タル實額ヲ超ユルトキハ其ノ差額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債償還ノ期限内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十八條 會社ハ其ノ資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ毎決算期ノ利益ノ二十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ額面ヲ超ユル金額ヨリ發行ノ爲ニ必要ナル費用ヲ控除シタル金額ハ前項ノ額ニ達スル迄之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第二百八十九條 前條ノ準備金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第二百九十條 會社ハ損失ヲ填補シ且第二百八十八條第一項ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ



前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

**第二百九十一條** 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコト能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス  
第一項ノ規定ニ依リテ配當シタル金額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ年六分ヲ超ユル利益ヲ配當スル毎ニ其ノ超過額ト同額以上ノ金額ヲ償却スルコトヲ要ス

**第二百九十二條** 前條第一項ノ規定ニ依リテ利息ヲ配當スル會社ガ其ノ資本ヲ增加スル場合ニ於テハ新株ニ對シテモ亦利息ヲ配當スルコトヲ要ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テハ配當期間ヲ伸長スルコトヲ得  
前條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第二百九十三條** 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ第二百二十二條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

**第二百九十四條** 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得  
検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ検査役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十一條第二項及第八十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

**第二百九十五條** 身元保證金ノ返還ヲ目的トスル債權其ノ他會社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ生ジタル債權ヲ有スル者ハ會社ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第五節 社債

第一款 總則

**第二百九十六條** 社債ハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ

**第二百九十七條** 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ヲ超ユルコトヲ得ズ  
最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ社債ノ總額ハ其ノ財産額ヲ超ユルコトヲ得ズ

舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ其ノ舊社債ノ償還ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分テ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

**第二百九十八條** 會社ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非ザレバ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ズ

**第二百九十九條** 各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ズ  
同一種類ノ社債ニ在リテハ各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第三百條

社債權者ニ償還スベキ金額ガ券面額ヲ超ユベキコトヲ定メタルトキハ其ノ超過額ハ各社債ニ付同率ナルコトヲ要ス

第三百一一條

社債ノ募集ニ應ゼントスル者ハ社債申込證二通ニ其ノ引受クベキ社債ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 社債ノ總額

三 各社債ノ金額

四 社債ノ利率

五 社債償還ノ方法及期限

六 利息支拂ノ方法及期限

七 數回ニ分テ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

八 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額

九 債券ヲ記名式又ハ無記名式ニ限リタルトキハ其ノ旨

十 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

十一 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額

十二 舊社債ノ償還ノ爲第二百九十七條第一項及第二項ノ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルトキハ其ノ旨

十三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

十四 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アルトキハ其ノ商號

十五 社債ノ應募額ガ總額ニ達セザル場合ニ於テ前號ノ會社ガ其ノ殘額ヲ引受クベキコトヲ約シタルトキハ其ノ旨

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債應募者ハ社債申込證ニ

應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

**第三百一十二條** 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ら社債ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

**第三百一十三條** 社債ノ募集ガ完了シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク各社債ニ付其ノ金額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

**第三百一十四條** 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲ニ

**第三百一十五條** 會社ハ第三百一十三條ノ拂込アリタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
一 第三百一一條第二項第二號乃至第六號及第十四號ニ掲グル事項

二 各社債ニ付拂込ミタル金額  
第六十七條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スベキ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

**第三百一十六條** 債券ハ社債全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

債券ニハ第三百一一條第二項第一號乃至第六號、第九號及第十四號ニ掲グル事項並ニ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

**第三百一十七條** 記名社債ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ債券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對



抗スルコトヲ得ズ

第三百八條 社債権者ハ何時ニテモ其ノ記名式ノ債券ヲ無記名式ト爲シ又ハ其ノ無記名式ノ債券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得但シ債券ヲ記名式又ハ無記名式ニ限ル旨ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百九條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ社債権者ノ爲ニ社債ノ償還ヲ受クルニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス前項ノ會社ガ社債ノ償還ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告シ且知レタル社債権者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ社債権者ハ債券ト引換ニ償還額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ以上アルトキハ其ノ權限ニ屬スル行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十一條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ以上アルトキハ社債権者ニ對シ連帶シテ償還額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第三百十二條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ社債ヲ發行シタル會社及社債権者集會ノ同意ヲ得テ辭任スルコトヲ得已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ得タルトキ亦同ジ

第三百十三條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ其ノ事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ社債ヲ發行シタル會社又ハ社債権者集會ノ請求ニ依リ之ヲ解任スルコトヲ得

第三百十四條 前二條ノ場合ニ於テ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタルトキハ社債ヲ發行シタル會社及社債権者集會ノ一致ヲ以テ其ノ事務ノ承繼者ヲ定ムルコトヲ得

第二款 社債権者集會

第三百十九條 社債権者集會ハ本法ニ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ許可ヲ得テ社債権者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スル事項ニ付決議ヲ爲スコトヲ得

第三百二十條 社債権者集會ハ社債ヲ發行シタル會社又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ノ召集ス

社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債権者ハ會議ノ目的タル事項及召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ前項ノ會社ニ提出シテ社債権者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ供託スルニ非ザレバ前二項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第三百二十一條 各社債権者ハ社債ノ最低額毎ニ一個ノ議決權ヲ有ス無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ債券ヲ供託スルニ非ザレバ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

第三百二十二條 社債ヲ發行シタル會社又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ代表者ヲ社債権者集會ニ出席セシメ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述ブレコトヲ得

社債権者集會ノ召集ハ前項ノ會社ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第二百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第三百二十三條 社債権者集會又ハ其ノ召集者ハ必要アリト認ムルトキハ社債ヲ發行シタル會社ニ對シ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十四條 第三百四十三條第一項乃至第三項及第三百四十四條第二

已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ利害關係人ハ事務承繼者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三百十五條 無記名社債ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百十六條 社債ノ償還請求權ハ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百九條第三項ノ請求權亦前項ニ同ジ

利息及前條第二項ノ請求權ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百十七條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社債権者ノ氏名及住所

二 債券ノ番號

三 第三百一一條第二項第二號乃至第七號及第十四號ニ掲グル事項

四 各社債ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日

五 債券發行ノ年月日

六 各社債ノ取得ノ年月日

七 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ數、番號及發行ノ年月日

第三百十八條 第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ社債應募者又ハ社債権者ニ對スル通知及催告ニ之ヲ準用ス

第二百三條ノ規定ハ社債方數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

項第三項ノ規定ハ社債権者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第三百十二條乃至第三百十四條及前條ノ同意又ハ請求ハ前項ノ規定ニ拘ラズ出席シタル社債権者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得

第三百二十五條 社債権者集會ノ召集者ハ決議ノ日ヨリ一週間内ニ決議ノ認可ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第三百二十六條 裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ社債権者集會ノ決議ヲ認可スルコトヲ得ズ

一 社債権者集會召集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法ガ法令又ハ社債募集ノ目論見書ノ記載ニ違反スルトキ

二 決議ガ不當ノ方法ニ依リテ成立スルニ至リタルトキ

三 決議ガ著シク不正ナルトキ

四 決議ガ社債権者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決議ノ内容其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ決議ヲ認可スルコトヲ妨ゲズ

第三百二十七條 社債権者集會ノ決議ハ裁判所ノ認可ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

社債権者集會ノ決議ハ總社債権者ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第三百二十八條 社債権者集會ノ決議ニ對シ認可又ハ不認可ノ決定アリタルトキハ社債ヲ發行シタル會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百二十九條 社債権者集會ハ社債總額ノ五分ノ一以上ヲ有スル社債権者ノ中ヨリ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スベキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

第三百二十九條 社債権者集會ハ社債總額ノ五分ノ一以上ヲ有スル社債権者ノ中ヨリ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スベキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得



代表者數人アルトキハ前項ノ決定ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

**第三百三十條** 社債權者集會ノ決議ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、若シ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキトキハ前條ノ代表者之ヲ執行ス但シ社債權者集會ノ決議ヲ以テ別ニ執行者ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第三百三十一條** 第三百十條ノ規定ハ代表者又ハ執行者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

**第三百三十二條** 第三百九條、第三百十一條及第三百十六條第二項ノ規定ハ代表者又ハ執行者ガ社債ノ償還ニ關スル決議ヲ執行スル場合ニ之ヲ準用ス

**第三百三十三條** 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者若ハ執行者ヲ解任シ又ハ委任シタル事項ヲ變更スルコトヲ得

**第三百三十四條** 會社ガ社債ノ利息ノ支拂ヲ怠リタルトキ又ハ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スベキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ怠リタルトキハ社債權者集會ノ決議ニ依リ會社ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ辨濟ヲ爲スベキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フベキ旨ヲ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ通知ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
會社ガ第一項ノ期間内ニ辨濟ヲ爲サザルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

**第三百三十五條** 前條ノ規定ニ依リ會社ガ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ前條第一項ノ決議ヲ執行スル者ハ遲滞テク其ノ旨ヲ公告シ且知レタル社債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

爲ガ著シク不正ナルトキハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ訴ヲ以テ其ノ行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ訴ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ取消ノ原因タル事實ヲ知りタル時ヨリ六月、行爲ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス  
第八十八條並ニ民法第四百二十四條第一項但書及第四百二十五條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

**第三百四十一條** 社債權者集會ノ決議アルトキハ代表者又ハ執行者モ亦前條第一項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得但シ行爲ノ時ヨリ一年内ニ限ル

第六節 定款ノ變更

**第三百四十二條** 定款ノ變更ヲ爲スニハ株主總會ノ決議アルコトヲ要ス定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第二百三十二條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

**第三百四十三條** 前條第一項ノ決議ハ總株主ノ半数以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ニ定ムル員數ノ株主ガ出席セザルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ趣旨ヲ公告シ更ニ一月内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス  
第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ

**第三百四十四條** 前條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ議決權ナキ株主ハ之ヲ總株主ノ員數ニ、其ノ有スル株式ノ金額ハ之ヲ資本ノ額ニ算入セズ

**第三百三十六條** 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ニ對シテ與フベキ報酬及其ノ事務處理ノ爲ニ要スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社トノ契約ニ其ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ許可ヲ得テ會社ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ハ償還ヲ受ケタル金額ヨリ社債權者ニ先チテ前項ノ報酬及費用ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

**第三百三十七條** 社債權者集會ニ關スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社ノ負擔トス

第二百三十七條第三項ノ規定ハ第三百二十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リテ社債權者集會ヲ召集シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條ノ請求ニ關スル費用ハ會社ノ負擔トス但シ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ニ付別ニ負擔者ヲ定ムルコトヲ得

**第三百三十八條** 數種ノ社債ヲ發行シタル場合ニ於テハ社債權者集會ハ各種類ノ社債ニ付テ之ヲ召集スルコトヲ要ス

**第三百三十九條** 第二百三十二條、第二百三十九條第三項第四項、第二百四十條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條及第二百四十四條ノ規定ハ社債權者集會ニ之ヲ準用ス

社債權者集會ノ議事録ハ社債ヲ發行シタル會社其ノ本店ニ之ヲ備置クコトヲ要ス

社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社及社債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ノ議事録ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

**第三百四十條** 會社ガ或社債權者ニ對シテ爲シタル辨濟、和解其ノ他ノ行

第二百三十九條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セザル者ハ之ヲ總株主ノ員數ニ算入セズ

第二百四十條ノ規定ハ前條第一項乃至第三項ノ議決權ニ之ヲ準用ス

**第三百四十五條** 會社ガ數種ノ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更ガ或種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ決議ノ外其ノ種類ノ株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス

或種類ノ株主ノ總會ノ決議ハ其ノ種類ノ株主ノ半数以上ニシテ株主總會ノ議決權ニ關スル規定ハ議決權ナキ種類ノ株式ニ關スルモノヲ除クノ外第一項ノ總會ニ之ヲ準用ス

**第三百四十六條** 前條ノ規定ハ第二百二十二條第二項ノ決議ヲ爲ス場合及會社ノ合併ニ因リテ或種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキ場合ニ之ヲ準用ス

**第三百四十七條** 第二百二十二條第二項及前二條ノ規定ハ同種類ノ株式中ニ拂込額ヲ異ニスル二種以上ノモノアル場合ニ之ヲ準用ス

**第三百四十八條** 左ノ事項ハ定款ニ定ナキトキト雖モ資本増加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

- 一 新株ノ額面以上ノ發行
- 二 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格並ニ之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數
- 三 資本ノ増加後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名
- 四 新株ノ引受權ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ内容

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二二九



第三百四十九條 會社が特定ノ者ニ對シ將來其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ新株ノ引受權ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第三百五十條 株式申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 増加スベキ資本ノ額

三 資本増加ノ決議ノ年月日

四 第一回拂込ノ金額

五 第七十五條第二項第五號第六號及第三百四十八條第一號乃至第三號ニ掲グル事項

六 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ内容及數

七 一定ノ時期迄ニ第三百五十一條ノ總會ガ終結セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ベキコト

第三百五十一條 資本増加ノ場合ニ於テ各新株ニ付第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

新株ノ引受人ハ前項ノ總會ニ於テ株主ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百五十二條 新株ノ引受人ハ株金ノ拂込期日ヨリ利益又ハ利息ノ配當ニ付株主ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百五十三條 會社ノ成立後二年內ニ其ノ資本ヲ増加スル決議ヲ爲シ又ハ資本ノ倍額以上ニ増加スル場合ニ於テ第三百四十八條第二號又ハ第三

號ニ掲グル事項

一 増加シタル資本ノ額

二 資本増加ノ決議ノ年月日

三 各新株ニ付拂込ミタル株金額

四 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ内容及數

第六十七條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條 資本ノ増加ハ本店ノ所在地ニ於テ前條第一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

資本増加ノ年月日ハ之ヲ新株券ニ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 資本増加ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ株主ガ其ノ引受ケタル新株ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉換ヲ請求シ得ベキ期間及轉換ニ因リテ受クベキ株式ノ内容ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百六十條 前條ノ場合ニ於テハ株式申込證、株券及株主名簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株式ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト

二 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容

三 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

資本増加ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十一條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ株券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル株式ノ數及請求ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二四一

號ニ掲グル事項ヲ定メタルトキハ取締役ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル爲検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第三百五十四條 監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤ

監査役ハ前條第一項ノ検査役ノ報告書ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス

株主總會ハ第一項ノ調査及報告ヲ爲サシムル爲特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第三百五十五條 第三百五十三條第一項ノ場合ニ於テハ第三百五十一條ノ株主總會ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三百五十六條 引受ナキ株式又ハ第七十七條ノ規定ニ依ル拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ遲滞シテ其ノ株式ノ引受又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込ガ取消サレタルトキ亦同ジ

第三百五十七條 會社ハ第三百五十一條ノ株主總會終結ノ日又ハ第三百五十五條第二項ノ手續終了ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十二條 轉換ハ其ノ請求ヲ爲シタル時ノ屬スル營業年度ノ終ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

第三百六十三條 轉換ニ因リテ生ジタル各種類ノ株式ノ數ノ増減ハ每營業年度ノ終ヨリ一月內ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十四條 社債募集ノ場合ニ於テハ社債權者ガ社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨且轉換ノ限度ニ於テ資本ヲ増加スベキ旨ヲ決議スルコトヲ得

前項ノ決議ニ於テハ轉換ノ條件、轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容及轉換ヲ請求シ得ベキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百六十五條 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ハ全額拂込済ノモノトス

轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ金額ハ轉換スベキ社債ノ發行價額ヲ超スルコトヲ得ズ

第二百八十八條第三項ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 轉換社債ニ付テハ社債申込證、債券及社債原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト

二 轉換ノ條件

三 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容

四 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

社債ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十七條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ債券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス



前項ノ請求書ニハ轉換セントスル社債ヲ表示シ請求ノ年月日ヲ記載シテ之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百六十八條 第二百八條第一項及第三百六十二條ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百六十九條 轉換ニ因リテ生ジタル資本ノ増加及社債ノ減少ハ每營業年度ノ終ヨリ一月内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十四條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百七十條 第七十五條第一項第三項第四項、第七十六條乃至第七十九條、第八十九條、第九十條第一項及第九十一條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十條第二項ノ規定ハ取締役及監査役ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條ノ規定ハ新株ノ發行ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條 資本増加ノ無効ハ第三百五十七條又ハ第三百六十九條ノ規定ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ訴テ以テ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ訴ハ株主、取締役又ハ監査役ニ限りテ提起スルコトヲ得

第三百七十二條 第八十八條、第九十五條第二項乃至第四項、第七條、第九十九條、第三百三十七條及第二百四十九條ノ規定ハ前條ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條 資本ノ増加ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ資本ノ増加ニ因リテ發行シタル新株ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル實權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

第三百七十八條 株式ノ併合アリタル場合ニ於テ舊株券ヲ提出スルコト能ハザル者アルトキハ會社ハ其ノ者ノ請求ニ依リ利害關係人ニ對シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ其ノ期間經過後ニ於テ新株券ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

第三百七十九條 併合ニ適セザル株式アルトキハ其ノ併合ニ適セザル部分ニ付新ニ發行シタル株式ヲ競買シ且株數ニ應ジテ其ノ代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第二百十四條第一項但書及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
前二項ノ規定ハ無記名式ノ株券ニシテ第三百七十七條第一項ノ規定ニ依リ提出ナカリシモノニ之ヲ準用ス

第三百八十條 資本減少ノ無効ハ本店ノ所在地ニ於テ資本減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ訴テ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又ハ資本ノ減少ヲ承認セザル債權者ニ限りテ提起スルコトヲ得

第八十八條、第九十五條第二項乃至第四項、第九十六條、第九十七條、第九十九條、第三百三十七條及第二百四十九條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第七節 會社ノ整理

第三百八十一條 會社ノ現況其ノ他ノ事情ニ依リ支拂不能又ハ債務超過ニ陥ルノ虞アリト認ムルトキハ裁判所ハ取締役、監査役、三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主又ハ拂込株金額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權者ノ申立ニ依リ會社ニ對シ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ支拂不能又ハ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

第三百七十四條 前條第一項ノ場合ニ於テハ會社ハ新株ノ株主ニ對シ其ノ拂込ミタル株金ニ相當スル金額ヲ支拂フ爲スコトヲ要ス

前項ノ金額ガ前條第一項ノ判決確定ノ時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ照シ著シク不相當ナルトキハ裁判所ハ會社又ハ前項ノ株主ノ請求ニ依リ前項ノ金額ノ増減又ハ未拂込株金額ノ拂込ヲ命ズルコトヲ得

第二百八條第一項及第二百九條第一項第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十五條 第二百四十五條第一項ノ規定ハ會社ガ資本ノ増加後二年内ニ其ノ増加前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ増加資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十六條 資本減少ノ場合ニ於テハ其ノ決議ニ於テ減少ノ方法ヲ定ムルコトヲ要ス

第九十九條及第一百條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

社債權者ガ異議ヲ述ブルニハ社債權者集會ノ決議ニ依ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ社債權者ノ爲ニ異議ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第三百七十七條 株式ノ併合ヲ爲サントスルトキハ會社ハ其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル實權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

株式ノ併合ハ前項ノ期間満了ノ時、若シ第一百條ノ手續ガ未ダ終了セザルトキハ其ノ終了ノ時ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

會社ノ業務ヲ監督スル官廳ハ會社ニ前項ニ掲グル事由アリト認ムルトキハ裁判所ニ其ノ旨ヲ通告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得

整理開始ノ申立ガ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三百八十二條 裁判所整理ノ開始ヲ命ジタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記所ニ整理開始ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第三百八十三條 整理開始ノ申立又ハ通告アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ破産手續及和議手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

整理開始ノ命令アリタルトキハ破産若ハ和議ノ申立又ハ會社財産ニ對スル強制執行、假差押若ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ズ破産手續、和議手續並ニ既ニ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ之ヲ中止ス

整理開始ノ命令ガ確定シタルトキハ前二項ノ規定ニ依リテ中止シタル手續ハ整理ノ關係ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第三百八十四條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者ノ一般ノ利益ニ適應シ且競買申立人ニ不當ノ損害ヲ及ボスノ虞ナキモノト認ムルトキハ裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ競買法ニ依リ競買手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第三百八十五條 整理開始ノ命令アリタルトキハ會社ノ債權者ノ債權ニ付テハ整理開始ノ取消ノ登記又ハ整理終結ノ登記ノ日ヨリ二月内ハ時效完

成セズ

第三百八十六條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得



- 一 會社ノ業務ノ制限其ノ他會社財產ノ保全處分
- 二 株主ノ名義書換ノ禁止
- 三 會社ノ業務及財產ニ對スル検査ノ命令
- 四 整理又ハ和議ニ關スル立案及實行ノ命令
- 五 取締役又ハ監査役ノ解任
- 六 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ禁止
- 七 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ取消但シ整理ノ開始ヨリ一年前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正ノ目的ニ出デタルモノニ限ル
- 八 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ニ基ク損害賠償請求權ノ査定
- 九 前號ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シテ爲ス保全處分

十 會社ノ業務及財產ニ關スル監督ノ命令

十一 會社ノ業務及財產ニ關スル管理ノ命令

整理開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ裁判所ハ其ノ開始前ト雖モ第三百八十一條第一項ニ掲グル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ前項第一號乃至第三號、第九號又ハ第十號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

**第三百八十七條** 裁判所前條第一項第五號、第十號又ハ第十一號ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス前條第一項第一號ノ業務ノ制限ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同ジ

前條第一項第一號又ハ第九號ノ處分ニシテ登記又ハ登録ヲ爲スベキ財產ニ關スルモノニ付テハ裁判所ハ直ニ其ノ登記又ハ登録ヲ囑託スルコトヲ要ス

爲スニ付之ト協力ス

前條第一項ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

**第三百九十二條** 整理ノ實行上又ハ和議ノ爲株金ノ拂込ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ取締役ハ各株主ニ對シ其ノ有スル株式ノ數及未拂込株金額ヲ通知シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ催告スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

株主ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ通知シタル事項ヲ承認シタルモノト看做ス

株主ガ異議ヲ述ベタルトキハ取締役ハ其ノ確定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

**第三百九十三條** 取締役ハ前條ノ承認又ハ確定アリタル事項ニ基キ株主表ヲ作ルコトヲ要ス

取締役株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキハ其ノ拂込金額ニ付裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

會社ハ株主ニ對シ前項ノ認可ノ記載アル株主表ノ抄本ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

**第三百九十四條** 第三百八十六條第一項第八號ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一月内ニ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

査定ヲ認可シ又ハ之ヲ變更シタル判決ハ強制執行ニ關シテハ給付ヲ命ズル判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八十八條及第一百五條第二項第三項ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

**第三百九十五條** 前條第一項ノ期間内ニ訴ノ提起ナキトキハ査定ハ給付ヲ命ズル確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス訴ガ却下セラレタルトキ亦同ジ

検査役ハ會社ノ業績ガ不良ト爲リタル事情及發起人、取締役又ハ監査役ニ不正又ハ懈怠ナカリシヤ否ヲモ調査スルコトヲ要ス

**第三百八十九條** 検査役ハ調査ノ結果殊ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 整理ノ見込アルヤ否ヤ
- 二 發起人、取締役又ハ監査役ニ第九十二條、第九十三條、第二百六十六條、第二百八十七條又ハ第三百五十六條ノ規定ニ依リテ責任ズベキ事實アルヤ否ヤ
- 三 會社ノ業務及財產ニ付監督又ハ管理ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ
- 四 會社財產ノ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ
- 五 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

**第三百九十條** 検査役ハ發起人、取締役、監査役及支配人其ノ他ノ使用人ニ對シ會社ノ業務及財產ノ狀況ニ付報告ヲ求メ會社ノ帳簿、書類、金錢其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

検査役ハ其ノ調査ヲ爲スニ當リ裁判所ノ許可ヲ得テ執達吏又ハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

**第三百九十一條** 第三百八十六條第一項第四號ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ整理委員ヲ選任スルコトヲ得

整理委員ハ整理又ハ和議ニ關スル立案ノ任ニ當リ且取締役ガ其ノ實行ヲ要ス

**第三百九十六條** 査定ノ申立ハ時効ノ中断ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス職權ニ依リ査定手續ノ開始亦同ジ

**第三百九十七條** 第三百八十六條第一項第十號ノ監督ハ裁判所ノ選任シタル監督員之ヲ爲ス

取締役ガ裁判所ノ指定シタル行爲ヲ爲スニハ監督員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三百九十條第一項ノ規定ハ監督員ニ之ヲ準用ス

**第三百九十八條** 第三百八十六條第一項第十一號ノ管理ハ裁判所ノ選任シタル管理人之ヲ爲ス

會社ノ代表、業務ノ執行並ニ財產ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ管理人ニ專屬ス第二百四十七條、第三百七十一條、第三百八十條、第四百十五條及第四百二十八條ノ規定ニ依リ取締役ノ權利亦同ジ

第三百九十條ノ規定ハ管理人ニ之ヲ準用ス

**第三百九十九條** 整理ガ終了シ又ハ整理ノ必要ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ第三百八十一條第二項ニ掲グル者、検査役、整理委員、監督員又ハ管理人ノ申立ニ依リ整理終結ノ決定ヲ爲スコトヲ得

**第四百條** 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者ノ一般ノ利益ノ爲ニ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ和議ノ申立ヲ爲スコトヲ認可スルコトヲ得

裁判所前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ和議法ニ從ヒ和議手續ヲ爲スコトヲ要ス



第四百二條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ整理ノ見込ナキトキハ裁  
判所ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第四百三條 破産法第四百條ノ規定ハ整理ノ場合ニ之ヲ準用ス

破産法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ハ検査役、整理委員、監督  
員及管理人ニ之ヲ準用ス

第八節 解散

第四百四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 第九十四條第一號、第三號、第五號及第六號ニ掲グル事由

二 株主總會ノ決議

三 營業全部ノ讓渡

第四百五條 解散ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲  
スコトヲ得ズ

第四百六條 會社ガ存立時期ノ満了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生又ハ  
株主總會ノ決議ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ第三百四十三條ニ定ム  
ル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第四百七條 會社ガ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除クノ外取締役ハ選滞  
ナク株主ニ對シテ其ノ旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場  
合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四百八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ合併契約書ヲ作り株主總會ノ承認ヲ得  
ルコトヲ要ス

合併契約書ノ要領ハ第二百三十二條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スル  
コトヲ要ス

第一項ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ

得ズ

第四百九條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存続スル場合ニ於テハ合併契  
約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 存続スル會社ノ増加スベキ資本ノ額
- 二 存続スル會社ノ發行スベキ新株ノ種類、數及拂込金額並ニ合併ニ因  
リテ消滅スル會社ノ株主ニ對スル新株ノ割當ニ關スル事項
- 三 合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ支拂ヲ爲スベキ金額ヲ定メタル  
トキハ其ノ規定
- 四 各會社ニ於テ前條第一項ノ決議ヲ爲スベキ株主總會ノ期日
- 五 合併ヲ爲スベキ時期ヲ定メタルトキハ其ノ規定

第四百十條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ  
事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 合併ニ因リテ設立スル會社ノ目的、商號、資本ノ總額、一株ノ金額  
及本店ノ所在地
- 二 合併ニ因リテ設立スル會社ノ發行スベキ株式ノ種類、數及拂込金額  
並ニ各會社ノ株主ニ對スル株式ノ割當ニ關スル事項
- 三 各會社ノ株主ニ支拂ヲ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 四 前條第四號及第五號ニ掲グル事項

第四百十一條 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ株式  
會社ナル場合ニ於テ合併ヲ爲ス會社ノ一方又ハ雙方ガ合名會社又ハ合資  
會社ナルトキハ總社員ノ同意ヲ得テ合併契約書ヲ作ルコトヲ要ス

前二條ノ規定ハ前項ノ合併契約書ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存続スル場合ニ於テハ其ノ

取締役ハ第五百條ノ手續ノ終了後、合併ニ因ル株式ノ併合アリタルトキハ  
其ノ效力ヲ生ジタル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ合併後存続  
スル會社ニ於テ第三百七十九條ノ處分ヲ爲シタル後選滞ナク株主總會ヲ  
召集シテ之ニ合併ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第三百五十一條第二項ノ規定ハ前項ノ株主總會ニ關シテ之ヲ準用ス

第四百十三條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ設立委員ハ第百  
條ノ手續ノ終了後、合併ニ因ル株式ノ併合アリタルトキハ其ノ效力ヲ生  
ジタル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ第三百七十九條ノ處分ヲ  
爲シタル後選滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ定款變更ノ決議ヲモ爲スコトヲ得但シ合併契約ノ趣旨  
ニ反スルコトヲ得ズ

第一百八十條第二項第三項、第一百八十二條、第一百八十三條及第一百八十七條  
第二項ノ規定ハ第一項ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第四百十四條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第四百十二條ノ株主總會又ハ  
前條ノ創立總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所  
在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併  
ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會  
社ニ付テハ第百八十八條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併ニ因リテ社  
債ヲ承繼シタルトキハ前項ノ登記ト同時ニ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十五條 合併ノ無効ノ訴ハ各會社ノ株主、取締役、監査役、清算人、  
破産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二四七

第一百條、第一百二條、第一百三條、第一百四條第一項第三項及第一百五條乃至第  
百一十一條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第三百七十六條第三項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十七條乃至第三百七十九條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合  
ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百八條第一項及第二百九條第三項ノ規定ハ株式ヲ併合セザル場合ニ  
於テ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株式ヲ目的トスル債權ニ之ヲ準用ス

第九節 清算

第一款 總則

第四百十七條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外取締  
役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他  
人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求  
ニ依リ清算人ヲ選任ス

第四百十八條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二週間内ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ  
届出ヅルコトヲ要ス

- 一 解散ノ事由及其ノ年月日
- 二 清算人ノ氏名及住所

第四百十九條 清算人ハ就職ノ後選滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目  
録及貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ  
要ス

清算人ハ前項ノ承認ヲ得タル後選滞ナク財産目録及貸借對照表ヲ裁判所  
ニ提出スルコトヲ要ス



第四百二十條 清算人ハ財産目録、貸借對照表及事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第四百二十一條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ債權ヲ申出ゾベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

第四百二十二條 清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ債權ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第四百二十三條 清算人ハ第四百二十一條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ズ但シ會社ハ之ガ爲ニ遲延ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトナシ

第四百二十四條 清算ヨリ除外セラレタル債權者ハ未ダ分配セザル殘餘財産ニ對シテノミ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十五條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但シ第二百二十二條第一項ノ規定ノ適用除外

第四百二十六條 清算人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ裁判所ノ許可ヲ得テ少額ノ債權及擔保アル債權其ノ他之ヲ辨濟スルモ他ノ債權者ヲ害スルノ虞ナキ債權ニ付辨濟ヲ爲スコトヲ得

第四百二十七條 清算事務ガ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第四百二十八條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百二十九條 會社ノ帳簿竝ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ清算人其ノ他ノ利害關係人ノ請求ニ依リ裁判所之ヲ選任ス

第四百三十條 第四百二十六條、第四百二十七條、第四百二十八條、第四百二十九條、第四百三十條、第四百三十一條及第四百三十四條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百三十一條 清算ノ遂行ニ著シキ支障ヲ來スベキ事情アリト認ムルトキハ裁判所ハ債權者、清算人、監査役若ハ株主ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會社ニ對シテ特別清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

第四百三十二條 特別清算開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ裁判所ハ其ノ開始前ト雖モ前條第一項ニ掲ケル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ第四百三十三條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百三十三條 第三百八十二條乃至第三百八十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十四條 特別清算ノ場合ニ於テハ清算人ハ會社、株主及債權者ニ對シ公平且誠實ニ清算事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第四百三十五條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四百三十六條 清算人ガ缺ケタルトキ又ハ其ノ増員ノ必要アルトキハ裁判所之ヲ選任ス

第四百三十七條 裁判所ハ何時ニテモ清算事務及財産ノ狀況ノ報告ヲ命ジ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二四九

第四百二十六條 清算人ハ裁判所ノ選任シタルモノヲ除クノ外何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第四百二十七條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四百二十八條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百二十九條 會社ノ帳簿竝ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ清算人其ノ他ノ利害關係人ノ請求ニ依リ裁判所之ヲ選任ス

第四百三十條 第四百二十六條、第四百二十七條、第四百二十八條、第四百二十九條、第四百三十條、第四百三十一條及第四百三十四條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百三十一條 清算ノ遂行ニ著シキ支障ヲ來スベキ事情アリト認ムルトキハ裁判所ハ債權者、清算人、監査役若ハ株主ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會社ニ對シテ特別清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

第四百三十二條 特別清算開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ裁判所ハ其ノ開始前ト雖モ前條第一項ニ掲ケル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ第四百三十三條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百三十三條 第三百八十二條乃至第三百八十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十四條 特別清算ノ場合ニ於テハ清算人ハ會社、株主及債權者ニ對シ公平且誠實ニ清算事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第四百三十五條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四百三十六條 清算人ガ缺ケタルトキ又ハ其ノ増員ノ必要アルトキハ裁判所之ヲ選任ス

第四百三十七條 裁判所ハ何時ニテモ清算事務及財産ノ狀況ノ報告ヲ命ジ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二四九



第四百四十二條 第二百三十二條第一項第二項、第二百三十九條第三項、

第二百四十三條、第二百四十四條、第三百二十一條第二項及破産法第百

七十九條ノ規定ハ債權者集會ニ之ヲ準用ス

第二百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ第四百四十條第二項ノ通知ニ之

ヲ準用ス

第四百四十三條 清算人ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ノ調査書、財産目録並

ニ貸借對照表ヲ債權者集會ニ提出シ且清算ノ實行ノ方針及見込ニ關シ意

見ヲ述ブルコトヲ要ス

第四百四十四條 債權者集會ハ監査委員ヲ選任スルコトヲ得

監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

前二項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十五條、第三百九十條第一項及第四百三條第二項ノ規定ハ監査

委員ニ之ヲ準用ス

第四百四十五條 清算人左ノ行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、若シ監査委

員ナキトキハ債權者集會ノ決議アルコトヲ要ス但シ三千圓以上ノ價額ヲ

有スルモノニ關セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 會社財産ノ處分

二 借財

三 訴ノ提起

四 和解及仲裁契約

五 權利ノ拋棄

債權者集會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テ急迫ナル事情アルトキハ清算人ハ

裁判所ノ許可ヲ得テ前項ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得

清算人前二項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シ

テ其ノ責ニ任ズ

第二百四十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニハ之ヲ適用セズ

第四百四十六條 清算人ハ競賣ニ依リテ財産ヲ換價スルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用セズ

第四百四十七條 清算人ハ監査委員ノ意見ヲ確キ債權者集會ニ對シテ協定

ノ申出ヲ爲スコトヲ得

第四百四十八條 協定ノ條件ハ各債權者ノ間ニ平等ナルコトヲ要ス但シ少

額ノ債權ニ付別段ノ定ヲ爲シ其ノ他債權者間ニ差等ヲ設クルモ衡平ヲ害

セザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ハ前項ノ條件ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌

スルコトヲ要ス

第四百四十九條 協定案ノ作成ニ當リ必要アリト認ムルトキハ清算人ハ第

四百三十九條第四項ノ債權者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第四百五十條 協定ヲ可決スルニハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ出席債

權者ノ過半數ニシテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ノ總債權ノ四

分ノ三以上ニ當ル債權ヲ有スルモノノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

破産法第三百二十一條及第三百二十六條ノ規定ハ協定ニ之ヲ準用ス

第四百五十一條 協定ノ實行上必要アルトキハ協定ノ條件ヲ變更スルコト

ヲ得此ノ場合ニ於テハ前四條ノ規定ヲ準用ス

第四百五十二條 會社財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ

清算人、監査役、監査委員、三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當

ル株式ヲ有スル株主若ハ申出ヲ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債

權者ノ總債權ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ノ申立ニ依リ又ハ職

權ヲ以テ會社ノ業務及財産ノ検査ヲ命ズルコトヲ得

第三百八十八條、第三百九十條及第四百三十九條第四項ノ規定ハ前項ノ

場合ニ之ヲ準用ス

第四百五十三條 検査役ハ調査ノ結果殊ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ報告スルコ

トヲ要ス

一 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ニ第九十二條、第九十三條、

第二百六十六條、第二百八十條、第三百五十六條又ハ第四百三十條第

二項ノ規定ニ依リテ責ニ任ズベキ事實アルヤ否ヤ

二 會社財産ノ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

三 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ財

産ニ對シ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

第四百五十四條 前條ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキ

ハ裁判所ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 會社財産ノ保全處分

二 株主ノ名義書換ノ禁止

三 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ責任ノ免除ノ禁止

四 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ責任ノ免除ノ取消但シ特別清

算ノ開始ヨリ一年前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正ノ目的ニ出デタルモ

ノニ限ル

五 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ責任ニ基ク損害賠償請求權ノ

査定

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二五一

六 前號ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ財

産ニ對シテ爲ス保全處分

第三百八十七條第二項ノ規定ハ前項第一號又ハ第六號ノ處分アリタル場

合ニ之ヲ準用ス

第三百九十四條乃至第三百九十六條ノ規定ハ第一項第五號ノ査定アリタ

ル場合ニ之ヲ準用ス

第四百五十五條 特別清算開始ノ命令アリタル場合ニ於テ協定ノ見込ナキ

トキハ裁判所ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス協

定ノ實行ノ見込ナキトキ亦同シ

第四百五十六條 第三百九十二條、第三百九十三條、第三百九十九條及第

四百條並ニ破産法第四百條、第二百三條及第二百四條ノ規定ハ特別清算

ノ場合ニ之ヲ準用ス

破産法第六十五條及第六十六條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第四百五十七條 株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第四百五十八條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

一 無限責任社員相互間ノ關係

二 無限責任社員ト會社、株主及第三者トノ關係

三 無限責任社員ノ退社

此ノ他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外株式會社ニ

關スル規定ヲ準用ス

第四百五十九條 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項

ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス



一 第六十六條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項

二 株金ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名及住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ目的及其ノ價格又ハ評價ノ標準

第四百六十條 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

株式申込証ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第六十八條第一項、第七十五條第二項第一號第四號乃至第七號及前條ニ掲グル事項

二 無限責任社員ガ株式ヲ引受ケタルトキハ其ノ各自ガ引受ケタル株式ノ種類及數

第四百六十一條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ズ

第四百六十二條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其ノ意見ヲ述ブルコトヲ得但シ株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決權ヲ有セズ

前項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第四百六十三條 監査役ハ第八十四條第一項及第四百五十九條第四號ニ掲グル事項並ニ第八十一條第二項ノ報告書ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第四百六十四條 創立總會ガ定款ノ變更ヲ決議シタル場合ニ於テ其ノ決議ノ日ヨリ一週間内ニ無限責任社員ノ一致ナキトキハ設立ノ廢止ヲ決議シタルモノト看做ス

第四百六十五條 株式合資會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

ルコトヲ要ス

一 第六十六條第一項第一號第二號第四號第六號及第八十八條第二項第二號乃至第八號ニ掲グル事項

二 株金ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名及住所

四 監査役ノ氏名及住所

五 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ目的、財産ヲ目的トスル出資ニ付テハ其ノ價格及履行ヲ爲シタル部分

六 無限責任社員ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

七 數人ノ無限責任社員ガ共同シ又ハ無限責任社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

第四百六十六條 會社ヲ代表スベキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第二百五十四條乃至第二百五十九條、第二百六十四條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第四百六十七條 株式會社ニ於テ第三百四十三條ニ定ムル決議ヲ要スル事項又ハ合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第三百四十三條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第四百六十八條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ズ

第四百六十九條 株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス營業全部ノ讓渡アリタルトキ亦同ジ

第四百七十二條ノ規定ハ株式合資會社ニハ之ヲ適用セズ

第四百七十條 無限責任社員ノ全員ガ退社シタル場合ニ於テハ株主ハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四百七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十一條 無限責任社員ガ株式ノ全部ヲ取得シタル場合ニ於テハ其ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得株式全部ノ消却アリタル場合亦同ジ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條 會社ガ解散シタルトキハ合併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除クノ外清算ハ業務執行社員ノ全員又ハ無限責任社員ノ選任シタル者及株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

無限責任社員ガ清算人ヲ選任スルトキハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ業務執行社員ノ全員又ハ無限責任社員ノ選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

第四百七十三條 無限責任社員ハ何時ニテモ其ノ選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條 第四百四十四條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第四百七十五條 清算人ハ第四百十九條、第四百二十條及第四百二十七條

ニ定ムル計算ニ付株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四百七十六條 株式合資會社ハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

第四百七十七條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直ニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此ノ總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其ノ引受ケベキ株式ノ數ニ應ジテ議決權ヲ行使スルコトヲ得

第四百七十八條 第四章第七節及第九節第二款ノ規定ハ株式合資會社ニハ之ヲ適用セズ

第六章 外國會社

第四百七十九條 外國會社ガ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似スルモノト同一ノ登記及公告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ外國會社ハ其ノ日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設置ノ登記ト同時ニ其ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第四百八十條 前條第一項及第二項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第四百八十一條 外國會社ガ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ス迄ハ第三者ハ其ノ會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得



第四百八十二條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ於テ營業ヲ爲スヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第四百八十三條 第二百四條乃至第二百七條、第二百九條第一項、第二十二條、第二百二十七條第一項、第三百六條第一項、第三百七條、第三百八條及第三百七十條第三項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株券又ハ債券ノ發行及其ノ株式ノ移轉若ハ質入又ハ社債ノ移轉ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス

第四百八十四條 外國會社ガ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ支店設置ノ登記ヲ爲シタル後一年內ニ營業ヲ開始セズ若ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキ又ハ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ支店ノ閉鎖ヲ命ズルコトヲ得

外國會社ノ代表者其ノ他支店ニ於テ業務ヲ執行スル者ガ法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第五十八條第三項、第五十九條及第六十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百八十五條 前條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ日本ニ在ル會社財産ノ全部ニ付清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ清算人ハ裁判所之ヲ選任ス

第四百九十一條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者株金ノ拂込ヲ假裝スル爲預合ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同ジ

第四百九十二條 前六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百九十三條 第四百八十六條若ハ第四百八十七條ニ掲グル者、検査役又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第四百九十四條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二五五

第七章 罰則

第四百八十六條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル無限責任社員、監査役又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項若ハ第二百八十條ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任

務ニ背キ會社ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ七年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

整理委員、監督員、第三百九十八條第一項ノ管理入又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ清算人若ハ第四百三十條第二項ノ職務代行者前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四百八十七條 社債權者集會ノ代表者又ハ其ノ決議ヲ執行スル者自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ社債權者ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ社債權者ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百八十八條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百八十九條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者又ハ検査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ株式總數ノ引受、株金ノ拂込若ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第六十八條第一項第四號乃至第七號若ハ第三百四十八條第二號第三號ニ掲グル事項ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ株式ヲニ處ス

一 創立總會、株主總會、社債權者集會又ハ債權者集會ニ於ケル發言又ハ議決權ノ行使

二 第四章及第五章ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主若ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ノ權利ノ行使

三 第三百八十一條第一項、第四百三十一條第一項、第四百三十九條第一項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第四百九十五條 第四百九十三條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四百九十六條 第四百九十三條第二項又ハ第四百九十四條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四百九十七條 株金拂込ノ責任ヲ免ルル目的ヲ以テ他人又ハ假設人ノ名義ヲ用ヒテ株式ヲ引受ケ若ハ讓受ケタル者又ハ株式ノ讓渡ヲ假裝シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百九十八條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役、検査役、清算人、整理委員、監督員、第三百九十八條第一項ノ管理入、監査委員、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、其ノ事務ノ承繼者、社債權者集會ノ代表者、其ノ決議ヲ執行スル者又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項、第二百八十條若ハ第四百三十條第二項ノ職務代行者若ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ



付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 本編ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本編ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本編ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

四 本編ニ定ムル検査又ハ調査ヲ妨ゲタルトキ

五 官廳、總會、社債權者集會又ハ債權者集會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六 第九十九條、第一百條、第一百七條第三項、第三百七十六條第二項又ハ第四百十六條第一項ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分又ハ資本ノ減少ヲ爲シタルトキ

七 第二百二十四條第三項若ハ第四百三十條第一項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ第四百三十一條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八 第三百十一條又ハ第四百三十條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

九 第七十五條第二項、第三百一一條第二項、第三百五十條、第三百六十條第一項、第三百六十六條第一項又ハ第四百六十條第二項ノ規定ニ違反シテ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第九十條第二項又ハ第三百七十條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ノ引受ニ因ル權利ノ讓渡ヲ爲シタルトキ

カザルトキ

二十一 第二百八十八條又ハ第二百八十九條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

二十二 第二百九十七條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザルトキ

二十三 第三百六條第一項又ハ第四百八十三條ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ

二十四 第三百八十六條、第四百三十二條、第四百三十七條又ハ第四百五十四條第一項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財産保全ノ處分ニ違反シタルトキ

二十五 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

二十六 清算ノ結了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ第一百七條第三項又ハ第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十七 第四百二十三條又ハ第四百三十八條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十八 第四百四十五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二十九 第四百八十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

第四百九十九條 第四百八十六條、第四百八十七條、第四百八十九條乃至第四百九十一條又ハ第四百九十三條第一項ニ掲グル者ガ法人ナルトキハ本章ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ニ之ヲ適用ス

十一 正當ノ事由ナクシテ株券ノ名義書換ヲ爲サザルトキ

十二 第二百一十一條ノ規定ニ違反シテ株式失効ノ手續又ハ株式若ハ質權ノ處ニ於テスコトヲ怠リタルトキ

十三 第二百一十二條第一項ノ規定ニ違反シテ株式ノ消却ヲ爲シタルトキ

十四 株券又ハ債券ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十五 第二百二十六條第一項、第三百七十條第三項又ハ第四百八十三條ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ

十六 第二百二十七條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

十七 第二百三十四條ノ規定又ハ第二百九十四條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ株主總會ヲ召集セズ又ハ定款ニ定メタル地以外ノ地ニ於テ若ハ第二百三十三條ノ規定ニ違反シテ株主總會ヲ召集シタルトキ

十八 法律又ハ定款ニ定メタル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十九 定款、株主名簿、社債原簿、議事錄、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益若ハ利息ノ配當ニ關スル議案、株主表、決算報告書、第三十二條第一項ノ帳簿又ハ第四百四十三條ノ調査書ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

二十 第二百六十三條第一項、第二百八十二條第一項、第三百三十九條第二項又ハ第四百三十條第二項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ備置

發起人ト看做ス

第五百條 第五十六條第三項ノ設立委員ハ本章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス

第三編 商行為

第一章 總則

第五百一條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行為トス

一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産、不動産若クハ有價證券ノ有價取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲

二 他人ヨリ取得スベキ動産又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有價取得ヲ目的トスル行爲

三 取引所ニ於テスル取引

四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第五百二條 左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行為トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有價取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲

二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲

三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

四 運送ニ關スル行爲

五 作業又ハ勞務ノ請負

六 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行爲

七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

八 兩替其他ノ銀行取引



九 保險

十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲

十二 商行爲ノ代理ノ引受

第五百三條 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス

商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

第五百四條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトキト雖

モ其行爲ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百五條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百六條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

第五百七條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲ササルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百八條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百九條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

第六十條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費

用ヲ償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第五百十一條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

第五百十二條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第五百十四條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第五百十五條 民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第五百十六條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡

ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナ

スル規定ヲ準用ス

第二章 買賣

第五百二十四條 商人間ノ買賣ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ

又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第五百二十五條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十七條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物

キトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

第五百十七條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第五百十八條 金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百十九條 手形法第十二條乃至第十四條第二項並ニ小切手法第五條第二項、第十九條及ヒ第二十一條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五百二十條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百二十一條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者ト

ノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十二條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ其時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第五百二十三條 第五十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二五九



ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十八條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第五百二十九條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百三十條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第五百三十一條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第五百三十二條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十三條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ

日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第五百三十四條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 匿名組合

第五百三十五條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百三十六條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸ス

第五百三十七條 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用キ又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第五百三十八條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百三十九條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキハ其間ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了

ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第五百四十一條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第五百四十二條 第五百十條、第五百十三條及ヒ第五百十六條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第五百四十三條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百四十四條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第五百四十五條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第五百四十六條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

トキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百四十七條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付キ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五百四十八條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第五百四十六條第一項ノ書面及ヒ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ス

第五百四十九條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自ら履行ヲ爲ス責ニ任ス

第五百五十條 仲立人ハ第五百四十六條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第六章 問屋營業

第五百五十一條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百五十二條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ら權利ヲ得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ら其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス



第五百五十四條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ

又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其

販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第五百五十五條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受

ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代

價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取

引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

第五百五十六條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レ

タル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第五百

二十四條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十七條 第四十七條及ヒ第五十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第五百五十八條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入

ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業

第五百五十九條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ

業トスル者ヲ謂フ

運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ準

用ス

第五百六十條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保

管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリ

シコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠

償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第五百六十八條 第五百七十八條及ヒ第五百八十三條ノ規定ハ運送取扱營

業ニ之ヲ準用ス

第八章 運送營業

第五百六十九條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運

送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第一節 物品運送

第五百七十條 荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第五百七十一條 運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコト

ヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 荷送人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第五百七十二條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人

ト所特入トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第五百七十三條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二六三

第五百六十一條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ

其報酬ヲ請求スルコトヲ得

運送取扱契約ヲ以テ運送貨ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アル

ニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百六十二條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送貨其他

委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコ

トヲ得

第五百六十三條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ

代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

第五百六十四條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權

利ヲ取得ス

第五百六十五條 運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此

場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

運送取扱人カ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引換證ヲ作りタルトキハ自ラ運

送ヲ爲スモノト看做ス

第五百六十六條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ

一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第五百六十七條 運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨ

リ之ヲ起算ス

第五百六十八條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經

引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百七十四條 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ

讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限

ニ在ラス

第五百七十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物

引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ

付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百七十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルト

キハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ其運送貨

ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

第五百七十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ

爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラ

サリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損

害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送ヲ委

託スルニ當タリ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人ハ損害賠

償ノ責ニ任セス

第五百七十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ

滅失、毀損又ハ延著ニ付キ運送シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第五百八十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡ア

ルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム



運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第五百八十一條 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損又ハ延著シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第五百八十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送貨、立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第五百八十三條 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送貨其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第五百八十四條 貨物引換證ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ

運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ運送ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百八十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス

運送人ハ運送ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百八十七條 第五百二十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百八十八條 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取リ且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百八十九條 第五百六十二條、第五百六十三條、第五百六十六條及ヒ第五百六十七條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第五百九十條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スルコトヲ得

第五百九十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第五百二十四條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第五百九十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二六五

第九節 寄託 第一節 總則 第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第九節 寄託 第一節 總則 第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第九節 寄託 第一節 總則 第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第九節 寄託 第一節 總則 第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第九節 寄託 第一節 總則 第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得



第六百六條 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項
- 二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第六百一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第六百二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第六百三條 預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第六百四條 第五百七十三條及ヒ第五百七十五條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券ニ之ヲ準用ス

第六百五條 預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六百六條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨

濟期ヲ記載スルコトヲ要ス  
第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百七條 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ

第六百八條 質入證券所持人ノ債權ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九條 質入商券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六百十條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百十一條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租税、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租税、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第六百十二條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六百十三條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得

手形法第四十五條第一項第三項第五項第六項、第四十八條第一項、第四

十九條及ヒ第五十條第一項ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス

手形法第五十二條第三項ノ規定ハ不足額ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ其請求ヲ爲ス者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト異ナル場合ニ於ケル債權額ノ算定ニ付キ之ヲ準用ス

第六百十四條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第六百十五條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十六條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得

第六百十七條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ヲ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百十八條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ保管料及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二六七

第六百十九條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メサリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得

第六百二十條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十一條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十二條 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應シテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ預證券ノ所持人之ヲ負擔ス

第六百二十三條 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス

第六百二十四條 前二條ノ規定ハ前條第一項ノ供託金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨濟シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二十五條 第五百二十四條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス



第六百一十一條及第六百一十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百二十五條 第五百八十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第六百二十六條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六百二十七條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ要ス

倉庫證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百二十八條 倉庫證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉庫證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第六百二十九條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十條 保險契約ハ金錢ニ見換ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第六百三十八條 保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス

第六百三十九條 當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百四十條 戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第六百四十一條 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第六百四十二條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生ゼサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

第六百四十三條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十四條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一個月間之ヲ行ハ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二六九

第六百三十一條 保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第六百三十二條 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

數箇ノ保險契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第六百三十三條 相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第六百三十四條 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限リ更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ

二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ

三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第六百三十五條 同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第六百三十六條 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百三十七條 保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約

サルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第六百四十五條 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セス若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケザリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十六條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十七條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六百四十八條 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第六百四十九條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ在ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

一 保險ノ目的

二 保險者ノ負擔シタル危險

三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額

四 保險金額

五 保險料及ヒ其支拂ノ方法



六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期  
 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號  
 八 保險契約ノ年月日  
 九 保險証券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百五十條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約

ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタル

トキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百五十一條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約

ノ解除ヲ爲スコトヲ得但し其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三ヶ月ヲ經

過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第六百五十二條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者

カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求

スルコトヲ得但し被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十三條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全

部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百五十四條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者

ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸

スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部

ヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十五條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半

額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取

得ス但し保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保

險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百六十二條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者

カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度

ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者

又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノ前項ニ定メタル權利ヲ

行フコトヲ得

第六百六十三條 保險金額支拂ノ義務及ヒ保險料返還ノ義務ハ二年保險料

支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百六十四條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許サ

サルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第六百六十五條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハス

保險者ノ填補スル責ニ任ス但第六百四十條及ヒ第六百四十一條ノ場合

ハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生

シタル損害ハ保險者ノ填補スル責ニ任ス

第六百六十七條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘ

キ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者 保險者ニ對シテ

直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十八條 火災保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項

第十四輯 法務

第二章 民事 第一款

民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七一

第六百五十六條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘ

キ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失

フ

第六百五十七條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘ

カラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ

解除ヲ爲スコトヲ得但し其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加

シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス

若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險

契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ増加ヲ知リタル後遲滞

ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第六百五十八條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル

場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタル

トキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百五十九條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルト

キハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シ

タルトキト雖モ保險者ハ其損害ノ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百六十條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必

要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險

者ノ負擔ス

第六百三十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險

ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方

二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

第三款 運送保險

第六百六十九條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時

ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責

ニ任ス

第六百七十條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ

到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限り之ヲ保險價額中

ニ算入ス

第六百七十一條 運送保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項

ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 運送ノ道筋及ヒ方法

二 運送人ノ氏名又ハ商號

三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所

四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

第六百七十二條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時

運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力

ヲ失ハス

第二節 生命保險

第六百七十三條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死

ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フル



コトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百七十四條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定

ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受

取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコ

トヲ要ス

第六百七十五條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ

當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルト

キハ其意思ニ從フ

前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ

變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ

保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス

第六百七十六條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル

場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ル

ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金

額ヲ受取ルヘキ者ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第六百七十七條 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ

變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以

テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス

コトヲ要ス

第六百八十二條 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ

經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百八十三條 第六百四十條、第六百四十二條、第六百四十三條、第六

百四十六條、第六百四十七條、第六百四十九條第一項、第六百五十一條

乃至第六百五十三條、第六百五十六條、第六百五十七條、第六百六十三

條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第六百四十四條、第六百五十一條、第六百五十三條、第六百五十六條及ヒ第

六百五十七條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セザルト

キハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第四編 海商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

第六百八十四條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ

供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他機權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機權ヲ以テ運

轉スル舟ニハ之ヲ適用セズ

第六百八十五條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第六百八十六條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶

國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適

用セズ

第六百八十七條 船舶所有者權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ

記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

第六百七十四條第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更ニ之ヲ準用ス

第六百七十八條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大

ナル過失ニ因リテ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事

ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實

ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第六百四十四條第二項及ヒ第六百四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準

用ス

第六百七十九條 生命保險證券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項

ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險契約ノ種類

二 被保險者ノ氏名

三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名

第六百八十條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セズ

一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シ

タルトキ

二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額

ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

前項第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テ

タル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第六百八十一條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死

亡シタルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スル

コトヲ要ス

第六百八十八條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約

ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第六百八十九條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテ

ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百九十條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又

ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ

航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害

賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但船舶

所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セ

ズ

第六百九十一條 登記シタル船舶ノ委任ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生

ス

第六百九十二條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得シテ更ニ航海ヲ爲サシ

メタルトキハ第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第六百九十三條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各

共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百九十四條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ關スル費

用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第六百九十五條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘ

キコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對

シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七三



前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第六百九十六條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百九十七條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス

第六百九十八條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得ズシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第六百九十九條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第七百條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一 船舶ノ讓渡、委託若クハ貸貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト

二 船舶ヲ保險ニ付スルコト

三 新ニ航海ヲ爲スコト

四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百一條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第七百二條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七百三條 船舶ノ賃借借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第七百四條 船舶ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第七百五條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、傭船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百六條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百七條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第七百八條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第七百九條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄
- 四 航海日誌
- 五 旅客名簿
- 六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
- 七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第七百十條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積積及ヒ旅客ノ

乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第七百十一條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第七百十二條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十三條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第七百十四條 船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第七百十五條 船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト
- 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第七百十二條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ



到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚揚ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

**第七百十六條** 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

**第七百十七條** 船舶港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

**第七百十八條** 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス  
一 船舶カ其所在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額カ船舶ハ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

**第七百十九條** 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七百十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

**第七百二十條** 船長ハ運滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ運滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

**第七百二十一條** 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

**第七百四十一條** 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ運滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セ

**第七百四十二條** 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

**第七百四十三條** 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ發シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

**第七百四十四條** 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ運滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

**第七百二十二條** 削除

**第七百二十三條** 乃至 **第七百三十六條** 削除

第三章 運送  
第一節 物品運送

第一款 總則

**第七百三十七條** 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

**第七百三十八條** 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

**第七百三十九條** 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ノ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得

**第七百四十條** 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

**第七百四十五條** 發航前ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其ノ歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲サリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

**第七百四十六條** 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

**第七百四十七條** 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フ外第七百五十三條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

**第七百四十八條** 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得



前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百四十九條 筒筒ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

第七百五十條 第七百四十八條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七百五十一條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第七百五十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

筒筒ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第七百五十三條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送貨、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス

第七百五十四條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第七百五十五條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第七百五十六條 期間ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第七百四十一條第二項又ハ第七百五十二條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第七百五十七條 船舶所有者ハ第七百五十三條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ賣却スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラズ

陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十三條 第七百六十條及ヒ第七百六十一條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ筒筒ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百六十條第一項第二號及ヒ第七百六十一條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ備船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十四條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船長カ第七百五十五條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ賣入シタルトキ

二 船長カ第七百五十九條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

三 船長カ第七百八十八條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第七百六十五條 船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第七百六十六條 第五百六十六條、第五百七十六條乃至第五百八十一條及ヒ第五百八十八條ノ規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第七百六十七條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滞ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第七百六十八條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第七百六十九條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第七百五十八條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第七百五十九條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第六百九十九條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第七百六十條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由

二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十一條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十二條 第七百六十條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滞ナク運送品ノ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人壽訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二七九



名スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
- 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
- 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號
- 四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
- 五 荷受人ノ氏名若クハ商號
- 六 船積港
- 七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港
- 八 運送貨
- 九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數
- 十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第七百七十條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七百七十一條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百七十二條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第七百七十三條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ運送品ヲ運送品ノ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第七百七十一條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第七百七十四條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第七百七十五條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第七百七十六條 第五百七十二條乃至第五百七十五條及ヒ第五百八十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第七百七十七條 記名ノ乘船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第七百七十八條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第七百七十九條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十條 旅客カ乘船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百八十一條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第七百八十二條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第七百八十三條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ

其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百八十四條 旅客運送契約ハ第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百八十五條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第七百八十六條 第五百九十二條、第五百九十一條第一項、第五百九十二條、第七百三十八條、第七百三十九條、第七百六十一條及ヒ第七百六十五條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七百四十條及ヒ第七百六十四條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第七百八十七條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四節 海損

第七百八十八條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第七百八十九條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送貨ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人ノ之ヲ分擔ス

第七百九十一條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ

荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其積シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

第七百九十二條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ得ス

第七百九十三條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百九十四條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ得ス

第七百九十五條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其積シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

第十四輯 法務

第二章 民事 第一款

民法 商法 民法訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二八一

於ケル價格ト積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ滅失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第七百九十一條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第七百九十二條 船舶ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セズ但此等ノ物ニ加ヘタル損害其他ノ利害關係人ノ之ヲ分擔ス

第七百九十三條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百九十四條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ得ス

第七百九十五條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其積シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム



前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百九十六條 第七百八十九條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ價金中ヨリ救助料及ヒ一部滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第七百九十七條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第七百九十八條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第七百九十九條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リテ發航港又ハ航海ノ途ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五百章 海難救助

第八百一條 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル努力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第八百二條 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ムルコトヲ得

正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラズ強ヒテ之ニ從事シタルトキ

三 救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ

第八百十條 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第八百十一條 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ら原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

第八百十二條 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第八百十三條 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第八百十四條 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六章 保險

第八百十五條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第八百十六條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第八百十七條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔

ルコトヲ得ス

先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス

第八百四條 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第八百一一條ノ規定ヲ準用ス

人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第八百五條 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百六條 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リテ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ハルマテニ分配案ヲ作リ之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第八百七條 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

管海官廳ハ異議ノ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得

第八百八條 船長ハ異議ノ著者前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八百九條 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得

船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得

第八百九條 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス

一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ

擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第八百十八條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第八百十九條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第八百二十條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第八百二十一條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其終了スヘカシ時ヲ以テ終ハル

第八百二十二條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百二十三條 海上保險證券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬



ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及七陸揚港

第八百二十四條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十五條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更シ若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ボサザリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十六條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第八百二十七條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十八條 保險契約ヲ爲スニ當テ積荷ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メザリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其積荷ヲ積込ムヘキ船舶ヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及七國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第八百二十九條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セ

- 一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
- 三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶者、荷受人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タシタル通常ノ費用

第八百三十條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セ

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

第八百三十一條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

前項ノ期間ハ第八百三十三條第一號、第三號及七第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百三十七條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第八百三十九條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第八百四十條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當テリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及七其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セ

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百四十一條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第七節 船舶債權者

第八百三十二條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第六百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第八百三十三條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解放セラレサルトキ

第八百三十四條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第八百三十五條 第八百三十三條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得

第八百三十六條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス



第八百四十二條

左に掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費

二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費

三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅

四 水先案内料及ヒ曳船料

五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損

六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權

七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權

八 船舶カ其實買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其實買又ハ製造並ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艤裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權

九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除外第六百九十九條ノ規定ニ依リテ付テシタル債權

第八百四十三條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス

第八百四十四條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第八百四十二條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第八百四十二條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第八百四十五條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法

民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

二八七

第九十一條

本法施行前ニ清算結了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九十九條

第三項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條

前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第七條

本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定

ハ第二百二十六條ノ二及ヒ第二百四十二條ノ二乃至第二百四十二條ノ四ノ規定ノ適用ヲ妨ケズ

第八條

第五十二條第三項及ヒ第二百五十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第二百五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第九條

第六十三條及ヒ第六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決議無効ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十條

第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條

前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十三條

ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條

第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十三條

第七十七條及ヒ第八十六條ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ行為カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條

本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但未タ社債募集ノ公告ヲ爲ササルトキハ第二百三條、第二百三條ノ二、第二百四條ノ二及ヒ第二百七條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十五條

本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其増加ヲ爲スコトヲ得

第十六條

第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第十七條

第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未滿ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條

本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得

第十九條

附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條

第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十條

本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セザリシトキハ設立無効ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條

附則第九條、第十條、第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條

附則第四條及ヒ第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條

前十六條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ適用ス

第二十四條

本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行為アリ

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法

民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

二八七



タルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第二十五條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ

本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條 質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六個月

月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六個月

月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ起算シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條 第三百六十七條ノ三、第三百八十條ノ二及ヒ第三百八十條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス

但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行後ニ時効力進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ長キトキハ時効ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リテ二年ヨリ短キトキハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セス

名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百三十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第四百三十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ス但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニ呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所方知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所方知レサルトキハ其役場又ハ官署若

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二八九

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本

法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絕證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絕證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 前三條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第三十四條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十一條及第三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第三十五條 第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

(手形法第八十條參照)

第四編 手形 第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及 小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニ呈示スルコトヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形 第一節 振出

第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字

二 一定ノ金額

三 支拂人ノ氏名又ハ商號

四 受取人ノ氏名又ハ商號

五 單純ナル支拂ノ委託

六 振出ノ年月日

七 一定ノ満期日

八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二八九



第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限り之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百五十條 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十一條 前項ノ爲替手形ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス

第四百五十二條 第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス

第四百五十三條 滿期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日

二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

三 一覽ノ日

四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十四條 振出人カ爲替手形ニ滿期日ヲ記載セザリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ滿期日トス

第四百五十五條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ以テ其支拂地トス

第四百五十六條 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

第四百五十七條 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百六十四條 前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百六十五條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書方連續スルニ非サルハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二九一

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラズ

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓渡ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ

シメザリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サザリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フベキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セザリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セザリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責任ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二九一



前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百七十八條 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ

二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ

三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ

四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ

五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケザリシトキ

第四百八十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セザルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ

作ラシムルコトヲ要ス

豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其寫本ヲ作り署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス

第四百八十八條ノ三 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セザリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セザリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セザリシトキ亦同シ

第四百八十八條ノ四 所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間內ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事

實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限り其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ

所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百八十九條ノ二 支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス

第四百九十條 所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者

又ハ支拂人カ支拂ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲サザリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコ

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第六節 償還ノ請求

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

但此期間ニハ休日ヲ算入セス

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲サザリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十七條ノ二 前條第一項ノ場合ニ於テハ所持人ハ其直接ノ前者ニ對シ拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シ通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十八條ノ二 所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其後者ニ對シ之ニ依リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フ

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セザリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二九三



トヲ得

- 一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定利息
- 二 拒絶證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第四百九十二條 償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息
- 二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條 所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス

所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

第四百九十五條 償還ハ爲替手形、支拂拒絶證書及ヒ償還計算書ト引換ニ

非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス  
償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受ケル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條 削除

第七節 保證

第四百九十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百九十八條 何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條 保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求めタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絶證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲシテ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百四條 所持人ハ引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百五條 參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絶證書ヲ被參加人ニ送付スルコトヲ要ス被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル

第五百六條 爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第五百七條 被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス

第二款 參加支拂

第五百八條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絶證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百九條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百十條 參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル効力ヲ有スル支拂ヲ受ケルコトヲ要ス

第五百十一條 豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百十二條 所持人ハ支拂拒絶證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絶證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條 參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

第九節 拒絶證書

第五百十四條 拒絶證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條 拒絶證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

- 一 拒絶者及ヒ被拒絶者ノ氏名又ハ商號



二 拒絶者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絶者カ其請求ニ應セザリシコト、拒絶者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所、住所若クハ居所カ知レザリシコト

三 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日

四 法定ノ場所外ニ於テ拒絶證書ヲ作ルトキハ拒絶者カ之ヲ承諾シタルコト

五 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

六 拒絶證書作成ノ場所及ヒ年月日

第五百十五條ノ二 支拂拒絶證書ノ作成ハ爲替手形又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ三 爲替手形ノ敷通ノ複本又ハ原本及ヒ贖本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絶證書ヲ作ルトキハ其作成ハ一通ノ複本若クハ原本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第五百十五條ノ四 支拂拒絶ノ場合ヲ除ク外拒絶證書ノ作成ハ爲替手形若クハ其贖本ノ寫本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ五 爲替手形、複本、原本又ハ爲替手形若クハ其贖本ノ寫本ニ依リテ拒絶證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ其接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十六條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絶證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第五百十七條 公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作リタルトキハ其贖本ニ左ノ事項ヲ記載シテ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス

一 手形金額

二 振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號

三 振出ノ年月日

四 満期日及ヒ支拂地

五 支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號

拒絶證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其贖本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此贖本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ贖本

第五百十八條 爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十九條 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條 爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス

二人以上ニ各別ニ敷通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ敷通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラザリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百二十一條 爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セザルトキハ拒絶證書ニ依リテ其實及ヒ他ノ一通又ハ敷通ノ爲替手形ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ證明スルニ非サルハ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十二條 爲替手形ノ所持人ハ其贖本ヲ作ルコトヲ得

爲替手形ノ贖本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記載シタル事項トヲ區別スルコトヲ要ス

第五百二十三條 所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其贖本ヲ作リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル贖本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百二十四條 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セザル場合ニ於テ其贖本ノ所持人カ拒絶證書ニ依リテ其實ヲ證明スルトキハ贖本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又贖本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三章 約束手形

第五百二十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 二九七

一定ノ金額

受取人ノ氏名又ハ商號

單純ナル支拂ノ約束

振出ノ年月日

一定ノ満期日

振出地

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百二十八條 所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメザリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメザリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條 第四百四十六條、第四百四十九條乃至第四百五十一條、第四百五十三條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十八條乃至第四百九十一條



至第四百九十九條、第五百八條乃至第五百十七條及第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第四章 小切手

第五百三十條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 支拂地

第五百三十一條 削除

第五百三十二條 小切手ハ一覽拂ノモノトス

第五百三十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十三條ノ二 小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス

支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第五百三十三條ノ三 小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示シタ

ルト同一ノ效力ヲ有ス

第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ呈示期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル

手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ

第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第五百三十五條 小切手ノ振出人又ハ所持人又ハ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得

振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ其商號ヲ抹消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百三十六條 振出人カ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ五圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス

第五百三十七條 第四百四十六條、第四百四十七條、第四百四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十二條ノ二、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ二、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第五百十四條乃至第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

(船員法第六十八條參照)

第五編 海商

第二章 船員

第一節 船長

第七百二十二條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第七百二十三條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第七百二十四條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第七百二十五條 海員ハ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ依ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第七百二十六條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第七百二十七條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日

マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第七百二十八條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
- 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一個月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得



第七百三十六條 第七百二十二條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

- 一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
  - 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
  - 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ
- 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十一條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第七百三十二條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入レハ之ヲ更新スルコトヲ得但し其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第七百三十三條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ完全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サルハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百三十四條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 船舶カ沈没シタルコト
- 二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
- 三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十五條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滞ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用ササルモノハ其施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十三條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

### 商法施行法

明治三十二年三月九日 法律第四十九號

改正 明治三十三年三月第六九號

大正一二年四月第七一號

昭和七年七月第二〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 商法施行法

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十四條 商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十五條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二十八條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十六條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 前項ニ定メタル登記ヲ爲サリシ者ハ其登記ヲ爲サリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十八條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十九條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第二十條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第二十一條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

第二十二條 主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇一



ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知りタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未ダ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作リ且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

之ヲ準用ス  
第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス  
第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第三十七條 商法第三百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス  
第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス  
第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス  
業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル  
第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス  
第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル  
第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第一百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命ジタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未ダ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未ダ清算人ヲ選任セサルトキハ總會社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス  
合併ノ決議ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス  
第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未ダ株主ノ募集ニ著手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス  
第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス  
第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス  
第四十七條 商法第三百三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス  
第四十八條 商法第六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ召集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テハ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六ヶ月内ニ發起人カ創業總會ヲ召集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得  
第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付



キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第四百一十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第二百十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第四百十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

第五十六條 商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス  
前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス  
第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニ

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治産ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第六十九條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十條 商法第七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス  
第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス  
第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴訟ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三〇五

モ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第四百十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモノヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限り之ヲ適用ス

第五十九條 商法第五百五十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無効トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條 商法第六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニ依リテ提起シタル訴訟ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在任ス

第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會召集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限り會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十條 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂込アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商



法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得

商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲サザルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第八十七條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

〔朝〕

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一條 第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條 〔私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス〕

第九十五條乃至第九十六條 削除

第九十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス

第九十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第九十九條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ質貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第一百條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス

第一百零一條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ選信大臣之ヲ定ム

第一百零二條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第一百零三條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六個月間分明ナラザルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セザルトキト雖モ其船舶ノ行方ノ知レサルモノト看做ス

第一百零四條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラザルトキハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第一百零五條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第一百零六條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第一百零七條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第一百零八條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第一百零九條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス



第三百三十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

附則

第三百三十八條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三百三十九條 法商施行條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

(手形法第八十條參照)

第二百二十四條 【明治十九年法律第二號公證人規則】第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百二十五條 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セザルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國ニ於テ日本ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第二百二十六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

●商法中改正法律施行法

昭和十三年四月五日 法律第七十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中改正法律施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商法中改正法律施行法

第一條 本法ニ於テ新法トハ昭和十三年商法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法トハ従前ノ規定ヲ謂フ

第二條 新法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外新法施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨ゲズ

第三條 新法第八條ノ小商人トハ資本金額二千圓ニ滿タザル商人ニシテ會社ニ非ザル者ヲ謂フ

第四條 新法第十一條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ登記シタル事項ニ付新法施行後公告ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

第五條 新法第十九條、第二十條第二項、第二十五條第一項及第五百二十七條第三項ニ掲グル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ之ニ準ズル區域トス

新法第十九條、第二十條第二項及第二十五條第一項ニ掲グル市ハ東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ニ在リテハ其ノ各區トス

第六條 新法第二十二條ノ規定ハ新法施行前ニ商號ヲ使用シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第七條 新法第二十五條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ北海道及樺太ハ各之ヲ一府縣ト看做ス

第八條 新法第二十六條ノ規定ハ新法施行前ニ營業ノ讓渡アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九條 新法第三十條ノ規定ハ商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ新法施行前ヨリ商號ヲ使用セザル場合ニ於テハ新法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第十條 新法第五十八條第一項ノ規定ハ會社ガ新法施行前ヨリ開業ヲ爲サズ又ハ營業ヲ休止シタル場合ニ於テハ新法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第十六條 合併ヲ爲ス會社ノ全部ガ新法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ合併ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第十七條 新法第一百條第一項若ハ第四百二十一條又ハ其ノ準用規定ニ依リ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 新法施行前ニ爲シタル合併ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ爲シタル合併ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ合併ニ關スル登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ限り合併無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 新法第四百四條第三項、第四百五條第三項第四項及第四百六條乃至第四百七條ノ規定ハ新法第四百四條第二項ニ掲グル者ガ新法施行前ニ提起シタル合併ノ無効確認ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ新法施行前ニ確定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十一條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十二條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十五條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十六條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十七條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十八條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十九條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十一條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十二條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十三條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十四條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十五條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十六條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十七條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十八條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十一條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十二條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十三條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十四條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十五條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十六條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十七條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十八條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十九條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十一條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十二條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十三條 規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第十一條 會社ガ新法施行前ニ成立シタル場合ニ於テハ其ノ設立ノ登記ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第十二條 新法施行前ニ舊法ニ依リテ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ハ登記ノ日ヨリ六月内ニ會社ノ設立ニ付新法ニ依リ新ニ登記スベキモノト爲リタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十三條 新法第八十六條乃至第八十八條ノ規定ハ新法施行前ニ生ジタル事由ニ基キ合名會社ノ社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ請求スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 新法第九十條及第九十一條ノ規定ハ新法施行前ニ合名會社ノ社員ノ持分ヲ差押ヘタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十五條 新法第九十五條又ハ第四百六條ノ規定ハ合名會社又ハ株式會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十六條 新法第九十七條ノ規定ハ合名會社ガ新法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十七條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第十八條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第十九條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十一條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十二條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十五條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十六條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十七條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十八條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十九條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十條 規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス



第二十二條 會社が新法施行前ニ解散シタル場合ニ於テハ其ノ清算ニ付テハ舊法ヲ適用ス

株式會社ノ解散ノ場合ニ於テ債權申出ノ期間ガ新法施行後ニ互ルトキハ新法施行前ニ舊法ニ依リテ爲シタル手續ヲ除クノ外其ノ清算ニ付テハ新法ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ清算人ハ新法施行後遑滞ナク新法第四百十八條及第四百十九條第二項ニ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條 前條第一項ノ場合ニ於テ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役ガ清算人ト爲リタルトキハ新法施行ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ新法第二百二十三條第一項各號ニ掲グル事項ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員ハ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十四條 新法施行前ニ成立シタル會社ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ限り設立ノ無効又ハ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得但シ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ二年ノ期間ヲ經過セザルモノニ付テハ其ノ期間内ハ之ヲ提起スルコトヲ妨ゲズ

新法施行後舊法ニ依リテ成立シタル會社ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ二年内ニ限り設立無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 新法第七條ノ規定ハ新法施行前ニ提起シタル合名會社ノ設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十六條 新法第三百十九條ノ規定ハ合名會社ノ設立ヲ無効トスル判決ガ新法施行前ニ確定シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十七條 新法第四百十九條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ登記アリタル事項ニ付新法施行後公告ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十八條 新法第六十二條第一項但書ノ規定ハ合資會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 株式會社ガ新法第六十六條第二項ニ定ムル公告方法ト異ル定ヲ爲シタル場合ニ於テハ新法施行前ニ成立シタル會社ニ在リテハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ成立シタル會社ニ在リテハ成立ノ日ヨリ六月内ニ其ノ定款ヲ變更スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十條 新法施行前ニ發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケ又ハ株式ノ募集ニ着手シタル場合ニ於テハ其ノ設立ニ付テハ舊法ヲ適用ス

新法施行前ニ發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケ又ハ株式ノ募集ニ着手シタルニ非ザル場合ニ於テハ新法ニ依リテ定款ヲ作り設立ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條 新法第九十一條ノ規定ハ株式會社ガ舊法ニ依リテ成立シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ新法施行前ニ株式ノ引受ノ無効ヲ主張シ又ハ其ノ引受ヲ取消シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ舊法ニ依リテ爲シタル資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 新法第九十六條ノ規定ハ賠償責任ノ原因タル事實ガ新法施行前ニ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十條 新法第二百三十條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ株券ヲ喪失シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十一條 新法第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規定ハ原因タル事實ガ新法施行前ニ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ新法第二百五十三條ノ訴ハ新法施行ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第四十二條 新法第二百五十一條又ハ第二百五十二條ノ規定ハ新法施行前ニ提起シタル決議無効又ハ決議無効確認ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ新法施行前ニ確定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ新法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効又ハ決議無効確認ノ訴ニ之ヲ準用ス

第四十三條 新法第二百六十七條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ提起シタル訴ニモ亦之ヲ適用ス

第四十四條 新法第二百六十八條第一項ノ規定ハ新法施行前ニ株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ訴提起ノ請求ハ新法施行ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

新法第二百六十八條第三項ノ規定ハ新法施行前ニ提起シタル訴ニモ亦之ヲ適用ス

第四十五條 前二條ノ規定ハ監査役又ハ清算人ニ對シテ提起スル訴ニ之ヲ準用ス

第四十六條 新法施行前ノ假處分ニ因リ新法施行ノ際職務ノ執行ヲ停止セ

行前ニ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 新法第九十七條ノ規定ハ訴ノ原因タル事實ガ新法施行前ニ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ訴提起ノ請求ハ新法施行ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十三條ノ規定ハ新法施行前ニ發起人ニ對シテ提起シタル訴ニ之ヲ準用ス

第三十四條 新法第九十八條ノ規定ハ新法施行前ニ同條ノ承諾アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第三十五條 新法第二百五條、第二百六條及第二百二十九條ノ規定ハ新法施行前ニ株券ヲ發行シタル株式ニモ亦之ヲ適用ス

第三十六條 新法第二百八條及第二百九條ノ規定ハ新法施行前ニ設定シタル質權ニモ亦之ヲ適用ス

第三十七條 新法施行前ニ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタル株式會社ハ新法施行後遑滞ナク又ハ新法施行後相當ノ時期ニ於テ新法第二百十一條ノ規定ニ依ル株式失効ノ手續又ハ株式若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役又ハ清算人ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

第三十八條 株式會社ガ新法施行前ニ株金ノ拂込ヲ催告シタル場合ニ於テハ其ノ拂込ニ關シテハ舊法第五十二條第二項第三項及第五十三條乃至第五十四條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定ハ新法第二百二十四條第三項ノ規定ヲ適用シ妨ゲズ

第三十九條 新法第二百十九條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ株式ヲ引受ケ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三一



ラルル取締役又ハ其ノ職務ヲ代行スル者ニ付テハ新法第二百七十條第三項ノ規定ニ依リ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ新法施行ノ際職務ノ執行ヲ停止セラルル監査役若ハ清算人又ハノ職務ヲ代行スル者ニ之ヲ準用ス

第四十七條 新法第二百七十一條ノ規定ハ新法施行前ニ選任シタル取締役ノ職務代行者ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條 新法施行ノ際舊法第八十四條第一項但書ノ規定ニ依リ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ

二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ新法第二百七十六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ新法施行ノ際清算人ノ職務ヲ行フ監査役ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役及其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス第二項ノ規定ニ違反シタルトキ其ノ會社

第四十九條 株式會社ノ財産目録、借對照表及損益計算書ノ記載方法其ノ他ノ様式ハ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 新法第二百八十一條又ハ第四百二十條ニ掲グル類ハ新法施行前ニ株主總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第五十一條 新法第二百八十一條又ハ第四百二十條ニ掲グル書類及監査役ノ報告書ハ新法施行前ニ株主總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ備置クヲ以テ足ル

第六十條 新法第三百二十條第四項若ハ第三百二十一條第二項又ハ其ノ準用規定ニ依リ爲スベキ供託ハ供託局ニ之ヲ爲サザル場合ニ於テハ司法大臣ノ指定スル銀行又ハ信託會社ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十一條 社債權者集會ノ招集、償還額ノ支拂又ハ償還ニ關スル社債權者集會ノ決議ノ執行ニ當リ爲スベキ公告ハ社債ヲ發行シタル會社ノ定款ニ定ムル公告方法ニ依ルコトヲ要ス

第六十二條 新法施行前ニ資本増加ノ爲株式ノ募集ニ着手シタル場合ニ於テハ其ノ資本増加ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第六十三條 株式會社ガ新法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ資本減少ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第六十四條 新法施行前ニ爲シタル資本ノ増加又ハ減少ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ爲シタル資本ノ増加又ハ減少ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ限リ其ノ無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十五條 新法第三百七十二條乃至第三百七十四條又ハ第三百八十八條第三項ノ規定ハ新法第三百七十一條第二項又ハ第三百八十八條第二項ニ掲グル者ガ新法施行前ニ提起シタル資本ノ増加又ハ減少ノ無効確認ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ新法施行前ニ確定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十六條 第六十三條第二項ノ規定ハ株式會社ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 株式會社ガ新法施行前ニ新法第二百八十六條ニ掲グル金額又ハ稅額ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上シタル場合ニ於テハ新法施行ノ日ヨリ五年内ニ、若シ新法施行後利息ノ配當ヲ止メタルトキハ之ヲ止メタル後五年内ニ同條ノ規定ニ依リ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 株式會社ガ新法施行前ニ新法第二百八十七條ノ差額又ハ新法第二百九十一條ノ配當金額ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上シタル場合ニ於テハ新法第二百八十七條又ハ第二百九十一條第三項ノ規定ニ依リ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 新法第二百九十五條ノ規定ハ新法施行前ニ生ジタル債權ニモ亦之ヲ適用ス

第五十五條 株式會社ガ新法施行前ニ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ社債ノ募集ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第五十六條 銀行又ハ信託會社ニ非ザレバ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ新法第三百十四條ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ新法施行前ニ社債募集ノ委託ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用ス

第五十七條 新法第三百九條乃至第三百十四條ノ規定ハ新法施行前ニ社債募集ノ委託ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用ス

第五十八條 新法第三百十六條ノ規定ハ新法施行前ニ生ジタル債權ニモ亦之ヲ適用ス

第五十九條 新法第二編第四章第五節第二款ノ規定ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ノ事務處理ニ關スルモノヲ除クノ外舊法ニ依リテ募集シタル社債ニモ亦之ヲ適用ス

第六十七條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ新法施行ノ際合併ニ因リテ承繼シタル社債アルトキハ新法施行ノ日ヨリ一月内ニ新法第四百十四條第二項ノ規定ニ依リ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第六十八條 第二十九條乃至前條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ取締役トアルハ業務ヲ執行スル社員トス

第六十九條 新法第四百七十一條ノ規定ハ株式合資會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第七十條 新法第四百八十四條第一項ノ規定ハ外國會社ノ日本ニ於ケル支店ガ新法施行前ヨリ開業ヲ爲サズ又ハ營業ヲ休止シタル場合ニ於テハ新法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第七十一條 新法第四百八十五條ノ規定ハ新法施行前ニ外國會社ノ支店ニ對シテ其ノ閉鎖ヲ命ジ又ハ外國會社ガ其ノ支店ヲ閉鎖シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第七十二條 新法施行前ニ舊法第十八條第二項及第二編第七章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ新法施行後ト雖モ其ノ規定ヲ適用ス

新法施行後舊法ニ依ルベキ場合ニ於テ舊法第二編第七章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ新法第二編第七章ノ規定ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第五百十號ヲ以テ昭和十五年一月一日ヨリ施行)

商法施行法第七條、第十四條、第十六條及第三十三條ノ規定ハ之ヲ削除ス

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

三二二



### ●商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律

明治三十三年二月二十六日  
法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第一條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ  
一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託

三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱

四 満期ノ表示

五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱

七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示

八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカラ缺ク證券ハ爲替手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス  
支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所タルモノト看做ス  
振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條 爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得  
爲替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得  
爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得  
第五條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ

### ●手形法

昭和七年七月十五日  
法律第二十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル手形法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
手形法

#### 第一編 爲替手形

##### 第一章 爲替手形ノ振出及方式

付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス  
利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス  
利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス

第六條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス  
爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第七條 爲替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲララルコトナシ

第八條 代理權ヲ有セザル者が代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者が支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同シ

第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス  
振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十條 未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人が惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

#### 第二章 裏書

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得  
振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十二條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス  
一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス  
持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス  
裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス  
裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ  
一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得  
二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得  
三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

第十五條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支拂ヲ擔保ス







保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカチ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十二條 保證人ハ保證セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ

保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

保證人ガ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第五章 満期

第三十三條 爲替手形ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

- 一 一覽拂
- 二 一覽後定期拂
- 三 日附後定期拂
- 四 確定日拂

前項ト異ル満期又ハ分割拂ノ爲替手形ハ之ヲ無効トス

第三十四條 一覽拂ノ爲替手形ハ呈示アリタルトキ之ヲ支拂フベキモノトス此ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支拂ノ爲ニ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得裏書人ハ此等ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

振出人ハ一定ノ期日前ニハ一覽拂ノ爲替手形ヲ支拂ノ爲呈示スルコトヲ得ザル旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マル

第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ満期ハ引受ノ日附又ハ拒絕證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

第三十六條 日附後又ハ一覽後一月又ハ數月拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スベキ月ニ於ケル應當日ヲ以テ満期トス應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満期トス

日附後又ハ一覽後一月半又ハ數月半拂ノ爲替手形ニ付テハ先ヅ全月ヲ計算ス

月ノ始、月ノ央(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ満期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八日」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ滿八日又ハ滿十五日ヲ謂フ

「半月」トハ十五日ノ期間ヲ謂フ

第三十七條 振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ満期ノ日ハ支拂地ノ曆ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

曆ヲ異ニスル地ノ間ニ振出シタル爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ満期ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算ス

前三項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ單ナル記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知り得ベキトキハ之ヲ適用セズ

第六章 支拂

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次ク二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ要ス

手形交換所ニ於ケル爲替手形ノ呈示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル效力ヲ有ス

第三十九條 爲替手形ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ手形ニ受取證書ヲ記載シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ

一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ手形上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 爲替手形ノ所持人ハ満期前ニハ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ要セズ

満期前ニ支拂ヲ爲ス支拂人ハ自己ノ危險ニ於テ之ヲ爲スモノトス

満期ニ於テ支拂ヲ爲ス者ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限り其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ満期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得債務者ガ支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ満期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現實支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ爲替手形ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 調停 三一八

第三十六條 日附後又ハ一覽後一月又ハ數月拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スベキ月ニ於ケル應當日ヲ以テ満期トス應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満期トス

日附後又ハ一覽後一月半又ハ數月半拂ノ爲替手形ニ付テハ先ヅ全月ヲ計算ス

月ノ始、月ノ央(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ満期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八日」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ滿八日又ハ滿十五日ヲ謂フ

「半月」トハ十五日ノ期間ヲ謂フ

第三十七條 振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ満期ノ日ハ支拂地ノ曆ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

曆ヲ異ニスル地ノ間ニ振出シタル爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ満期ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算ス

前三項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ單ナル記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知り得ベキトキハ之ヲ適用セズ

第六章 支拂

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次ク二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ要ス

第四十二條 第三十八條ニ規定スル期間内ニ爲替手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ナキトキハ各債務者ハ所持人ノ費用及危險ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第七章 引受拒絕又ハ支拂拒絕ニ因ル選取

第四十三條 満期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ選取權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ満期前ト雖モ亦同シ

一 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絕アリタルトキ

二 引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ノ破産ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效力ヲ奏セザル場合

三 引受ノ爲ノ呈示ヲ禁シタル手形ノ振出人ノ破産ノ場合

第四十四條 引受又ハ支拂ノ拒絕ハ公正證書(引受拒絕證書又ハ支拂拒絕證書)ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ要ス

引受拒絕證書ハ引受ノ爲ノ呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四條第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絕證書ハ其ノ翌日之ヲ作ラシムルコトヲ得

確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ支拂拒絕證書ハ爲替手形ノ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次ク二取引日内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス一覽拂ノ手形ノ支拂拒絕證書ハ引受拒絕證書ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル條件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

引受拒絕證書アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絕證書ヲ要セズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效力ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 調停 三一八



手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且拒絶證書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁シタル手形ノ振出人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ請求權ヲ行フニハ破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絶證書作成ノ日ニ次ケ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次ケ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シテ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次ケ二取引日内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル

通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ爲替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生シタル損害アルトキハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

二年六分ノ率ニ依ル滿期以後ノ利息

三 拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

滿期前ニ請求權ヲ行フトキハ割引ニ依リテ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所ニ於ケル請求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リテ之ヲ計算ス

第四十九條 爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額

二 前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用

第五十條 請求ヲ受ケタル又ハ受ケベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書ヲ受取テ證スル記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一條 一部引受ノ後ニ請求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取證書ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ請求ヲ爲スコトヲ得シムル爲手形ノ證明原本及拒絶證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十二條 請求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽拂トシテ振出シ且其ノ者ノ住所ニ於テ支拂フベキ新し手形(戻手形)ニ依リ請求ヲ爲スコトヲ得

戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印紙稅ヲ含ム

所持人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支拂地ヨリ前

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三二二

第四十六條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ請求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ採用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七條 爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同シ

第四十八條 所持人ハ請求ヲ受ケル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ利息

者ノ住所ニ宛テ振出ス一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ振出人ガ其ノ住所ヨリ前者ノ住所ニ宛テ振出ス一覽拂手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三條 左ノ期間ガ經過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間

二 引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間

三 無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶及引受拒絶ニ因ル請求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知リ得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ限リ之ヲ採用スルコトヲ得

第五十四條 法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ガラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補償ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ滿期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絶證書ノ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三二二



作成ヲ要セズシテ逕ニ行フコトヲ得  
 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ  
 經過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進  
 行ス一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シ  
 タル一覽後ノ期間ヲ加フ  
 所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若ハ拒絕證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付  
 タノ單純ナル人ノ事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章 參加

第一節 通則

第五十五條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ  
 得  
 爲替手形ハ逕ニ受ケベキ何レノ債務者ノ爲ニ參加チ爲ス者ニ於テモ本  
 章ニ規定スル條件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得  
 參加人ハ第三者、支拂人又ハ既ニ爲替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ  
 得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ  
 參加人ハ其ノ被參加人ニ對シテ二取引日內ニ其ノ參加ノ通知ヲ爲スコトヲ  
 要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキ  
 ハ參加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節 參加引受

第五十六條 參加引受ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁セザル爲替手形ノ所持人ガ滿  
 期前ニ逕ニ逕ニ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得  
 爲替手形ニ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人  
 ハ其ノ者ニ爲替手形ヲ呈示シ且拒絕證書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタル

第三節 參加支拂

第五十九條 參加支拂ハ所持人ガ滿期又ハ滿期前ニ逕ニ逕ニ有スル一切ノ  
 場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得  
 支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スベキ金額ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス  
 支拂ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ  
 爲スコトヲ要ス

第六十條 爲替手形ガ支拂地ニ住所チ有スル參加人ニ依リテ引受ケラレタ  
 ルトキ又ハ支拂地ニ住所チ有スル者ガ豫備支拂人トシテ記載セラレタル  
 トキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絕證

書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシ  
 ムルコトヲ要ス  
 前項ノ期間內ニ拒絕證書ノ作成ナキトキハ豫備支拂人ヲ記載シタル者又  
 ハ被參加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル  
 第六十一條 參加支拂ハ被參加人ノ所持人ハ其ノ支拂ニ因リテ義務ヲ免ルベ  
 カリシ者ニ對スル逕ニ逕ニ有スル  
 第六十二條 參加支拂ハ被參加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記  
 載ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲ニ  
 之ヲ爲シタルモノト看做ス  
 爲替手形ハ參加支拂人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス拒絕證書ヲ作ラシメタ  
 ルトキハ之ヲモ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 參加支拂人ハ被參加人及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ  
 爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得  
 ズ  
 被參加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル  
 參加支拂ノ競合ノ場合ニ於テハ最モ多數ノ義務ヲ免レシムルモノ優先ス  
 事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ參加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對  
 スル逕ニ逕ニ有ス

第九章 複本及贖本  
 第一節 複本  
 第六十四條 爲替手形ハ同一内容ノ數通チ以テ之ヲ振出スコトヲ得  
 此ノ複本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキ  
 ハ各通ハ之ヲ各別ノ爲替手形ト看做ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三二三

コトヲ證スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ爲シタル者及其ノ後者ニ對シ滿期前  
 ニ逕ニ逕ニ有スルコトヲ得ズ  
 參加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ參加引受チ拒ムコトヲ得若所持人ガ之  
 チ受諾スルトキハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ有スル逕ニ逕ニ有  
 フ

第五十七條 參加引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載シ參加人署名スベシ參加引受  
 ニハ被參加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタ  
 ルモノト看做ス

第五十八條 參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被參加  
 人ト同一ノ義務ヲ負フ  
 被參加人及其ノ前者ハ參加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八條ニ規定  
 スル金額ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絕證書及  
 受取證書ニ記載チ爲シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコ  
 トヲ得

第六十五條 複本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨  
 ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム但シ支拂人ハ引受チ爲シタル各通  
 ニシテ返還チ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ  
 數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル  
 各通ニシテ返還チ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六條 引受ノ爲複本ノ一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通チ  
 保持スル者ノ名稱ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正當ナル所持人ニ對  
 シ之ヲ引渡スコトヲ要ス  
 保持者ガ引渡チ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ左ノ事實ヲ證ス  
 ルニ非ザレバ逕ニ逕ニ有スルコトヲ得ズ

一 引受ノ爲送付シタル一通ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコト  
 二 他ノ一通チ以テ引受又ハ支拂チ受ケルコト能ハザリシコト

第六十七條 爲替手形ノ所持人ハ其ノ贖本ヲ作ル權利チ有ス  
 贖本ニハ裏書其ノ他原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末  
 尾ヲ示スコトヲ要ス  
 贖本ニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力チ以テ裏書又ハ保證ヲ爲  
 スコトヲ得



第六十八條 贖本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ贖本ノ正當ナル所持人ニ對シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ原本ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコトヲ證スルニ非ザレバ贖本ニ裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ニ對シ過求權ヲ行フコトヲ得ズ

贖本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏書ハ贖本ニ爲シタルモノニ効力ヲ有ス」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存スルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効トス

第十章 變造

第六十九條 爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第十一章 時效

第七十條 引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ罹ル

所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ罹ル

裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ其ノ裏書人ガ手形ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ罹ル

第十二章 通則

第七十二條 滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行爲殊ニ引受ノ爲ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前項ノ行爲ヲ爲スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ満了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第七十三條 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第七十四條 恩惠日ハ法律上ノモノタル裁判上ノモノタルトテ問ハズ之ヲ認めズ

第二編 約束手形

第七十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字
- 二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル約束
- 三 滿期ノ表示
- 四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
- 五 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケル者ヲ指圖スル者ノ名稱
- 六 手形ヲ振出す日及地ノ表示
- 七 手形ヲ振出す者(振出人)ノ署名

第七十六條 前條ニ掲グル事項ノ何レカチ缺ク證券ハ約束手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

振出地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且振出人ノ住所タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第七十七條 左ノ事項ニ關スル爲替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形ニ準用ス

- 一 裏書(第十一條乃至第二十條)
- 二 滿期(第三十三條乃至第三十七條)
- 三 支拂(第三十八條乃至第四十二條)
- 四 支拂拒絕ニ因ル過求(第四十三條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十四條)
- 五 參加支拂(第五十五條、第五十九條乃至第六十三條)
- 六 贖本(第六十七條及第六十八條)
- 七 變造(第六十九條)
- 八 時効(第七十條及第七十一條)
- 九 休日、期間ノ計算及恩惠日ノ禁止(第七十二條乃至第七十四條)

第三者方ニテ又ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂ヲ爲スベキ爲替手形(第四條及第二十七條)、利息ノ約定(第五條)、支拂金額ニ關スル記載ノ差異(第六條)、第七條ニ規定スル條件ノ下ニ爲サレタル署名ノ效果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ爲シタル者ノ署名ノ效果(第八條)及白地爲替手形(第十條)ニ關スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款

トキハ約束手形ノ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ爲替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

一覽後定期拂ノ約束手形ハ第二十三條ニ規定スル期間内ニ振出人ノ一覽ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス一覽後ノ期間ハ振出人ガ手形ニ一覽ノ旨ヲ記載シテ署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絕證書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ要ス(第二十五條)其ノ日附ハ一覽後ノ期間ノ初日トス

附則

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年十二月勅令第三百十五號ヲ以テ昭和九年一月一日ヨリ施行)

第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第二百二十四條乃至第二百二十六條ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ効力ヲ有ス

第八十一條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十二條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三條 第三十八條第二項(第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第八十四條 拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 爲替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、引受人又ハ裏書人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル爲替手形上及約束手形



上ノ請求權ノ消滅時效ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十八條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第八十九條 爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラレルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第九十條 爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名

三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱

四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

五 小切手ヲ振出ス日及地ノ表示

六 小切手ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカチ缺ク證券ハ小切手タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ト看做ス

支拂人ノ名稱ニ數箇ノ地ノ附記アルトキハ小切手ハ初頭ニ記載シアル地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

前項ノ記載其ノ他何等ノ表示ナキ小切手ハ振出地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條 小切手ハ其ノ呈示ノ時ニ於テ振出人ノ處分シ得ル資金アル銀行ニ宛テ且振出人ヲシテ資金ヲ小切手ニ依リ處分スルコトヲ得シムル明示又ハ默示ノ契約ニ從ヒ之ヲ振出スベキモノトス但シ此ノ規定ニ從ハザルトキト雖モ證券ノ小切手タル效力ヲ妨ゲズ

第四條 小切手ハ引受ヲ爲スコトヲ得ズ小切手ニ爲シタル引受ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第五條 小切手ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

一 記名式又ハ指圖式

二 記名式ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載スルモノ

ヨリ生ズル效力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ迴求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルト否ヤハ證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條 爲替手形ノ引受ヲ手形金額ノ一部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ約束手形ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第九十三條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

●小切手法

昭和八年七月二十九日 法律第五十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小切手法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 小切手ノ振出及方式

第一條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル小切手ナルコトヲ示ス文字

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託

三 持參人拂式

記名ノ小切手ニシテ「又ハ持參人」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルモノハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

受取人ノ記載ナキ小切手ハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

第六條 小切手ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

第七條 小切手ニ記載シタル利息ノ約定ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第八條 小切手ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトト間ハ

ズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得但シ其ノ第三者ハ銀行タルコトヲ要ス

第九條 小切手ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ小切手金額トス

小切手ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ小切手金額トス

第十條 小切手ニ小切手債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ小切手ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ヲ爲其ノ效力ヲ妨ゲラレルコトナシ

第十一條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ小切手ニ署名シタルトキハ

自ラ其ノ小切手ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同シ

第十二條 振出人ハ支拂ヲ擔保ス振出人ガ之ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言



ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十三條 未完成ニテ振出シタル小切手ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 讓渡

第十四條 記名式又ハ指圖式ノ小切手ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

記名式小切手ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルモノハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スルコトヲ得

裏書ハ振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

第十五條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

支拂人ノ裏書モ亦之ヲ無効トス

持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

支拂人ニ對シテ爲シタル裏書ハ受取證書タル效力ノミヲ有ス但シ支拂人ガ數箇ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ小切手ノ振宛テラレタル營業所以外ノ營業所ニ對シテ爲シタル裏書ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 裏書ハ小切手又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

ル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 小切手ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基テ抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知りテ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 裏書ニ「回收ノ爲」、「取立ノ爲」、「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカクシモノニ限ル

代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ

第二十四條 拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成後ノ裏書又ハ呈示期間經過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有ス

日附ノ記載ナキ裏書ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成前又ハ呈示期間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第二十五條 小切手ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得

支拂人ヲ除ク外第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得小切手ニ署名シタル者ト雖モ亦同シ

第二十六條 保證ハ小切手又ハ補箋ニ之ヲ爲スベシ

保證ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保證人署名スルコトヲ要ス

第二十七條 保證人ハ反對ノ文言ナキ限り支拂ヲ擔保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ小切手ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ擔保ノ責任ヲ負フコトナシ

第十九條 裏書ヲ得ベキ小切手ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同シ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次テ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ小切手ヲ取得シタルモノト看做ス

第二十條 持參人拂式小切手ニ裏書ヲ爲シタルトキハ裏書人ハ請求ニ關スル規定ニ從ヒ責任ヲ負フ但シ之ガ爲證券ハ指圖式小切手ニ變ズルコトナシ

第二十一條 事由ノ何タルヲ問ハズ小切手ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ其ノ小切手ヲ取得シタル所持人ハ小切手が持參人拂式ノモノナルトキ又ハ裏書ヲ得ベキモノニシテ其ノ所持人ガ第十九條ノ規定ニ依リ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ惡意又ハ重大ナル

名スベシ

小切手ノ表面ニ爲シタル單ナル署名ハ之ヲ保證ト看做ス但シ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ

保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカヲ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十七條 保證人ハ保證セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ

保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

保證人ガ小切手ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ小切手上ノ債務者ニ對シ小切手ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第四章 呈示及支拂

第二十八條 小切手ハ一覽拂ノモノトス之ニ反スル一切ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

振出ノ日附トシテ記載シタル日ヨリ前ニ支拂ノ爲呈示シタル小切手ハ呈示ノ日ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

第二十九條 國內ニ於テ振出シ且支拂フベキ小切手ハ十日内ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス

支拂ヲ爲スベキ國ト異ル國ニ於テ振出シタル小切手ハ振出地及支拂地ガ同一洲ニ存スルトキハ二十日内又異ル洲ニ存スルトキハ七十日内ニ之ヲ呈示スルコトヲ要ス

前項ニ關シテハ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ振出シ地中海沿岸ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手又ハ地中海沿岸ノ一國ニ於テ振出シ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手ハ同一洲内ニ於テ振出シ且支拂フベキモノト看做ス



本條ニ掲グル期間ノ起算日ハ小切手ニ振出ノ日附トシテ記載シタル日ト

第三十條 小切手カ曆ヲ異ニスルニ地ノ間ニ振出シタルモノナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換フ

第三十一條 手形交換所ニ於ケル小切手ノ呈示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル效力ヲ有ス

第三十二條 小切手ノ支拂委託ノ取消ハ呈示期間經過後ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ズ

第三十三條 振出ノ後振出人ガ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ小切手ノ效力ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第三十四條 小切手ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ小切手ニ受取テ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ

一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ小切手上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 裏書シ得ベキ小切手ノ支拂ヲ爲ス支拂人ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第三十六條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル小切手ニ付テハ其ノ呈示期間内ハ支拂ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得呈示ヲ爲スモ支拂ナカリシトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ呈示ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以

テ支拂ヲ爲スコトヲ得

銀行ハ自己ノ取引先又ハ他ノ銀行ヨリノミ線引小切手ヲ取得スルコトヲ得銀行ハ此等ノ者以外ノ者ノ爲ニ線引小切手ノ取立ヲ爲スコトヲ得ズ

數箇ノ特定線引アル小切手ハ支拂人ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得ズ但シ二箇ノ線引アル場合ニ於テ其ノ一ガ手形交換所ニ於ケル取立ノ爲ニ爲サレタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前四項ノ規定ヲ遵守セザル支拂人又ハ銀行ハ之ガ爲ニ生シタル損害ニ付小切手ノ金額ニ違スル迄賠償ノ責ニ任ズ

第六章 支拂拒絕ニ因ル趣求

第三十九條 適法ノ時期ニ呈示シタル小切手ノ支拂ナキ場合ニ於テ左ノ何レカニ依リ支拂拒絕ヲ證明スルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ趣求權ヲ行フコトヲ得

一 公正證書(拒絕證書)

二 小切手ニ呈示ノ日ヲ表示シテ記載シ且日附ヲ附シタル支拂人ノ宣言

三 適法ノ時期ニ小切手ヲ呈示シタルモ其ノ支拂ナカリシ旨ヲ證明シ且日附ヲ附シタル手形交換所ノ宣言

第四十條 拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ呈示期間經過前ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

期間ノ末日ニ呈示アリタルトキハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ之ニ次ケ第一ノ取引日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得

第四十一條 所持人ハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ日ニ次ケ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次ケ四取引日

内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ支拂拒絕アリタルコトヲ通知スルコト

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三三一

テ小切手ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ小切手ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現貨支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ小切手ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第五章 線引小切手

第三十七條 小切手ノ振出人又ハ所持人ハ小切手ニ線引ヲ爲スコトヲ得線引ハ次條ニ定ムル效力ヲ有ス

線引ハ小切手ノ表面ニ二條ノ平行線ヲ引キテ之ヲ爲スベシ線引ハ一般又ハ特定タルコトヲ得

二條ノ線内ニ何等ノ指定ヲ爲サザルカ又ハ「銀行」若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ線引ハ之ヲ一般トス二條ノ線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載シタルトキハ線引ハ之ヲ特定トス

一般線引ハ之ヲ特定線引ニ變更スルコトヲ得ルモ特定線引ハ之ヲ一般線引ニ變更スルコトヲ得ズ

線引又ハ被指定銀行ノ名稱ノ抹消ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第三十八條 一般線引小切手ハ支拂人ニ於テ銀行ニ對シ又ハ支拂人ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得

特定線引小切手ハ支拂人ニ於テ被指定銀行ニ對シテノミ又ハ被指定銀行ガ支拂人ナルトキハ自己ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得但シ被指定銀行ハ他ノ銀行ヲシテ小切手ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得

テ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次ケ二取引日内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ小切手ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セバ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル

通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ小切手ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生シタル損害アルトキハ小切手ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十二條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絕證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ趣求權ヲ行フ爲ノ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル小切手ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力



ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所  
持人ガ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシメタルトキハ  
其ノ費用ハ所持人ノ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル  
場合ニ於テ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成アリタルト  
キハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十三條 小切手上ノ各債務者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責任任ズ  
所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ  
共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

小切手ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス  
債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求  
ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同シ

第四十四條 所持人ハ請求ヲ受フル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得  
一 支拂アラザリシ小切手ノ金額

二 年六分ノ率ニ依ル呈示ノ日以後ノ利息

三 拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ費用、通知ノ費用及其  
ノ他ノ費用

第四十五條 小切手ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スル  
コトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額

二 前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用

第四十六條 請求ヲ受ケタル又ハ受ケベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絕證書

又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言、受取テ證スル記載ヲ爲シタル計算書  
及小切手ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

小切手ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第四十七條 法定ノ期間内ニ於ケル小切手ノ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同  
一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ避ケベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁  
制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス  
所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且小切手又  
ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他  
ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク支拂ノ爲小切手ヲ呈示シ且  
必要アルトキハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシムル  
コトヲ要ス

不可抗力ガ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可抗力ヲ通知シタル日ヨリ  
十五日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示期間經過前ニ其ノ通知ヲ爲シタル場  
合ト雖モ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ要セズシ  
テ請求權ヲ行フコトヲ得

所持人又ハ所持人ガ小切手ノ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有  
スル宣言ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テハ單純ナル人の事由ハ不可抗力ヲ  
構成スルモノト認メズ

第七章 複本

第四十八條 一國ニ於テ振出シ他ノ國ニ於テ若ハ振出國ノ海外領土ニ於テ  
支拂フベキ小切手、一國ノ海外領土ニ於テ振出シ其ノ國ニ於テ支拂フベ  
キ小切手、一國ノ同一海外領土ニ於テ振出シ且支拂フベキ小切手又ハ一

國ノ海外領土ニ於テ振出シ其ノ國ノ海外領土ニ於テ支拂フベキ小  
切手ハ持參人拂ノモノヲ除クノ外同一ノ内容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出スコト  
ヲ得數通ヲ以テ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ證券ノ文言中ニ番號ヲ附  
スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ小切手ト看做ス

第四十九條 複本ノ一通ヲ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨  
ノ記載ナキト雖モ義務ヲ免レシム

數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル  
各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第八章 變造

第五十條 小切手ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造  
シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ  
負フ

第九章 時效

第五十一條 所持人ノ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル請求權ハ呈  
示期間經過後六月ヲ以テ時效ニ罹ル

小切手ノ支拂ヲ爲スベキ債務者ノ他ノ債務者ニ對スル請求權ハ其ノ債務  
者ガ小切手ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ  
以テ時效ニ罹ル

第五十二條 時效ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生シタル者ニ對シテノミ其ノ  
效力ヲ生ズ

第十章 支拂保證

第五十三條 支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲スコトヲ得  
支拂保證ハ小切手ノ表面ニ「支拂保證」其ノ他支拂ヲ爲ス旨ノ文字ヲ以テ

表示シ日附ヲ附シテ支拂人署名スベシ

第五十四條 支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス  
支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタル變更ハ之ヲ記載セザルモノ  
ト看做ス

第五十五條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈示期間ノ經過前ニ小切手ノ呈  
示アリタル場合ニ於テノミ其ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

支拂ナキ場合ニ於テ前項ノ呈示アリタルコトハ第三十九條ノ規定ニ依リ  
之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 支拂保證ニ因リ振出人其ノ他ノ小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ  
免ルルコトナシ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル權利  
ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ請求權ハ呈示  
期間經過後一年ヲ以テ時效ニ罹ル

第十一章 通則

第五十九條 本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法令ニ依リテ銀行ト同視セラ  
ル人又ハ施設ヲ含ム

第六十條 小切手ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコ  
トヲ得

小切手ニ關スル行爲ヲ爲ス爲殊ニ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力  
ヲ有スル宣言ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期間ノ末日ガ法定ノ休日ニ當  
ル場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次ケ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中



ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第六十一條 本法ニ規定スル期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第六十二條 恩恵日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトヲ問ハズ之ヲ認メズ

附則

第六十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第三百十五號ヲ以テ昭和九年一月一日ヨリ施行)

第六十四條 商法第四編第四章ハ之ヲ削除ス

第六十五條 本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六十六條 本法施行後六月内ニ日本ニ於テ振出ス小切手ハ振出地ノ記載ヲ缺クトキト雖モ小切手タル效力ヲ有ス

第六十七條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第六十八條 朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島又ハ勅令ヲ以テ指定スル亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シ日本内地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六十九條 第三十一條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第七十條 拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 小切手ノ振出人ガ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七十二條 小切手ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、裏書人又ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル小切手上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

規定スル方式ニ適合スル限リ他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第七十九條 小切手ヨリ生ズル義務ノ效力ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ選求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第八十條 左ノ事項ハ小切手ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

- 一 小切手ハ一覽拂タルコトヲ要スルヤ否ヤ、一覽後定期拂トシテ振出シ得ルヤ否ヤ及先日附小切手ノ效力
- 二 呈示期間
- 三 小切手ニ引受、支拂保證、確認又ハ査證ヲ爲シ得ルヤ否ヤ及此等ノ記載ノ效力
- 四 所持人ハ一部支拂ヲ請求シ得ルヤ否ヤ及一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤ
- 五 小切手ニ線引ヲ爲シ得ルヤ否ヤ、小切手ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シ得ルヤ否ヤ及線引又ハ「計算ノ爲」ノ文字若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ノ記載ノ效力
- 六 所持人ハ資金ニ對シ特別ノ權利ヲ有スルヤ否ヤ及此ノ權利ノ性質
- 七 振出人ハ小切手ノ支拂ノ委託ヲ取消シ又ハ支拂差止ノ手續ヲ爲シ得ルヤ否ヤ
- 八 小切手ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續
- 九 裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル選求權保全ノ爲拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ必要トスルヤ否ヤ
- 第八十一條 拒絕證書ノ方式及作成期間其ノ他小切手上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絕證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第七十四條 振出人又ハ所持人ガ證券ノ表面ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シテ現金ノ支拂ヲ禁ジタル小切手ニシテ外國ニ於テ振出シ日本ニ於テ支拂フベキモノハ一般線引小切手タル效力ヲ有ス

第七十五條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第七十六條 小切手ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第七十七條 小切手ノ支拂人タルコトヲ得ル者ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ支拂人タルコトヲ得ザル者ヲ支拂人トシタル爲小切手が無効ナルトキト雖モ之ト同一ノ規定ナキ他ノ國ニ於テ其ノ小切手ニ爲シタル署名ヨリ生ズル債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラレルコトナシ

第七十八條 小切手上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ支拂地ノ屬スル國ノ法律ノ規定スル方式ニ依ルヲ以テ小切手上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラレルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル小切手上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ

有限會社法

昭和十三年四月五日 法律第七十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル有限會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

有限會社法目次

- 第一章 總則
- 第二章 設立
- 第三章 社員ノ權利義務
- 第四章 會社ノ管理
- 第五章 定款ノ變更
- 第六章 合併及組織變更
- 第七章 解散
- 第八章 外國會社
- 第九章 罰則
- 第十章 雜則
- 附則

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ有限會社トハ商行爲其ノ他ノ營利行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ本法ニ依リ設立シタル社團ヲ謂フ

有限會社ハ之ヲ法人トス

第二條 有限會社ハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモノ之ヲ商人ト看做ス

第三條 有限會社ノ商號中ニハ有限會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

有限會社ニ非ザル者ハ商號中ニ有限會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ有限會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ



第四條 商法第五十四條第二項、第五十五條及第五十七條乃至第六十一條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第二章 設立

第五條 有限會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

商法第六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

四 出資一口ノ金額

五 社員ノ氏名及住所

六 各社員ノ出資ノ口數

七 本店及支店ノ所在地

第七條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

一 存立時期又ハ解散ノ事由

二 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格及之ニ對シテ與フル出資口數

三 會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名

四 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用

第八條 社員ノ總數ハ五十人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ遺產相續又ハ遺贈ニ因リ社員ノ數ニ變更ヲ生ズル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九條 資本ノ總額ハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得ズ

トキハ會社成立當時ノ取締役、監査役及社員ハ連帶シテ拂込ヲ爲シ又ハ給付未済財産ノ價額ヲ支拂フ爲ス義務ヲ負フ

第十六條 前二條ニ定ムル義務ハ會社成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ免除スルコトヲ得ズ

第三章 社員ノ權利義務

第十七條 社員ノ責任ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ出資ノ金額ヲ限度トス

第十八條 各社員ハ其ノ出資ノ口數ニ應ジテ持分ヲ有ス

第十九條 社員ハ第四十八條ニ定ムル社員總會ノ決議アルトキニ限り其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ讓渡ノ制限ヲ加重スルコトヲ妨ゲズ

讓渡ニ因リ社員ノ總數ガ第八條第一項ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル場合ニ於テハ遺贈ノ場合ヲ除クノ外其ノ讓渡ヲ無効トス

社員相互間ノ持分ノ讓渡ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラズ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條 持分ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所並ニ移轉スル出資口數ヲ社員名簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十一條 有限會社ハ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行スルコトヲ得ズ

第二十二條 商法第二百三條ノ規定ハ持分ガ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 持分ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三三七

第十條 出資一口ノ金額ハ均一トシ百圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第十一條 定款ヲ以テ取締役ヲ定メザルトキハ會社成立前社員總會ヲ開キ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十二條 前項ノ社員總會ハ各社員之ヲ召集スルコトヲ得

第十三條 取締役ハ社員ヲシテ出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産全部ノ給付ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十四條 有限會社ノ設立ノ登記ハ前條ノ拂込又ハ給付アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第六條第一號乃至第四號ニ掲グル事項

二 本店及支店

三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

四 取締役ノ氏名及住所

五 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

六 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

七 監査役アルトキハ其ノ氏名及住所

商法第九條乃至第十五條、第六十四條第二項及第六十五條乃至第六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第十四條 第七條第二號及第三號ノ財産ノ會社成立當時ニ於ケル實價ガ定款ニ定メタル價格ニ著シク不足スルトキハ會社成立當時ノ社員ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第十五條 第十二條第一項ノ規定ニ依ル拂込又ハ給付ノ未済ナル出資アルニ之ヲ準用ス

第四章 會社ノ管理

第二十五條 有限會社ハ一人又ハ數人ノ取締役ヲ置クコトヲ要ス

第二十六條 取締役數人アル場合ニ於テ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務執行ハ取締役ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及解任亦同ジ

第二十七條 取締役ハ會社ヲ代表ス

第二十八條 取締役ハ定款及社員總會ノ議事録ヲ本店及支店ニ、社員名簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

社員名簿ニハ社員ノ氏名及住所並ニ其ノ出資ノ口數ヲ記載スルコトヲ要ス

社員及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ第一項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ社員總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ監査役アルトキハ監査役ノ一人、監査役ナキトキハ



他ノ取締役ノ一人ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二月間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十條 取締役ハ監査役アルトキハ其ノ承認、監査役ナキトキハ社員總會ノ認許ヲ得タルトキニ限リ自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第三十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ガ訴ノ提起ヲ會社ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ  
第三十二條 商法第二百五十四條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十二條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第三十三條 有限會社ハ定款ニ依リ一人又ハ數人ノ監査役ヲ置クコトヲ得第十一條ノ規定ハ定款ニ於テ監査役ヲ置クコトヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 第三十一條並ニ商法第二百五十四條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項、第二百六十九條、第二百七十條、第二百七十二條及第二百七十四條乃至第二百七十八條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第三十五條 社員總會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外取締役之ヲ召集ス

第三十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ一週間前ニ各社員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ此ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ妨グズ

第三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會議ノ目的タル事項及召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 總會ハ社員ノ同意アルトキハ召集ノ手續ヲ經ズシテ之ヲ開クコトヲ得  
第三十九條 各社員ハ出資一圓ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ議決權ノ數ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第四十條 有限會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス  
一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡  
二 營業全部ノ賃貸、其ノ經營ノ委任、他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結、變更又ハ解約  
三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受  
四 取締役又ハ監査役ノ任務懈怠ニ因ル責任ノ免除

第三十一條ノ規定ハ前項第四號ノ決議アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
第一項ノ規定ハ有限會社ガ其ノ成立後二年内ニ其ノ成立前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 商法第二百三十四條乃至第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第四項、第二百四十條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規定ハ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十二條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得決議ノ目的タル事項ニ付社員ガ書面ヲ以テ同意ヲ表シタルトキハ書面ニ依ル決議アリタルモノト看做ス

書面ニ依ル決議ハ總會ノ決議ト同一ノ效力ヲ有ス總會ニ關スル規定ハ書面ニ依ル決議ニ之ヲ準用ス  
第四十三條 取締役ハ毎決算期ニ左ノ書類ヲ作ルコトヲ要ス  
一 財産目錄  
二 貸借對照表  
三 營業報告書  
四 損益計算書  
五 準備金及利益ノ配當ニ關スル議案

監査役アルトキハ取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ前項ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス  
第四十四條 利益ノ配當ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ爲ス

第四十五條 有限會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セ

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三三九

シムル爲裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得

検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役アルトキハ監査役、監査役ナキトキハ取締役ヲシテ社員總會ヲ召集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ商法第百八十一條第二項及第百八十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十六條 商法第二百八十二條、第二百八十三條第一項、第二百八十四條乃至第二百八十六條、第二百八十八條第一項、第二百八十九條及第二百九十條ノ規定ハ有限會社ノ計算ニ之ヲ準用ス  
商法第二百九十五條ノ規定ハ有限會社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ生ジタル債權ニ之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更  
第四十七條 定款ノ變更ヲ爲スニハ社員總會ノ決議アルコトヲ要ス  
第四十八條 前條ノ決議ハ社員ノ半數以上ニシテ社員ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ有スル者ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザル社員ハ之ヲ總社員ノ數ニ、其ノ行使スルコトヲ得ザル議決權ハ之ヲ議決權ノ數ニ算入セズ

第四十九條 左ノ事項ハ定款ニ別段ノ定ナキトキト雖モ資本増加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得  
一 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格及之ニ對シテ與フル出資口數  
二 資本ノ増加後ニ讓受タルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ



氏名

三 増加スル資本ニ付出资ノ引受ヲ爲ス権利ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ内容

第五十條 有限會社ガ特定ノ者ニ對シ將來其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第五十一條 社員ハ増加スル資本ニ付其ノ持分ニ應ジテ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ有ス但シ前二條ノ決議ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 資本増加ノ場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲サントスル者ハ引受ヲ證スル書面ニ其ノ引受クベキ出資ノ口數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

有限會社ハ廣告其ノ他ノ方法ニ依リ引受人ヲ公募スルコトヲ得ズ

第五十三條 有限會社ハ出資金額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付アリタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ額  
二 資本増加ノ決議ノ年月日  
第五十四條 第四十九條第一號及第二號ノ財産ノ資本増加當時ニ於ケル實價ガ資本増加ノ決議ニ依リ定メタル價格ニ著シク不足スルトキハ其ノ決議ニ同意シタル社員ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

氏名

第五十五條 引受ナキ出資又ハ出資金額ノ拂込若ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付ノ未済ナル出資アルトキハ取締役及監査役ハ連帶シテ其ノ引受ヲ爲シ又ハ拂込若ハ給付未済財産ノ價額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第五十六條 第十六條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 第十二條及第四十條第三項並ニ商法第二百條第二項、第三百五十二條、第三百五十八條第一項、第三百七十一條、第三百七十二條、第三百七十三條第一項及第三百七十四條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條 商法第三百七十六條第一項第二項、第三百七十九條第一項第二項及第三百八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 有限會社ハ他ノ有限會社ト合併ヲ爲スコトヲ得但シ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社ナルコトヲ要ス

會社ガ前項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議アルコトヲ要ス

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十八條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第六十條 有限會社ハ株式會社ト合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ合併ヲ爲ス株式會社又ハ合併ニ因リテ設立スル株式會社ニ關シテハ商法ノ規定ニ從フコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ

第六十四條 株式會社ハ總株主ノ一致ニ依ル總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ有限會社ト爲スコトヲ得但シ社債ノ償還ヲ完了セザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ組織變更ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財産額ヨリ多キ金額ヲ以テ資本ノ總額ト爲スコトヲ得ズ

第一項ノ決議ニ於テハ定款其ノ他組織ノ變更ニ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第六十一條ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 前條ノ組織變更ノ場合ニ於テ會社ニ現存スル純財産額ガ資本ノ總額ニ不足スルトキハ前條第一項ノ決議當時ノ取締役、監査役及株主ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條 株式會社ガ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記、有限會社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十七條 有限會社ハ總社員ノ一致ニ依ル總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財産額ヨリ多キ金額ヲ以テ拂込ミタル株金額ト爲スコトヲ得ズ

第一項ノ組織變更ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第六十一條第一項、第六十四條第三項、第六十五條及前條並ニ商法第二

株式會社ナルトキハ合併ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ社債ノ償還ヲ完了セザル株式會社ナルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社タルコトヲ得ズ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 前條第一項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ有限會社ナルトキハ商法第二百八條第一項ノ規定ハ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ質權ノ目的タル持分ニ付出资口數並ニ質權者ノ氏名及住所ヲ社員名簿ニ記載スルニ非ザレバ其ノ質權ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六十二條 有限會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第六十三條ニ於テ準用スル商法第四百十二條又ハ第四百十三條ノ規定ニ依ル社員總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存續スル有限會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル有限會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル有限會社ニ付テハ第十八條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 商法第九十八條第二項、第九十九條、第一百條、第一百二條乃至第一百十一條、第三百七十九條第一項第二項、第四百八條乃至第四百十條、第四百十二條、第四百十三條及第四百十五條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス



第十四章 法務

第二章 民事

第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三四二

百九條第三項ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第六十八條 商法第九十九條及第百條ノ規定ハ第六十四條及前條ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 解散

第六十九條 有限會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 社員總會ノ決議

三 會社ノ合併

四 營業全部ノ讓渡

五 社員ガ一人ト爲リタルコト

六 會社ノ破産

七 解散ヲ命ズル裁判

前項第二號ノ決議ハ第四十八條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十條 前條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

前條第一項第五號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第七十一條 有限會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ前條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十二條 有限會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外取

得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ  
三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ  
四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ  
有限會社ノ取締役、監査役若ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 商法第四百七十九條乃至第四百八十二條、第四百八十四條及第四百八十五條ノ規定ハ有限會社ト同種ノ又ハ之ニ類似スル外國會社ニ之ヲ準用ス

第九章 罰則

第七十七條 取締役、監査役又ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條

第一項ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條第三項若ハ第六十條第四項ノ設立委員、第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第五十六條第三項ノ設立委員、清算人又ハ第七十

五條第二項ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一

項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七十八條 前條第一項ニ掲グル者ハ左ノ場合ニ於テハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ出資總口數ノ引受、出資ノ拂込若ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第七條第二號乃至第四號若ハ第四十九

條第一號第二號ニ掲グル事項ニ付裁判所ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ持分ヲ

締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ社員總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ選任ス  
第七十三條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス  
第七十四條 清算人ハ裁判所ノ選任シタルモノヲ除クノ外何時ニテモ社員總會ノ決議ニ依リテ之ヲ解任スルコトヲ得  
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十五條 商法第九十六條、第一百六條、第二百二十二條乃至第二百五條、第二百二十八條、第二百二十九條第二項第三項、第三百一十一條、第三百十四條、第四百十條乃至第四百十二條、第四百十八條乃至第四百二十四條及第四百二十七條乃至第四百二十九條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十五條及第四十條第一項第四號第二項並ニ商法第二百三十六條乃至第二百三十八條、第二百四十四條第二項、第二百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項、第二百六十九條乃至第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十八條、第二百八十二條、第二百八十三條第一項及第二百八十四條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第八章 外國會社

取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ  
三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ  
四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ  
有限會社ノ取締役、監査役若ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ株式會社ノ取締役、監査役若ハ商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項若ハ第二百八十條ノ職務代行者ガ第六十四條又ハ第六十七條ノ組織變更ノ場合ニ於テ第六十四條第二項又ハ第六十七條第二項ノ純財産額ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ亦前項ニ同ジ

第七十九條 第七十七條第一項ニ掲グル者出資ノ拂込ヲ假裝スル爲メ預合ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同ジ

第八十條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第八十一條 第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者又ハ検査役其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第八十二條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四章 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三四三



一 社員總會ニ於ケル發言若ハ議決權ノ行使、第四十二條第一項ノ規定ニ依ル議決權ノ行使又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル同意ノ表示

二 本法ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ノ權利ノ行使

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第八十三條 第八十一條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第八十四條 第八十一條第二項又ハ第八十二條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第八十五條 第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者、外國會社ノ代表者、検査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本法ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

四 本法ニ定ムル調査ヲ妨ゲタルトキ

五 官廳又ハ社員總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六 第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行シタルトキ

十九條又ハ第八百條ノ規定ニ違反シテ資本ノ減少、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ

十六 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第二百二十四條第三項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第三百一十一條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

十八 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

十九 清算ノ終了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十三條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十一 第七十六條ニ於テ準用スル商法第四百八十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

株式會社ノ取締役、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者、清算人又ハ同法第四百三十條第二項ニ於テ準用スル同法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者ガ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第八百條ノ規定ニ違反シテ合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第八十六條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第八十七條 本法ニ依リ署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三四四

七 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二百一十一條ノ規定ニ違反シテ持分失効ノ手續又ハ持分若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二百一十二條第一項ノ規定ニ違反シテ出資ノ消却ヲ爲シタルトキ

九 定款ニ定ムル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十 定款、社員名簿、議事録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案、決算報告書又ハ商法第三十二條第一項ノ帳簿ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十一 定款、社員名簿、議事録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案又ハ監査役ノ報告書ヲ備置カザルトキ

十二 第四十一條ニ於テ準用スル商法第二百三十四條ノ規定又ハ第四十五條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ社員總會ヲ召集セザルトキ

十三 第四十六條第一項ニ於テ準用スル商法第二百八十八條第一項又ハ第二百八十九條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十四 第五十二條第二項ノ規定ニ違反シテ出資ノ引受人ヲ公募シタルトキ

十五 第五十八條、第六十三條又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九

フルコトヲ得

第八十八條 第五十八條、第六十三條若ハ第六十八條ニ於テ準用シ若ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第一百條第一項ノ規定又ハ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十九條 有限會社ハ商法ヲ除クノ外他ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ商法ノ會社ト看做ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第五百十號ヲ以テ昭和十五年一月一日ヨリ施行)

● 拒絕證書規則

昭和八年十二月 朝鮮總督府令第四百六十六號

拒絕證書規則左ノ通定ム

拒絕證書規則

第一條 手形(爲替手形、約束手形)及小切手ノ拒絕證書ハ公證人又ハ執達ノ職務ヲ行フ者之ヲ作ル

第二條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏ノ職務ヲ行フ者之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 拒絕者及被拒絕者ノ名稱

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三四五



二 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及拒絕者ガ其ノ請求ニ應ゼザリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハザリシコト又ハ請求ヲ爲スベキ場所ガ知レザリシコト

三 請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハザリシ地及年月日

四 拒絕證書ニ成ノ場所及年月日

五 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者ガ之ヲ承諾シタルコト

支拂人ガ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル手形法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ第二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求シタルトキハ拒絕證書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條 拒絕證書ノ作成ハ手形若ハ小切手又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

拒絕證書ハ手形又ハ小切手ノ裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ作り附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ノ職務ヲ行フ者其ノ接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 手形又ハ小切手ノ數通ノ複本又ハ原本及謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ其ノ作成ハ一通ノ複本若ハ原本又ハ附箋ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ拒絕證書ヲ作リタルトキハ他ノ複本又ハ謄本ニ其ノ旨ヲ記載シ公證人又ハ執達吏ノ職務ヲ行フ者之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル手形法第六十八條第二項(同法第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル拒絕證

トヲ要ス此ノ謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件

昭和八年十二月二十九日 朝鮮總督府令第四百十七號

小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 内地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ振出シ朝鮮ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ二十日トス

南洋群島ニ於テ振出シ朝鮮ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス

第二條 日本及滿洲國以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シ朝鮮ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ニ關スル件

昭和九年一月六日 朝鮮總督府令第二號

書ノ作成ハ手形ノ謄本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス  
引受ノ一部ノ拒絕ニ因ル拒絕證書ノ作成ハ公證人又ハ執達吏ノ職務ヲ行フ者ニ於テ手形ノ謄本ヲ作り其ノ謄本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第三條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 數人ニ對スル請求又ハ同一人ニ對スル數回ノ請求ニ付テハ一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第七條 拒絕證書ハ請求ヲ爲シタル場所ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス但シ拒絕者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ作ルコトヲ妨ゲズ

請求ヲ爲スベキ場所ガ知レザルトキハ拒絕證書ヲ作ルベキ公證人又ハ執達吏ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ知レザルトキハ其ノ官署若ハ公署又ハ自己ノ役場ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

第八條 公證人又ハ執達吏ノ職務ヲ行フ者ガ證書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其ノ役場ニ備フルコトヲ要ス

一 爲替手形、約束手形又ハ小切手ノ別及番號アルトキハ其ノ番號

二 金額

三 振出人、支拂人及支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱

四 振出ノ年月日及振出地

五 満期及支拂地

六 支拂ノ爲指定セラレタル第三者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其ノ名稱

拒絕證書ガ滅失シタル場合ニ於テ利害關係人ノ請求アリタルトキハ前項ノ記載ヲ爲シタル謄本ニ依リテ謄本ヲ作り之ヲ利害關係人ニ交付スルコ

小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ニ關スル件左ノ通定ム  
朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル小切手法ノ適用ニ付テハ左ニ掲グルモノヲ銀行ト同視ス

金融組合

朝鮮金融組合聯合會

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

●朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル手形法及小切手法ノ規定ニ依ル手形交換所

昭和八年十二月二十九日 朝鮮總督府令第四百十八號

改正 昭和十三年七月第一四四號、一五年六月第一四一號

朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル手形法第八十三條及小切手法第六十九條ノ規定ニ依リ手形交換所別表ノ通指定ス

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年朝鮮總督府令第十七號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

名	稱	所在地
京城手形交換所		京城
京城手形交換所		京城



第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

三四八

- 仁川手形交換所 京畿道仁川府
- 群山手形交換所 全羅北道群山府
- 木浦手形交換所 全羅南道木浦府
- 大邱手形交換所 慶尙北道大邱府
- 釜山手形交換所 慶尙南道釜山府
- 平壤手形交換所 平安南道平壤府
- 鎮南浦手形交換所 平安南道鎮南浦府
- 咸興手形交換所 咸鏡南道咸興府
- 元山手形交換所 咸鏡南道元山府
- 清津手形交換所 咸鏡北道清津府

●商事非訟事件印紙法

明治二十三年八月十六日 法律第六十六號

改正 明治四三年三月第一六號

大正一五年四月第六五號

昭和二年三月第三二號、一四年四月第六八號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條 商法及有限會社法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告又ハ假差押ノ申立
- 二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告ニ對スル答辯
- 二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條乃至第七條 削除

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第三章第一節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限リ之ヲ準用ス

(明治二十三年法律第九號ヲ以テ)

(明治二十六年一月一日ヨリ施行)

附則 (昭和二年法律第三十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年勅令第七十號ヲ以テ)

(昭和二年四月十日ヨリ施行)

本法施行ノ際未タ終局計算ニ至ラサル破産手續ニ在リテハ財團ノ全部ニ付印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

大正十五年法律第六十五號第三項ヲ削ル

附則 (大正一五年法律第六十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和四年五月勅令第五百五號ヲ以テ)

(以テ同年十月一日ヨリ施行)

附則 (昭和二年法律第六十八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十五年一月一日ヨリ施行)

商法中改正法律施行法ニ依リ同法第一條ニ於テ謂フ舊法ヲ適用スベキ場合ニ付ハテ從前ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

●民事訴訟法

明治二十三年四月二十一日 法律第二十九號

改正

明治三二年六月第一一號、四四年四月第七二號

大正一一年四月第五四號、一五年四月第六二號

昭和六年三月第一七號、一〇年三月第一五號、二三年三月第一九號、一六年三月第一五七號

朕民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟法目錄

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄

第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二章 當事者

第一節 當事者能力及訴訟能力

第二節 共同訴訟

第三節 訴訟參加

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

三四九

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第二節 訴訟費用ノ擔保

第三節 訴訟上ノ救助

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第二節 期日及期間

第三節 送達

第四節 裁判

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止

第二編 第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第一節 訴

第二節 辯論ノ準備

第三節 證據

第一款 總則

第二款 證人訊問

第三款 鑑定

第四款 書證

第五款 檢證

第六款 當事者訊問

第七款 證據保全

第二章 區裁判所ノ訴訟手續



第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

第三編 上訴

第一章 控訴

第二章 上告

第三章 抗告

第四編 再審

第五編 督促手續

第六編 強制執行

第一章 總則

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第三款 債權及ト他ノ財産權ニ對スル強制執行

第四款 配當手續

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第二款 強制競賣

第三款 強制管理

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第四章 假差押及ヒ假處分

第七編 公示催告手續

第八編 仲裁手續

民事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄

第一條 訴ハ被告ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二條 人ノ普通裁判籍ハ住所ニ依リテ定ル

日本ニ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ普通裁判籍ハ居所ニ依リ、居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定ル

第三條 大使、公使其ノ他外國ニ在リテ治外法權ヲ享ケル日本人ノ前條ノ規定ニ依リ普通裁判籍ヲ有セサルトキハ其ノ者ノ普通裁判籍ハ東京市ニ在ルモノトス

第四條 法人其ノ他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ハ其ノ主タル事務所又ハ營業所ニ依リ、事務所又ハ營業所ナキトキハ主タル業務擔當者ノ住所ニ依リテ定ル

第五條 財產權上ノ訴ハ義務履行地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六條 寄留者ニ對スル財産權上ノ訴ハ寄留地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第七條 船舶ノ衝突其ノ他海上ノ事故ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第八條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第九條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十條 登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 相続權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行為ニ關スル訴ハ相続開始ノ時ニ於ケル被相続人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十二條 相續債權其ノ他相續財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ相續財產ノ全部又ハ一部カ前條ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限り其ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十三條 一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 裁判所構成法ニ依リ管轄力訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ルトキハ其ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

トヲ得

第七條 軍人、軍屬又ハ船員ニ對スル財産權上ノ訴ハ軍事用ノ廳舎ノ所在地又ハ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第八條 日本ニ住所ナキ者又ハ住所ノ知レサル者ニ對スル財産權上ノ訴ハ請求若ハ其ノ擔保ノ目的又ハ差押アルコトヲ得ヘキ被告ノ財産ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第九條 事務所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對スル訴ハ其ノ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務ニ關スルモノニ限り其ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十條 船舶又ハ航海ニ關シ船舶所有者其ノ他船舶ノ利用ヲ爲ス者ニ對スル訴ハ船籍ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 船舶債權其ノ他船舶ヲ以テ擔保スル債權ニ基ク訴ハ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十二條 會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基クモノニ限り會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十三條 會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基クモノニ限り前條ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 第十二條及前條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨ

リ社員、役員、發起人又ハ検査役タリシ者ニ對スル訴及社員タリシ者ヨリ社員ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス

第十五條 不法行為ニ關スル訴ハ其ノ行為アリタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 船舶ノ衝突其ノ他海上ノ事故ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 相続權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行為ニ關スル訴ハ相続開始ノ時ニ於ケル被相続人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條 相續債權其ノ他相續財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ相續財產ノ全部又ハ一部カ前條ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限り其ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十二條 一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十三條 裁判所構成法ニ依リ管轄力訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ルトキハ其ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

第二十四條 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停

第二章 民事

第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停



前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ千圓ヲ超過スルモノト看做ス

第二十三條 一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ價額ヲ合算ス  
果實、損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求カ訴訟ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ訴訟ノ目的ノ價額ニ算入セス

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ム

一 管轄裁判所及裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リテ之ニ代ルヘキ裁判所カ法律上又ハ事實上裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ  
二 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所カ定ラサルトキ  
前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十五條 當事者ハ第一審ニ限り合意ニ依リ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ得  
前項ノ合意ハ一定ノ法律關係ニ基ク訴ニ關シ且書面ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

第二十六條 被告カ第一審裁判所ニ於テ管轄違フ抗辯ヲ提出セスシテ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判所ハ管轄權ヲ有ス

第二十七條 第一條、第五條乃至第二十一條、第二十五條及前條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十八條 裁判所ハ管轄ニ關スル事項ニ付職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 裁判所ノ管轄ハ起訴ノ時ノ標準トシテ之ヲ定ム

三 判事カ當事者ノ後見人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ

四 判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ  
六 判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十六條 除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス

第三十七條 判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ回避スルコトヲ得  
當事者カ判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ判事ヲ回避スルコトヲ得但シ回避ノ原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
除斥又ハ回避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ之ヲ説明スルコトヲ要ス前條第二項但書ノ事實亦同シ

第三十九條 合議裁判所ノ判事ノ除斥又ハ回避ニ付テハ其ノ裁判所、區裁判所ノ判事ノ除斥又ハ回避ニ付テハ其ノ裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第四十條 判事ハ其ノ除斥又ハ回避ニ付裁判ニ關與スルコトヲ得ス但シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十條 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一部カ其ノ管轄ニ屬セスト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送ス

第三十一條 裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付著キ損害又ハ遲滞ノ避クル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ專屬管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得

第三十二條 移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束ス  
移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得ス

第三十三條 移送ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十四條 移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬シタルモノト看做ス  
前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書記ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第二節 裁判所職員ノ除斥、回避及回避  
第三十五條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ

一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務者若ハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ  
二 判事カ當事者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ

第四十一條 除斥又ハ回避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 除斥又ハ回避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ裁判ノ確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スルコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 第三十五條及第三十七條第一項ノ場合ニ於テハ判事ハ監督權アル判事ノ許可ヲ得テ回避スルコトヲ得

第四十四條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ裁判所書記所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲ス

第二章 當事者

第一節 當事者能力及訴訟能力

第四十五條 當事者能力及訴訟無能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ他ノ法令ニ從フ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權亦同シ

第四十六條 法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得

第四十七條 共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ中ヨリ總員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得  
訴訟ノ繫屬ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ定メタルトキハ他ノ當事者ハ當然訴訟ヨリ脱退ス

第四十八條 前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者中死亡其ノ他ノ事



由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 未成年者及禁治産者ハ法定代理人ニ依リテノミ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ相手方ノ提起シタル訴又ハ上訴ニ付訴訟行爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意、夫ノ許可又ハ親族會ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セス

準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ訴、控訴若ハ上告ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脱退ヲ爲スニハ常ニ特別ノ授權アルコトヲ要ス

第五十一條 外國人ハ其ノ本國法ニ依レハ訴訟能力ヲ有セサルトキト雖日本ノ法律ニ依レハ訴訟能力ヲ有スヘキトキハ之ヲ訴訟能力者ト看做ス

第五十二條 法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更亦同シ

前項ノ書面ハ訴訟記録ニ之ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十三條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メテ其ノ補正ヲ命ジ若シ遲滞ノ爲損害ヲ生スル虞アルトキハ一時訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十四條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アル者カ爲シタル訴訟行爲ハ其ノ欠缺ナキニ至リタル當事者又ハ法定代理人ノ追認ニ因リ行爲ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス

提起スルコトヲ得

第六十一條 共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行爲又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行爲及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ボサス

第六十二條 訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行爲ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行爲ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中断又ハ中止ノ原因アルトキハ其ノ中断又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ス

第六十三條 第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行爲ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟參加

第六十四條 訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第六十五條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加ニ依リテ訴訟行爲ヲ爲スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

書面ニ依リテ參加ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ書面ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

第六十六條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ

第五十五條 第五十三條及前條ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者カ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人カ代理權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者又ハ禁治産者ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サムトスル者ハ遲滞ノ爲損害ヲ受クル虞アルコトヲ疏明シテ受訴裁判所ノ裁判長ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得

特別代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニハ後見人ト同一ノ授權アルコトヲ要ス

特別代理人ノ選任及改任ノ命令ハ特別代理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第五十七條 法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ヨリ之ヲ相手方ニ通知スルニ非ザレハ其ノ效ナシ

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ニ之ヲ準用ス

第五十八條 本法中法定代理及法定代理人ニ關スル規定ハ法人ノ代表者及法人ニ非スシテ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管理人ニ之ヲ準用ス

第六十條 他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ

裁判ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘシテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ異議ヲ述フル權利ヲ失フ

第六十八條 參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ參加ヲ許ササル裁判確定セサル間ハ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

參加人ノ訴訟行爲ハ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許ササル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第六十九條 參加人ハ訴訟ニ付攻撃又ハ防禦ノ方法ノ提出、異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 前條ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セザリシ場合、被參加人カ參加人ノ訴訟行爲ヲ妨ケタル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲ササリシ場合ヲ除クノ外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十一條 訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十二條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲メ訴訟ニ參加シタル

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三五五

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三五五



者アル場合ニ於テハ參加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得但シ判決ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十三條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟參加ヲ爲シタルトキハ其ノ參加ハ訴訟ノ繫屬ノ初ニ遡リテ時効ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ス

第七十四條 訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第七十二條ノ規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得

訴訟告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ書面ハ相手方ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ノ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得但シ區裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス  
前項ノ書面カ私文書ナルトキハ裁判所ハ當該吏員ノ認證ヲ受クヘキ旨ヲ訴訟代理人ニ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ當事者カ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ裁判所書記カ調書ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ且辨濟ヲ受領スルコトヲ得  
左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 反訴ノ提起
- 二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依リテ脱退
- 三 控訴、上告又ハ其ノ取下
- 四 代理人ノ選任

訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

第八十三條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ生セス

第八十四條 訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セス

第八十五條 訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セス

第八十六條 一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セス

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者カ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十八條 當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得  
輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ら之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第八十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十條 裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナラサル行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用又ハ訴訟ノ程度ニ於テ相手方ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナリシ行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 當事者カ適當ノ時期ニ攻撃若ハ防禦ノ方法ヲ提出セザル爲又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ訴訟ヲ遲滯セシメタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其ノ勝訴ノ場合ニ於テモ遲滯ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 第八十九條乃至前條ノ規定ハ當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス參加ノ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト相手方トノ間ニ於ケル負擔ニ付亦同シ

第九十五條 裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ職權ヲ以テ其ノ審級ニ於テ



ケル訴訟費用ノ全部ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ事情ニ從ヒ事件ノ一部又ハ中間ノ争ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 上級裁判所カ本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ納費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲ス場合亦同シ

第九十七條 當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定ヲ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

第九十八條 法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生シメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

第九十九條 裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

第一百條 裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本並費用納セシムルコトヲ得

當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ前項ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ得

第二節 訴訟費用ノ擔保

第一百七條 原告カ日本ニ住所、事務所及營業所ヲ有セサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付争ナキ場合ニ於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セス

第一百八條 擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知りタル後被告カ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百九條 擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得

第一百十條 裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

擔保額ハ被告カ各審ニ於テ支出スヘキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第一百十一條 擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

第一百十三條 被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

額ノ疏明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百一條 裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書及費用額ノ疎明ニ必要ナル書面ヲ提出スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

相手方カ期間内ニ前項ノ書面ヲ提出セサルトキハ裁判所ハ申立人ノ費用ノミニ付裁判ヲ爲スコトヲ得但シ相手方ノ費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ妨ケス

第一百二條 裁判所カ訴訟費用額ヲ定ムル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ前條第二項ノ場合ヲ除クノ外各當事者ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ對當額ニ付相殺アリタルモノト看做ス

第一百三條 第九十七條ノ場合ニ於テ當事者カ訴訟費用ノ負擔ヲ定メ其ノ額ヲ定メサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ其ノ額ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第一百條第二項第三項、第一百一條及前條ノ規定ヲ準用ス

第一百四條 前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟カ裁判ニ因ラスシテ完結シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用ノ額ヲ定メ且其ノ負擔ヲ命スルコトヲ要ス參加又ハ之ニ付テノ異議ノ取アリタルトキ亦同シ

第八十九條乃至第九十四條、第一百條第二項第三項、第一百一條及第一百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百五條 裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百六條 費用ヲ要スル行爲ニ付テハ裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百七條 擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ

訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做ス

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百八條 裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス

第一百九條、第一百十條第一項及第一百十一條乃至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟上ノ救助

第一百十條 訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル

第一百九條 訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フ



救助ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第二百二十條 訴訟上ノ救助ハ訴訟及強制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス

一 裁判費用ノ支拂ノ猶豫

二 執達吏及裁判所ニ於テ附添テ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ猶豫

三 訴訟費用ノ擔保ノ免除

第二百二十一條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニノミ其ノ效力ヲ有ス

裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命ス

第二百二十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス資力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得

第二百二十三條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂ヲ猶豫シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及強制執行ヲ爲スコトヲ得

辯護士又ハ執達吏ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代リ第二百三條又ハ第二百四條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第二百二十五條 當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス

ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト

三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト

四 檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト

五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト

前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十二條 裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得

第二百三十三條 裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第二百三十四條 辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セサルトキ又ハ難若ハ啞ナルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ難者又ハ啞者ニハ文字ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁シ辯論續行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第二百三十六條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス和解ヲ試ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シシムルコトヲ得

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三六一

但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム

前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ審訊スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百二十六條 口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス

裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

第二百二十七條 裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問テ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル處置ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得

第二百二十八條 裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第二百二十九條 當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第二百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依リ裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス

第二百三十條 受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指定ス

裁判所ノ爲ス囑託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判長之ヲ爲ス

第二百三十一條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト

二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者

裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第二百三十七條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

第二百三十八條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

第二百三十九條 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遅延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ

第二百四十條 當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ其ノ事實ヲ明白シタルモノト看做ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳述ヲ爲シタル者ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト推定ス

第二百四十一條 當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滞ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス



第四百二十二條 口頭辯論ニ付テハ裁判所書記日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第四百二十三條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之ニ署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席判事其ノ席次ニ從ヒ順次之ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

一 事件ノ表示  
二 判事及裁判所書記ノ氏名  
三 立會ヒタル檢事ノ氏名  
四 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事並陪席シタル當事者ノ氏名

五 辯論ノ場所及年月日  
六 辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テハ其ノ理由

第四百二十四條 調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス  
一 和解、認諾、拋棄、取下及自白  
二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述  
三 檢證ノ結果  
四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項  
五 書面ニ作ラサル裁判  
六 裁判ノ言渡

第四百四十五條 調書ニハ書面、寫眞其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノ

第五百二十二條 期日ハ裁判長之ヲ定ム

受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ其ノ判事之ヲ定ム

期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケル最初ノ期日ノ變更亦同シ

第五百二十三條 期日ハ已ムコトヲ得サル場合ニ限リ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第五百二十四條 期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル

第五百二十五條 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス

第五百二十六條 期間ノ計算ハ民法ニ從フ

期間ノ末日カ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第五百二十七條 期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メサルトキハ其ノ期間ハ裁判カ效力ヲ生シタル時ヨリ進行ヲ始ム

第五百二十八條 裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス

不變期間ニ付テハ裁判所ハ遠隔ノ地ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得

裁判長、受命判事又ハ受託判事ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第五百二十九條 當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ違

ヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得

第四百四十六條 調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

調書ノ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百四十七條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守ハ調書ニ依リテノミ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百四十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ速記者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトヲ得

第四百四十九條 第四百二十二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス

第四百五十條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作り之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第五百一十一條 當事者ハ訴訟記録ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ疏明シタル第三者亦同シ

訴訟記録ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二節 期日及期間

第三節 送達

第五百六十條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百六十一條 送達ニ關スル事務ハ裁判所書記之ヲ取扱フ

前項ノ事務ノ取扱ハ送達地ノ區裁判所ノ書記ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五百六十二條 送達ハ執達吏又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲ス

郵便ニ依リ送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲ス吏員トス

第五百六十三條 當該事件ニ付頭シタル者ニ對シテハ裁判所書記自ラ送達ヲ爲スコトヲ得

第五百六十四條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ノ謄本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

送達スヘキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作りタルトキハ其ノ調書ノ謄本又ハ抄本ヲ交付シテ送達ヲ爲ス

第五百六十五條 訴訟無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス

第五百六十六條 數人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第五百六十七條 軍用ノ廳舍又ハ艦船ニ屬スル者ニ對スル送達ハ其ノ廳舍又ハ艦船ノ長ニ之ヲ爲ス

第五百六十八條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

第五百六十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ營業所又ハ事務所ニ



於テモ之ヲ爲スコトヲ得  
送達ヲ受クヘキ者カ日本ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スルコト  
明ナラサルトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ  
得住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マ  
サルトキ亦同シ

第七十條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受訴裁判所ノ所在地ニ  
住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ  
於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ届出ツルコトヲ要ス  
送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達ス  
ヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛テ書留郵便ニ付  
シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第七十一條 送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサル  
トキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ  
具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

第七十二條 前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ  
裁判所書記書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得  
第七十三條 第七十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付  
シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看  
テ得

第七十四條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ執達吏  
ニ依ル送達ヲ爲スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス  
前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記  
スルコトヲ要ス  
前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ之ヲ受取リタ  
ル場合ニ限り其ノ效力ヲ有ス

第七十五條 外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其  
ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス  
第七十六條 出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服ス  
ル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ裁判長上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲ス  
前項ノ送達ニ付テハ第六十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載  
シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス  
第七十八條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル  
場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付第七十五條ノ規定ニ依ルコト能  
ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判  
長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ  
送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス  
但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス

第八十條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關シタル判事之ヲ爲ス  
判事ノ要旨ニシテハ其ノ場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スル  
コトヲ要ス

第八十一條 判決ハ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲  
ス  
第八十二條 判決ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要  
領ヲ告クルコトヲ得

第八十三條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス但シ  
事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺  
印スルコトヲ要ス  
一 主文  
二 事實及爭點  
三 理由  
四 當事者及法定代理人  
五 裁判所  
事實及爭點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ指示シ  
テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記

第八十五條 裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨  
及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ム  
ヘキカ否ヲ判斷ス

第八十六條 裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得  
第八十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關シタル判事之ヲ爲ス  
判事ノ要旨ニシテハ其ノ場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スル  
コトヲ要ス

第八十八條 判決ハ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲  
ス  
第八十九條 判決ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要  
領ヲ告クルコトヲ得

第九十條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス但シ  
事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺  
印スルコトヲ要ス  
一 主文  
二 事實及爭點  
三 理由  
四 當事者及法定代理人  
五 裁判所  
事實及爭點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ指示シ  
テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記



載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第百九十二條 判決ハ言渡後遲滞ナク之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第百九十三條 判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス

第百九十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得

更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作り之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條 裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脫漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬ス

訴訟費用ノ裁判ヲ脫漏シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第四百四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴裁判所ハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス

第百九十六條 財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト

三 外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セザルコト

四 相互ノ保證アルコト

第二百一條 確定判決ハ當事者、口頭辯論終結後ノ承繼人又ハ其ノ者ノ爲

請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス  
他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス

第二百二條 不適法ナル訴ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第二百三條 和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ調書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四條 決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第二百五條 訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二百六條 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第二百七條 決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限り判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 訴訟手續ノ中断及中止  
第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三六七

認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ掲グルコトヲ要ス

第百九十七條 第百九十二條、第百九十三條、第百九十五條及第百九十六條ノ規定ハ前條ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第百九十八條 假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス

假執行ノ宣言ノミヲ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第百九十九條 確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限り既判力ヲ有ス

相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス

第二百條 外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限り其ノ效力ヲ有ス

一 法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セザルコト

二 敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコト

第二百八條 當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第二百九條 當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存続スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百十條 當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十一條 受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十二條 一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ有スル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中断シタル場合亦同シ

第四十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ原告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス



第二百三十三條 第二百八條第一項、第二百九條第一項及第二百十條乃至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ適用セス

第二百三十四條 當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルキハ破産財團ニ關スル訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テ破産法ニ依ル受繼アル迄ニ破産手續ノ解

止アリタルトキハ破産者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス  
第二百三十五條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手續ノ受繼アリタル後破産手續ノ解

止アリタルトキハ破産者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス  
第二百三十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百三十七條 訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス  
第二百三十八條 訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナ

シト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス  
第二百三十九條 裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ得

第二百四十條 天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁判所カ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス  
第二百四十一條 當事者カ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト

能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコトヲ得  
第二百四十二條 判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中斷中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

訴訟手續ノ中斷又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム

第二章 第一審ノ訴訟手續  
第一節 地方裁判所ノ訴訟手續

第二百二十三條 訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百二十四條 訴狀ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス

準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス  
第二百二十五條 確認ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十六條 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得  
第二百二十七條 數個ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ限り一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條 訴狀カ第二百二十四條第一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同シ

原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス  
前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スルコトヲ要ス  
第二百二十九條 訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス  
第二百三十條 訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス

第二百三十一條 裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス  
第二百三十二條 原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限り口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ之ニ因リ著ク訴訟手續ヲ

遲滞セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス  
請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百三十三條 裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百三十四條 裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ

不成立ニ繫ルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキニ限ル  
前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス  
第二百三十五條 時効ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第二百三十六條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得  
訴ノ取下ハ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタル後ニ在リテハ相手方ノ同意ヲ得レニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス  
第三項但書ノ場合ニ於テ相手方カ期日ニ出頭セサルトキハ口頭辯論又ハ準備手續ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達スルコトヲ要ス

訴ノ取下ノ書面ノ送達アリタル日ヨリ三月内ニ相手方カ異議ヲ述ヘサルトキハ訴ノ取下ニ同意シタルモノト看做ス第三項但書ノ場合ニ於テ相手方カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ訴ノ取下アリタル日ヨリ、相手方カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ前項ノ謄本ノ送達アリタル日ヨリ三月内ニ相手方カ異議ヲ述ヘサルトキ亦同シ

第二百三十七條 訴訟ノ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス  
本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス  
第二百三十九條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ

反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル  
第二百四十條 反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

第二百四十一條 本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得  
第二節 辯論ノ準備

第二百四十二條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス  
第二百四十三條 準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲ス



ニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得

第二百四十四條 準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所

二 代理人ノ氏名、職業及住所

三 事件ノ表示

四 攻撃又ハ防禦ノ方法

五 相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述

六 附屬書類ノ表示

七 年月日

八 裁判所ノ表示

第二百四十五條 當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

文書ノ一部ノミヲ必要トスルトキハ其ノ抄本ヲ添附シ文書力大部ナルトキハ其ノ文書ヲ表示スルヲ以テ足ル

第二百四十六條 前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ閱覽セシムルコトヲ要ス

第二百四十七條 準備書面ニ記載セサル事實ハ相手方力在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十八條 外國語ヲ以テ作りタル文書ニハ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百四十九條 訴訟ニ付テハ受命判事ニ依リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或争點ノミニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得

第二百五十條 準備手續ニ於テハ調書ヲ作り當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス

受命判事相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述及調書ニ代フルコトヲ得

第二百五十一條 當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサルトキハ前條ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ得

第二百五十二條 受命判事ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百五十三條 當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

第二百五十四條 當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第二百五十五條 調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得但シ其ノ事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著ク訴訟ヲ遲滯セシメサルトキ又ハ重大ナル過失ヲシテ準備手續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

訴訟又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載シタル事項ハ調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサルモノト雖口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第二百五十六條 第二百二十六條乃至第二百二十九條、第三百一十一條、第三百十三條乃至第三百四十一條及第二百三十八條ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス

第三節 證據 第一款 總則

第二百五十七條 裁判所ニ於テ當事者カ自シタル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス

第二百五十八條 證據ノ申出ハ證スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條 當事者ノ申出テタル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス

第二百六十條 證據調ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得

第二百六十一條 裁判所ハ當事者ノ申出テタル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條 裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑託スルコトヲ得

第二百六十三條 證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テモ之ヲ爲

スコトヲ得

第二百六十四條 外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス

外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモノ本法ニ違背セサルトキハ其ノ效力ヲ有ス

第二百六十五條 裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部員ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

受託判事カ他ノ區裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相當ト認ムルトキハ更ニ證據調ノ囑託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受託裁判所及當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百六十六條 受託判事ハ證據調ニ關スル記録ヲ受託裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第二百六十七條 疏明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

第二百六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒取ス

第二百六十九條 第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當



事者又ハ法定代理人カ虚偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二百七十條 第二百六十八條及前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二款 證人訊問

第二百七十一條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百七十二條 官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該監督官廳ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ付之ヲ準用ス

第二百七十三條 國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十四條 貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十五條 證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十六條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ表示  
二 訊問事項ノ要領  
三 出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁

第二百七十七條 證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百七十八條 裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル證人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

前項ノ勾引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十九條 左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

一 證人カ受訴裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ

二 證人カ受訴裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ

第二百八十條 證言カ證人又ハ左ニ掲クル者ノ刑事上ノ訴追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ

一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

二 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者

三 證人カ主人トシテ仕フル者

第二百八十一條 左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合

二 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯理士、辯護人、公證人、宗教又ハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ

第二百九十條 第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絶ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

第二百九十一條 證人カ自己又ハ第二百八十條ノ掲クル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

第二百九十二條 宣誓ヲ爲サシメスシテ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第二百九十三條 第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

第二百九十四條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得

第二百九十五條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九十六條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在テ訊問スルコトヲ得

第二百九十七條 證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十八條 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得

第二百九十九條 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ發問ノ許可ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所異議ニ付裁判ヲ爲ス

第三百條 受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三七三

三 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十二條 證言拒絶ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第二百八十三條 第二百八十一條第一號ノ場合ヲ除クノ外證言拒絶ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス

證言拒絶ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 證言拒絶ノ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十五條 裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十六條 宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第二百八十七條 裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ且偽證ノ罰ヲ警告スルコトヲ要ス

第二百八十八條 宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百八十九條 左ニ掲クル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

一 十六年未満ノ者

二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハサル者

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三七三



裁判長ノ職務ハ其ノ判事之ヲ行フ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁  
判ハ受訴裁判所之ヲ爲ス

第三款 鑑定

第三百一一條 鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前款ノ規定ヲ準用ス  
第三百二條 鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ  
第二百八十條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得  
ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコ  
トヲ得ス

第三百三條 鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス

第三百四條 鑑定人ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事之ヲ指定ス

第三百五條 鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ  
當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得  
陳述ヲ爲シタルトキト雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原  
因アルコトヲ知りタルトキ亦同シ

第三百六條 忌避ノ申立ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲ス  
コトヲ要ス

忌避ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理  
由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七條 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載  
スルコトヲ要ス

第三百八條 裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別  
ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得

第三百十四條 裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定  
ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス

第三百十五條 文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコ  
トヲ得

第三百十六條 當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關  
スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十七條 當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル  
文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁  
判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十八條 第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以  
テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ  
得

第三百十九條 書證ノ申出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ  
其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ  
法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ  
限ニ在ラス

第三百二十條 裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送付ニ係ル文書  
ヲ留置クコトヲ得

第三百二十一條 第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲ  
シテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受  
託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三三四

第三百九條 特別ノ學識經驗ニ依リテ知り得タル事實ニ關スル訊問ニ付テ  
ハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル

第三百十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若  
ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於  
テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本款ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ  
指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百一一條 書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出  
ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百二條 左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得  
ス

一 當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ラ所持スルトキ  
二 舉證者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ル  
トキ  
三 文書カ舉證者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ舉證者ト文書ノ所持者ト  
ノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ

第四百三條 文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス  
一 文書ノ表示  
二 文書ノ趣旨  
三 文書ノ所持者  
四 證スヘキ事實  
五 文書提出ノ義務ノ原因

前項ノ調書ニハ文書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百四條 文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル謄本ヲ以  
テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命シ又ハ送付ヲ爲サシムルコ  
トヲ得

第四百五條 裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ謄本又ハ抄本ヲ提出セシム  
ルコトヲ得

第四百六條 文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏其ノ他ノ公務員カ職務  
上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス

第四百七條 公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ當該官廳又ハ公署ニ  
問合ヲ爲スコトヲ得

第四百八條 前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認  
ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第四百九條 私文書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス

第五百十條 私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ  
之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第五百十一條 文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スル  
コトヲ得

第五百十二條 第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百  
十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印影ヲ  
具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百二十三條 第三百二十一條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲ  
シテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受  
託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法

人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三三五



抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供ス

ヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルト

キハ裁判所ハ文書ノ眞否ニ關スル舉證者ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

書様ヲ變シテ手記シタルトキ亦同シ

第三百三十條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書

ニ添付スルコトヲ要ス

第三百三十一條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞

實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ

過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ繫屬

中其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ

取消スコトヲ得

第三百三十二條 本款ノ規定ハ證據ノ偽作リタル物件ニシテ文書ニ非サル

モノニ之ヲ準用ス

第五款 檢證

第三百三十三條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認

ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百

十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ提示又ハ送付ニ之ヲ準

用ス

第七款 證據保全

第三百四十三條 裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲スニ非サレハ其ノ證據ヲ使用ス

ルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據

調ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條 證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在リテハ其ノ證據ヲ使

用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ者若ハ

文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ

爲スコトヲ要ス

急迫ナル場合ニ於テハ訴ノ提起後ト雖前項ノ區裁判所ニ證據保全ノ申立

ヲ爲スコトヲ得

第三百四十五條 證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一 相手方ノ表示

二 證スヘキ事實

三 證據

四 證據保全ノ事由

證據保全ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百四十六條 證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ

於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者

ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得

第三百四十七條 裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ訴訟ノ繫屬中職權ヲ以

テ證據保全ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百四十八條 證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十九條 證據調ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但

第十四輯 法務 第二章 民事 第一款 民事令 民法 商法 民事訴訟法 人事訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三七七

第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提示ノ命ニ從ハサルトキ

ハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得

第六款 當事者訊問

第三百三十六條 裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ

申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於

テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十七條 裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ト

證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得

第三百三十八條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ宣誓若ハ

陳述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト

認ムルコトヲ得

第三百三十九條 宣誓シタル當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所

決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲ス

コトヲ得

第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決定ニ之ヲ準用ス

第三百四十條 當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメ又ハ

爲サシメサルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第三百四十一條 第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代

表スル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス

第三百四十二條 第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至

第二百八十九條、第二百九十五條及第二百九十七條乃至第三百條ノ規定

ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用ス

シ急迫ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百五十條 證據保全ニ關スル記録ハ本訴訟ノ記録ノ存スル裁判所ニ之

ヲ送付スルコトヲ要ス

第三百五十一條 證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第三百五十二條 區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外

前章ノ規定ヲ準用ス

第三百五十三條 訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百五十四條 當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付口頭辯論ヲ

爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲

ス

第三百五十五條 被告カ反訴ヲ以テ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル請求ヲ爲シ

タル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ區裁判所ハ決定ヲ以テ本訴及反

訴ヲ地方裁判所ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三十二條及第

三十四條ノ規定ヲ準用ス

移送ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百五十六條 民事上ノ爭ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因竝爭ノ實

情ヲ表示シテ相手方ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲ス

コトヲ得

和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ

申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲

シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタルモノト看做シ和

解調ハサル場合ニ於テ訴訟手續法 非訟事件手續法 調停 三七七



解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス  
申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサ  
ルモノト看做スコトヲ得

**第三百五十七條** 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス  
相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト認ムヘキ事項ハ  
前項ノ規定ニ拘ラス書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ  
ハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知スル  
コトヲ得

**第二百四十七條** 規定ハ前項ノ通知ヲ爲ササル場合ニ之ヲ準用ス  
**第三百五十八條** 準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用  
セス

**第三百五十九條** 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要  
旨、其ノ原因ノ有無並請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ  
以テ足ル

第三編 上訴

第一章 控訴

**第三百六十條** 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當  
事者雙方共ニ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

**第二十五條** 第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ之ヲ準用ス  
**第三百六十一條** 訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得  
ス

ルコトヲ要ス

控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ遲滞ナク第一審  
裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ムルコトヲ要ス

**第三百七十條** 第二百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第三百六十七條第二項ノ  
規定ニ違背スル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セザル場合  
及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

**第三百七十一條** 控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス

**第三百七十二條** 被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄  
附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

**第三百七十三條** 附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ不合法トシテ控  
訴ノ棄却アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノ  
ハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

**第三百七十四條** 附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關スル規定ニ依ル

**第三百七十五條** 控訴裁判所ハ第一審ノ判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限  
リ申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

**第三百七十六條** 假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツル  
コトヲ得ス

前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

**第三百七十七條** 口頭辯論ハ當事者カ第一審ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ  
於テノミ之ヲ爲ス

當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス  
**第三百七十八條** 前編第一章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴  
審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第十四輯 法務

第二章 民事

第一款 民事令

民法 商法

民事訴訟法

人事訴訟手續法

非訟事件手續法

調停

**第三百六十二條** 終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ  
申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判  
ハ此ノ限ニ在ラス

**第三百六十三條** 控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得  
第二百三十六條第三項乃至第五項、第二百三十七條第一項及第二百三十  
八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス

**第三百六十四條** 控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

**第三百六十五條** 控訴權ノ拋棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控  
訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要  
ス

控訴提起後ノ控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴權拋棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

**第三百六十六條** 控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起ス  
ルコトヲ要ス但シ其ノ期間前提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

**第三百六十七條** 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提  
出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者及法定代理人

二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨

**第三百六十八條** 準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス

**第三百六十九條** 第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記  
ハ訴訟記録ニ控訴狀ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付ス

第三百七十九條

第一審ニ於テ爲シタル訴訟行為ハ控訴審ニ於テモ其ノ效  
力ヲ有ス

**第三百八十條** 第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力  
ヲ有ス

**第三百八十一條** 控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所カ管轄權ヲ有セサ  
ルコトヲ主張スルコトヲ得ス但シ專屬管轄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

**第三百八十二條** 反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ  
得

相手方カ異議ヲ述ヘスシテ反訴ノ本案ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ  
提起ニ同意シタルモノト看做ス

**第三百八十三條** 不合法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサル  
モノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコト  
ヲ得

**第三百八十四條** 控訴裁判所ハ第一審判決ヲ相當トスルトキハ控訴ヲ棄却  
スルコトヲ要ス

判決カ其ノ理由ニ依レハ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナ  
ルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

**第三百八十五條** 第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テノミ之ヲ爲ス  
コトヲ得

**第三百八十六條** 控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消ス  
コトヲ要ス

**第三百八十七條** 第二審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シタルトキハ控訴裁判  
所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス